

千葉県建築学生賞出展者の会 なの花会

「なの花会」はこれまでの千葉県建築学生賞（旧千葉県建築三会 / 四会学生賞）に出展したOB/OG の同窓会組織として誕生しました。

現在は、学生賞大会が最初に開催された 29 年前の出展者から現役の学生まで、出展者の大学や世代を越えた幅広いメンバー間の豊かな繋がり、交流を目的として活動しています。

毎年行われる千葉県建築学生賞大会では、運営のサポートや審査にも関わっております。

第 29 回大会（以下、今大会）の公開審査では、審査委員として皆川拓氏（第 19 回出展 / AE5partners）、西山芽衣氏（株式会社マイキー）、コーディネーターとして関谷和則氏（第 6 回出展 / 竹中工務店設計部）の 3 名を派遣し審査に関わらせて頂きました。

第 27 回大会からは、「はなの花会」の全員が選ぶ「なの花会賞」が設立され、今大会では西田安希さんの『彩配置装置』が選ばれました。

毎年の大会公式ポスターの製作は過去の出展者からデザインアイデアを募るコンペ形式で製作されています。今大会のコンペは、高校の部の出展者にも枠を広げおこない、最優秀案には第 28 回高校の部出展の金成朋貴君（千葉県立京葉工業高等学校卒）のデザイン案が採用されました。

ポスターは、出展者の想いをシャボン玉にのせ、広く多くの人に届けたいという思いを淡く明るい雰囲気で表現されています。

「なの花会」では以上の様な活動に加え、メンバー主催の講習会や建築の見学会、個々の仕事の情報交換などを積極的に行っております。

このような活動を通じてメンバー同士の交流を深め、個々のスキルアップに繋げることができるのが「なの花会」の魅力です。

次の大会で千葉県建築学生賞大会は、30 回という大きな節目の大会になります。

「千葉から巣立つ学生にエールを送る」という趣旨で設立された千葉県建築学生賞、そこから生まれた「なの花会」。これからも価値ある人々の繋がりを育む場となり、引き続き活発な活動を行うことができれば幸いです。

（なの花会会長／第 1 回出展 岡松利彦）



第 29 回 千葉県建築学生賞作品集
2017

一 大学の部 一

笹川 雄基	日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科
藤本 貴成	東京電機大学未来科学部建築学科
山下 麟太郎	千葉大学工学部建築学科
濱嶋 杜人	日本大学理工学部海洋建築工学科
手塚 千陽	千葉工業大学工学部デザイン科学科
野田 寛敏	東京電機大学未来科学部建築学科
蒲生 良輔	日本大学理工学部海洋建築工学科
香取 裕之	千葉工業大学工学部建築都市環境学科
佐藤 康行	東京理科大学理工学部建築学科
廣部 澄	千葉工業大学工学部デザイン科学科
小熊 透太	日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科
西田 安希	千葉大学工学部建築学科
杉山 未沙	日本大学生産工学部建築工学科
鈴木 寿明	千葉大学工学部都市環境システム学科
上杉 信介	千葉大学工学部都市環境システム学科
河鰐 公晃	東京理科大学理工学部建築学科
井手 優汰	日本大学生産工学部建築工学科
駿河 洋子	千葉工業大学工学部建築都市環境学科

一 高校の部 一

田中 琴音	千葉県立市川工業高等学校
伊藤 涼太	千葉県立市川工業高等学校
磯 韶貴	千葉県立市川工業高等学校
大沢 幸助	千葉県立京葉工業高等学校
伊藤 駆	千葉県立市川工業高等学校
秋元 澄伽	千葉県立市川工業高等学校

第 29 回 千葉県 建築学生賞 作品集



作品展示

2017年3月10日（金）9:00-19:00
 3月11日（土）9:00-19:00（公開審査 9:30-18:30）
 3月12日（日）9:00-17:00（表彰式・懇親会 13:15-17:00）

展示会場

Qiball（きぼーる）1階アトリウム広場
 千葉市中央区中央 4-5-1 tel:043-308-0380

主催

千葉県建築学生賞協議会
 公益社団法人 日本建築家協会（JIA）関東甲信越支部千葉地域会
 公益社団法人 千葉県建築士事務所協会
 一般社団法人 千葉県建築士会
 一般社団法人 日本建築学会関東支部千葉支所

後援

千葉県、千葉県教育委員会
 千葉市、千葉市教育委員会
 NHK千葉放送局
 千葉県ケーブルテレビ協議会
 朝日新聞千葉総局
 読売新聞東京本社千葉支局
 毎日新聞社千葉支局
 産経新聞社千葉総局
 日本建設新聞社
 日刊建設工業新聞社千葉総局
 日刊建設通信新聞社東関東支局

開催のご連絡とご挨拶	04
審査総評	06
大学作品	08
審査結果	44
大学作品リスト	
審査結果・市民の声・なの花賞	46
高校の部 審査総評	50
高校作品	52
高校作品リスト	
審査結果・市民の声	64
審査委員プロフィール	66
市民アンケート	69
協賛団体	70
主催団体	71
なの花会紹介	72 (裏表紙)

開催の報告と挨拶



千葉県建築学生賞協議会 会長 神成 健

30回へつなぐ

29回目を迎えた「千葉県建築学生賞」、今年は大学の部に6大学9学科17作品（残念ながら当日体調不良で出展できなかった作品が1点）、高校の部へ2校から6作品が出展されました。会期中は幸いなことに穏やかな天候に恵まれ、3月10日の一般公開に始まり、11日の公開審査、12日は高校生のプレゼンテーションおよび表彰式が明るい日差しの差し込む“きぼーる”的アトリウム広場にて行われました。毎年、当たり前のように参加者や市民の方々も含めた多くの聴衆の前で行われる公開審査の歴史は比較的浅く、2009年から始まり今回で9回を数えます。

審査は社会で建築設計の実務を行っているプロの設計者の目により公平な評価を行うことを通じて、秀でた作品を表彰するとともに、社会に巣立つ学生たちにエールを送ることを目的としています。最優秀1点、優秀2点に加え特別賞2点を選出するのに加え、全出展作品の中から3作品を（公社）日本建築家協会（JIA）主催の「全国学生卒業設計コンクール」へ千葉県代表として作品を送り出す選

考会も兼ねています。さらには来場された市民の方々の目によって選出される「市民賞」があり、2年前からは先輩出展者の集まりである「花会の投票による「花会賞」も設けられました。

参加者みなが納得のいくような審査プロセスや展示方法などに毎年改良を加えられてきましたが、賞というものは選択する側が変われば見る視点も当然変わってきます。公開の場に作品を展示し、プレゼンテーションを行い、多様な作品のテーマを読み込み、複数の審査委員と学生間で意見交換や討議を行うプロセスを通して、うちに評価軸が複数あるからこそその面白さや難しさが浮かび上がります。

今回もダントツに飛び抜けた案はなく、皆さんの作品は拮抗していました。コーディネーターによる進行の元、新たなメンバー3名を迎えた計8人の審査委員による公開審査は、1次審査のプレゼンテーションと各ブースを巡回しての質疑応答、2次審査の討議を経て8作品に絞り込んだ後、模型を移動し3次審査にての決戦と僅差での投票や挙手にての決戦を繰り返すという状況の中進められました。朝9時半から始まり夕方6時過ぎまでに渡って行われた審査は今

も密度の濃いもので、新たな審査員も会の趣旨を理解し、学生の熱意に十分な手応えを感じられたのではないでしょうか。

今年度も県・市をはじめ報道機関の後援と建築4団体および千葉県内外70以上の企業および個人の方々から協賛をいただき、この事業が開催されました。後援並びに協賛をいただきました皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げます。この千葉県建築学生賞は、ご協力いただいた建築業界にかかる様々な方々の支援に加え千葉県内の建築関連主催4団体から出向された50名を超える委員メンバーのボランティア運営により成立しています。貴重な時間をさいて協力いただいたメンバー諸氏にも感謝します。参加された学生の皆様にはこの会を一つのよい経験として、その若い創造力を存分に発揮し今後建築界の次世代を支えていかれることを期待します。我々スタッフ一同は次年度で30回という大きな節目を迎える千葉県学生賞が皆さんの記憶に残る卒業設計コンクールであり続けていくよう、さらに努力を重ねていきたいと思います。



審査総評



千葉県建築学生賞協議会 審査委員長 中野正也

「可能性を汲み取り、評価する」ということの難しさ

作品が秘めている可能性を敏感に汲み取り、評価するということが難しいと、改めて感じた今年の審査会であった。

今年の審査は各大学（6大学9学科）から選りすぐりの17作品が集結した。東日本大震災以降しばらくは、学生の作品（傾向）への影響が顕著だったように感じたが、6年が経過しテーマ設定についても良い意味で選択の自由さが戻ってきたように思う。テーマ設定や作風の全く異なる多種多様な作品を（いちおう共通の評価項目を設定して審査をするのであるが）同じ土俵で比較し、評価するのは改めて難しいと感じた審査であった。「社会が抱える問題に対する提案型の作品」「新しい建築（空間・システムなど）の力技的な作品」、「地道なりサーチとともに調査＆提案型の作品」、「私的な興味、関心などをテーマを扱った空間作品」などである。その中で最優秀に選ばれたのは「思いを受け止め、届ける（13）」という作品であった。作品に関する講評は各担当委員にお願いするとして、最優秀に選ばれたこの作品は、審査中盤からの得票数が他の作品に大きく差をつけていたことからもわかるように、審査員の中で反対意見がでることなく、順当に決まった作品である。個人的にはこの作品に対して最初の印象が「私的」な想いを込め表現した



作品に感じてしまい、なかなか共感には至っていないかったのであるが、議論を進めていくなかで理解が深まり、最終的には評価した作品である。

優秀賞に選ばれた「無窮洞 - 戸尾防空壕更新計画（3）」と「協奏するショッピングウォール（16）」については、扱っているテーマはそれぞれ異なる作品で、両作品ともに完成度の高い力作であった。しかしながら、どちらの作品も既視感が拭えず、完成度の点を考慮しても、最優秀に推すには至らなかった。

これらの3作品についてはJIA全国大会への出展が控えているので、ぜひよりいっそうのブラッシュアップをしてもらい、全国大会での検討、良い結果を大いに期待したい。

特別賞の作品のひとつ「身体からの学び（9）」については、委員によって評価が分かれた作品であったと思う。こういう空間をやりたいという作者の気持ちもわからなくなれば無いし、そこに注ぎ込んだエネルギーも感じることはできた。だがしかし、どうしても「面白い」という印象を超えての「共感」には至らなかったのが特別賞という結果にとどまった理由であろう。

特別賞のもう一方の「彩配置装置（12）」については、個人的に最も評価し推した作品である。着目した点とその展開がとてもユニークで「発展の可能性」、「影響を与える可能性」を最も感じた作品である。一方で理解するのがとても難解な作品であり、

我々審査員（全員）が共感するには、もう少し時間が必要だったの

かもしれない。

その他、奨励賞作品で気になった作品がある。「職住共存から生まれるまちの豊かさ（5）」である。

この作品についてはもう少し議論・評価すべきであった作品であったと（今更ながら）思う。リサーチからの提案型作品としての宿命ではあるが、どうしてもインパクトが無い（自説する）為、こういった場では他の力作に埋もれて、なかなか目に付きにくい。しかしながら、こういう「虫の目」による調査からの「部分（提案）が連担してつながっていく全体」という作品は大きな可能性を持っていると思う。ぜひ後継作品に期待したい。

「千葉県建築学生賞」は今年で29回目を迎え、私が出展させていただいてから早いもので20年もの歳月が経過した。たしか第21回目から公開審査という形式になり、その時から審査などの委員として千葉県建築学生賞に関わらせていただいている。この9年間、学生の作品を見てきたが、審査（結果）とは関係なく、自分自身が最優秀に推したい作品はほぼ初見で決まっていたように思う。しかし今年に関しては、正直悩んでしまった。審査・投票経過に記載の通りではあるが、最終的に最優秀に推した作品は特別賞にとどまる結果となり、個人的にはその点で少し悔いの残る審査ではあった。とはいえ、審査全体は、学生へのヒアリングや意見交換、審査委員同士の議論を経て、丁寧で濃密な審査ができたと思う。

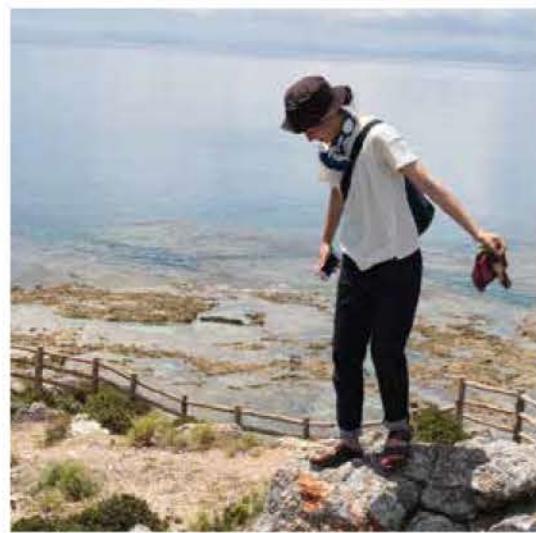




最優秀賞

JIA 全国大会出品

2017年6月24日に行われました「JIA全国学生卒業設計コンクール」において、"銅賞"を受賞しました。



思いを受けとめ、届ける

手紙にふれることで心に近づく空間を作りたいと考えた。聴き、思い、考え、書き、消し、また書き、折り、歩き、届ける。一通の手紙を出すためにたくさんのことがあり、時間もかかる。しかし、そのひとつひとつはちょっとだけ心を豊かにするのではないだろうか。出すことのできなかつた思い、心、もの、ことを受けとめる器のような郵便局を計画する。

山梨県、四尾連湖は大きな生き生きとした自然の中にポンとある静かな湖。三方山に囲まれたその地形は、手で包み込んだ掌のよう。その手の中にゆっくりと近づくことで、そっと心に寄り添う場を考える。ここにきたあなたの思いは、いつの日があなたの心に届く。

杉山 未沙

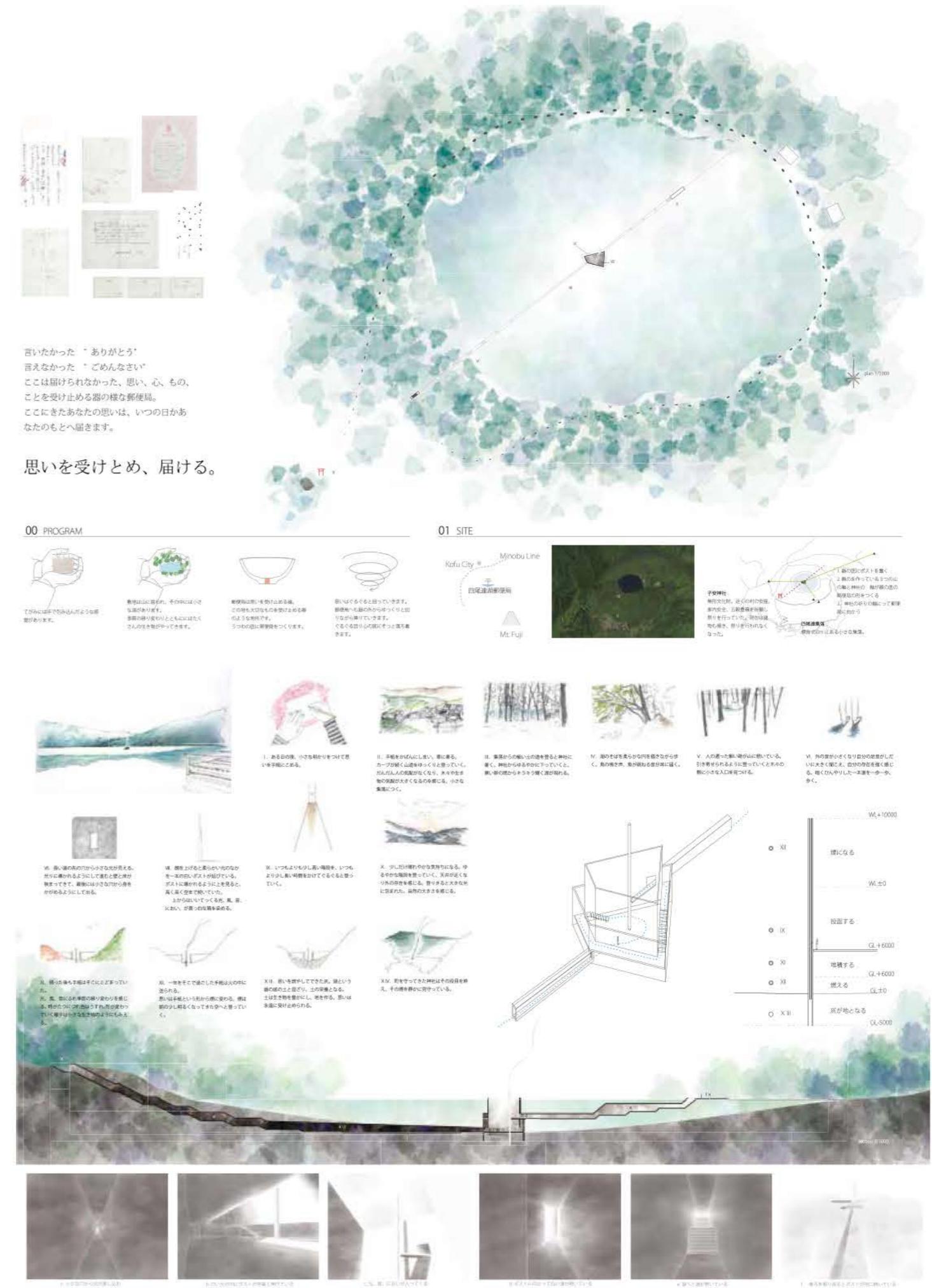
すぎやま みさ

日本大学生産工学部建築工学科

言葉には不思議な力がある。文字が発明されて何千年もの間、ずっと続いている文化が「手紙」である。なかでも人間の息遣いが感じられる「直筆の手紙」は心を揺さぶられる。作者の着眼点は、投函を含む「手紙を巡る行為」に焦点をあて、行き過ぎたデジタル社会に警笛を鳴らしつつ、それを、建築を巡る行為に落とし込んでいることである。それが人生の重要な1ページになることを示唆し、物語としての建築はもちろん、その空間の質の可能性を無限大に広げる素晴らしい提案である。山梨県四尾連湖の湖底につくる郵便局。湖底に導く理由は、人生を根底から見つめ直すうえでは、一旦、器の底から



審査員：鳴海 雅人



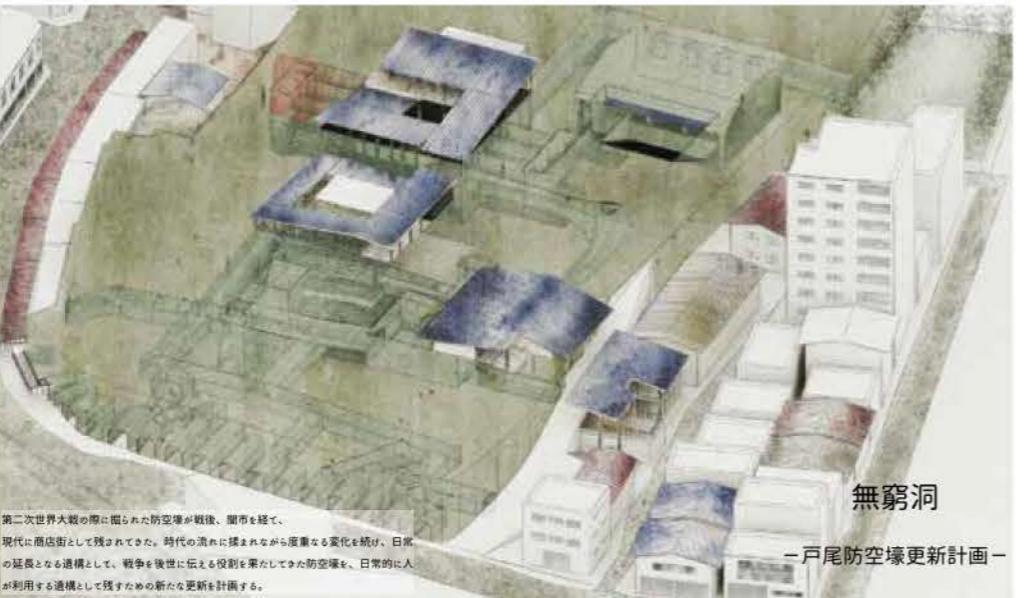
2017年6月24日に行われました「JIA全国学生卒業設計コンクール」において、"一次通過者"となりました。



山下 麟太郎

やました りんたろう

千葉大学工学部建築学科



第二次世界大戦の際に描かれた防空壕が戦後、闹市を経て、現代に商店街として残されてきた。時代の流れに揉まれながら度重なる変化を経て、日常の延長となる造構として、戦争後に伝える役割を果たしてきた防空壕を、日常的に人が利用する造構として残すための新たな更新を計画する。

■対象敷地：長崎県佐世保市戸尾防空壕



■戸塚防空壕の歴史：変化を受け入れる防



三の發の圖



■全体構

断面構成：高低差をつなぐように穴を掘



平面構成：NPO の活動が町をつなぐ

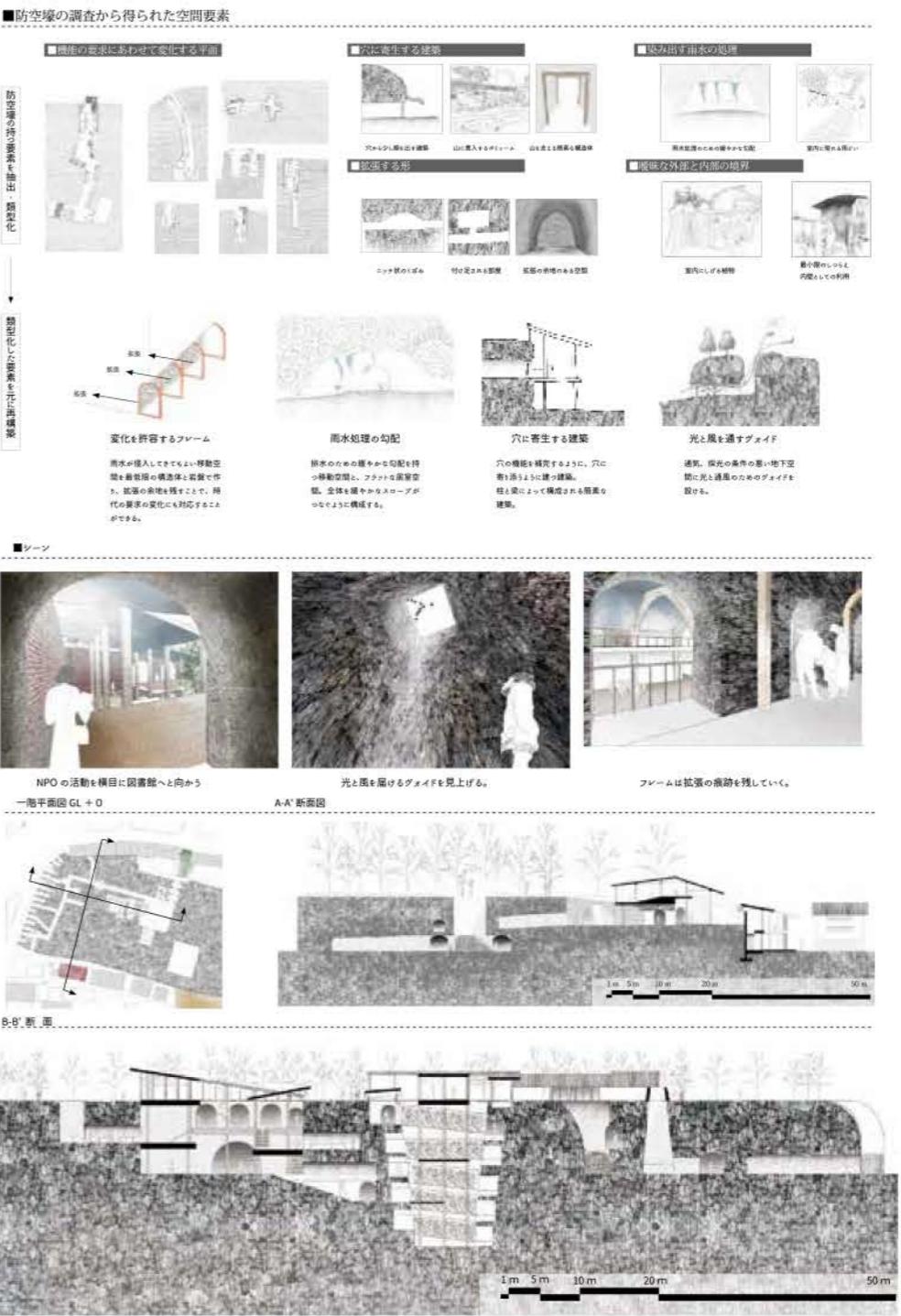


きゅうどう
無窮洞

戸尾防空壕更新計画 -

第二次世界大戦の際に掘られた防空壕が戦後、閻市を経て、現代に商店街として残されてきた。

代の流れに揉まれながら度重なる変化を続け、日常の延長となる遺構として、戦争を後世に伝える役割を果たしてきた防空壕を、人々の生活に根ざした遺構として残すため新たな段階を計画する。



長崎県佐世保市にある防空壕の再生利用計画。対象場所は佐世保市街地にあって、おおよそ 30 m × 70 m で高さ 10 m くらいの小高い丘。周囲は商店街が取り囲むように存在し、言わなければこの下に防空壕跡地があることが分からい様なロケーションである。防空壕はトンネル横丁として使われていたことや周辺環境や地域特性をよく調べて考えられた計画である。前回大会では防空壕をそのまま保存し戦争の惨状を訴える作品があった。だがこの作品はまったく違ったコンセプトで、市民が終戦後も生活の場として利用してきた防空壕を歴史、文化としての価値を見つけ、遺構として再利用しようとするもので、そのプログラムが高く評価された。計画のち密さ、繊細な表現力も抜きんでいて、洞窟空間の見せ方や、地下空間と地上部へのつながり、周囲の商店街との連続性や発展性などの考えもいい。ただ、トンネル横丁などの再生をもっと生かした提案が欲しかったことと、小高い丘に掛けられたボリュームある屋根がこの計画の意味を薄めていることが残念ながら指摘された。とは言え素晴らしい卒業設計であることは間違いない、今後は繊細な感性を生かして貪欲に建築を学んで欲しいと願う。

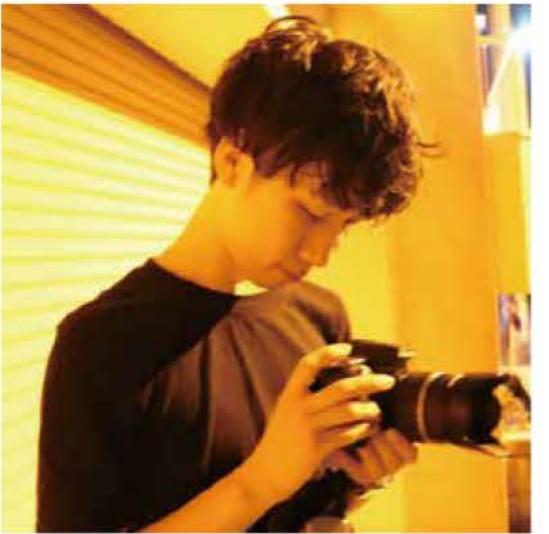


審查員：飯沼 竹一

優秀賞

JIA 全国大会出品

2017年6月24日に行われました「JIA全国学生卒業設計コンクール」において、「審査員賞(青木賞)」を受賞しました。



河鰐 公晃

かわばた きんてる

東京理科大学理工学部建築学科

協奏するショッピングウォール

現在、地方都市に多く見られるようになったショッピングモール。これらは、地方都市に新たな風景を作り出された。しかし、これらがもたらす均質な購買体験と単調な空間体験に疑問を感じる。一方、人が多く集まる現状に公共空間としての可能性を感じる。これらの地方都市における新しい買い物の仕方とそのルディングタイプを提案する。

01.郊外の買い物

地方都市にはショッピングモールが多く存在する。これらは、経済的合理性のもと空間構成がなされており、空間が均質的である。流動的なモールには「**併んだり**」、「**とどまる**」といった心地よさは感じられない。概ねの人は満足できる程度のコンテンツを内包しており、みんなが少しづつ賑うことで団結立つ。このことが「**ファスト風土化**」の一の要因である。一方で人が集まっている光景に、**公共空間**としての可能性を感じる。

02.これからの地方都市における商業空間

NEW
地方都市において新たな価値を生み出す商業施設が必要だと感じる。それは、文化を捉え、地方都市のライフスタイルを変えていく街のリビングのような場所である。

03.ショールミングストアの可能性

・ショールミングとは
ショールミングによる変化
SHOP existing ZARA
NEW new contents OSOS JINS
ショールミングストアにすることによって、在庫を持たなくてよくなる。それによってできた余白の部分に地方都市では体験できなかった**新たなコンテンツ**をいれることで文化更新を図る。また**店舗的空間**を拡大することで買い物活動を移すことができる。今までのテナントの概念とは異なり、この場所での売り上げが関係ないので、美術館の展示物を交換する感覚でテナントを更新することができる。高級ブランドも地元の人々が作ったもの等価に扱うことができるため、様々なアクティビティを誘発することができる。

04.敷地

愛知県刈谷市
刈谷市の主要駅として利用される刈谷駅からほど近いロードサイドの敷地。車での外出が多いこの街において買い物に適した敷地であると考える。

協奏するショッピングウォール

どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。

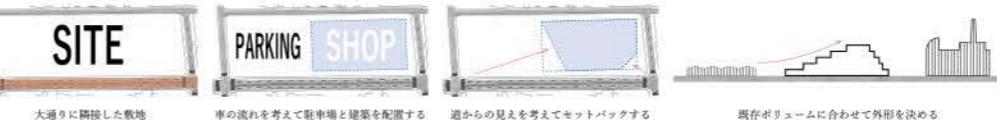
智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。とかくに人の世は住みにくい。意地を通せば窮屈だ。智に働けば角が立つ。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。山路を登りながら、こう考えた。

智に働けば角が立つ。とかくに人の世は住みにくい。情に棹させば流される。どこへ越しても住みにくいと悟った時、詩が生れて、画が出来る。智に働けば角が立つ。とかくに人の世は住みにくい。山路を登りながら、こう考えた。山路を登りながら、こう考えた。とかくに人の世は住みにくい。山路を登りながら、こう考えた。意地を通せば窮屈だ。山路を登りながら、こう考えた。情に棹させば流される。住みにくさが高じると、安い所へ引き越したくなる。

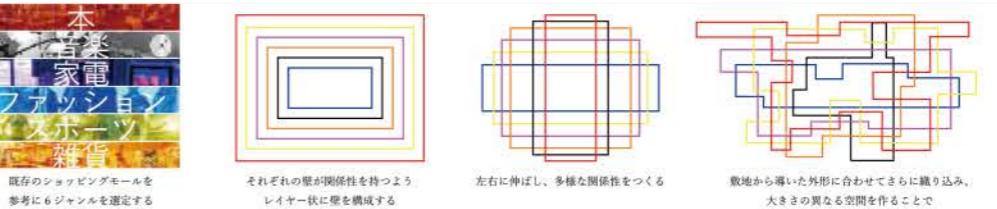
05.空間コンセプト



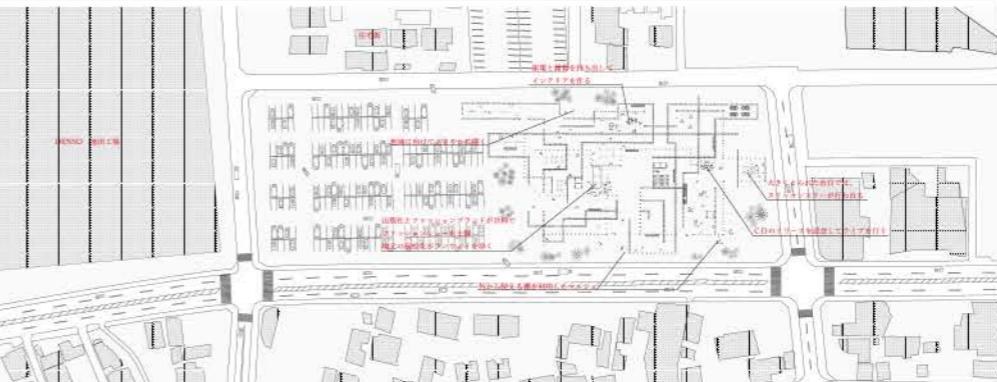
06.空間構成



07.平面ダイアグラム



08.平面図



09.シーン



現在、地方都市で多く見られるショッピングモールは、新たな風景を作り出した。均質な購買体験と単調な空間体験には疑問を感じるとしている。ショールミング（現物が展示され、購入はインターネット等の利用にて行う）という新しい買い物の仕方に着目し、地方都市における新しいビルディングタイプを提案している。壁に機能を持たせ、平面プラン、外壁の在り方に新しい機能性を持たせている。建物中央に大きな吹き抜け空間を設け、広場としてのモールを位置づけている。現在のショッピングモールの在り方に疑問を感じ、より開放的で、より活動的な展示空間を模索している。この場所を通じて人々の買い物に対する概念が変わり、買い物とのかかわり方が変わっていくとしている。身近な問題点に着目し、現在のショッピングセンターに見られる閉鎖的な外部との空間を仕切るだけの外壁デザインに 対し、新しい壁の在り方を模索し、デザイン性と機能性を持った壁として提案している。



審査員：園部 隆夫

特別賞



佐藤 康行

さとう やすゆき

東京理科大学理工学部建築学科

世の中は優しさで溢れかえっている。ひとつの見方に過ぎないが、行き過ぎたユニバーサルデザインは、ひ弱な心、ひ弱な身体をつくりだす。つまり、多くを考えなくとも障害なく生きていける環境ができてしまっていることに起因する。作者は、「身の回りのモノが利便性や効率性を重視し、人間は受動的行動を制限されている。身体と空間の関係性の認識が希薄化している」と問題提起した。この解決を建築で応えようと試みた挑戦的かつダイナミックな提案である。身体感覚を鍛える空間体験を通して、経験と気づきの場づくりを目指し、至みんじゅつ

身体からの学び

日常生活でタンスの角に足をぶつけることがあるように人間は自分が空間に対して知覚的に身体を動かす事ができなくなっている。これらは建築の均質化された水平、垂直な空間が原因の一つである。日常に潜む空間で“身体と空間の関係性”を意識的に捉える事が困難になり身体の意識と空間にズレを生んでいる。すなわち“身体と空間の関係性”的認識が希薄化していると考える。身体感覚を鍛えるには空間体験によってのみしか得られない。これらを経験し訓練の場とした宿泊施設を計画する。日常的な生活の中に非日常的感覚を空間に反映させ、滞在することで体験し人の心と体を繋ぐ役割を担うものの提案である。



審査員：鳴海 雅人

身体からの学び

人は視覚的情報を頼りにしているせいだと考へず行動している。五感をすることで知覚的な行動を教し、人の心と体を繋ぐ訓練の場として身体から空間を学んでいく。

提案

身体感覚を鍛えるには空間体験によってのみしか得られない。これらを~~経験~~気づきの場とした宿泊施設を計画する。日常的な生活の中に非日常的感覚を空間に反映させ、滞在することで体験し人の心と体を繋ぐ役割を担うものである。

手がかり

- ①身体の重心を意識した平衡感覚
- ②スケールの違いによる空間認識
- ③ストラクチャーの安定性
- ④ダイアグラム

身体と空間の関係性

日常生活でタンスの角に足をぶつけることがある。無意識に避けていたりそのまま踏んでしまう。一方だけではなく何度も。人間は自分が空間に対して知覚的に身体を動かす事ができなくなっている。つまりは考えないのである。身の回りのモノが利便性や効率性を重視し、人間は受動的に行動を制限されている。これにより慣習が生まれてしまっている。これらは建築の均質化された水平、垂直な空間が原因の一つである。日常に潜む空間で“身体と空間の関係性”を意識的に捉える事が困難になり身体の意識と空間にズレを生んでいる。すなわち“身体と空間の関係性”的認識が希薄化していると考える。

身体の認識

身体を考える時に距離でモノの認識を身体を取り巻く世界には様々な尺度がある。モノのスケール感が強化されると人間はモノの大きさを認識できない。また小さすぎても認識不可能になる。しかしこれが視覚的な認識であり、身体スケールが多い場合視覚的によって空間が認識されることが多い。身体における五感を活用して新たな身体感覚を作らせる事で身体と空間にズレを生ぜることができるのではないかと考える。

平面図

1F パークレーストラン
10F 大浴場
9F 大浴場
8F 宿泊
7F 宿泊
6F 宿泊
5F 宿泊
4F 宿泊
3F レストラン
2F レストラン
1F パーク

断面図

A-A' Section: 断面図を斜めに取ることで異なる曲率のスラブ面が現れる。

B-B' Section: 断面図を直角方向に取ることで複数のスラブ面が現れる。

展開断面図

エントランスからレセプションへチェックインを済ませながら宿泊の準備に入る。
ロビーには人が滞り、自分の居心地の良い場所を探している人がたくさんいる。
上スラブは最も広く、広い空間の開放感をもたらす。
今日泊まる部屋へはスロープを使って登る。床全体を使って登る。
途中に子供が遊べるスペースもある。
廊下には家具の大木から下がり木の内装によって身体の使い方を学んでいく。
階段は大空階があり、斜めの壁によって間が狭まっている。
ここまで来るのに無理難題を使っていたら、周辺環境を体の動作が取り戻す。

特別賞

の花賞



西田 安希

にしだ あき

千葉大学工学部建築学科

この作品は、マレーヴィチの絵と都市の相似性を感じ取ったことから始まっている。

そして、シュプレマティズムの絵画を構成する要素を建築に置き換えた感覚装置を、都市に配置することで、人々の日常と都市の風景の新たな関係を創出しようとした作品である。

新たな「気づき」を発見することで、内にしまわれた感覚が外在化され、ありふれた都市空間を別のものとして共有すること、それは、シュプレマティズムに表現されている絶対的抽象性の建築化というよりも、風景を感じ取れる視点を生み出すランドスケープデザインの感覚に近いと感じた、そして共感するところである。

一方、極度に抽象化された形を、具体的な建築空間に置き換える観念的な形態操作については、疑問が残った。一般的に建築は、様々な機能的要件への応答とデザインのせめぎ合いの中で空間を創り上げている。その過程で一度、機能的な構成を解体し、人と人、人と場、人と環境・・・など複合的な関係を構築し、再構成することが現代建築の本質であると考えるが、そのプロセスにこの形態操作をどう落とし込むのか、あるいは抽象性と感覚の関係を如何に空間化するのか、もう少し掘り下げる提案を見てみたかった。作者のこれから格闘に期待したい。



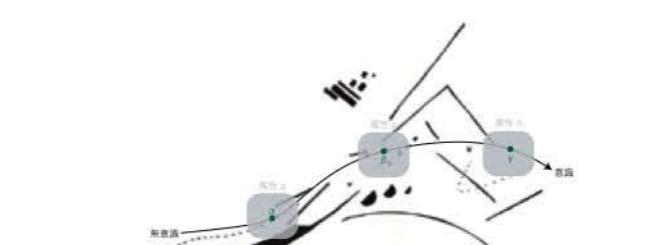
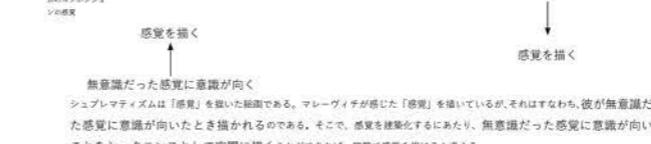
審査員：安田 俊也

彩配置装置

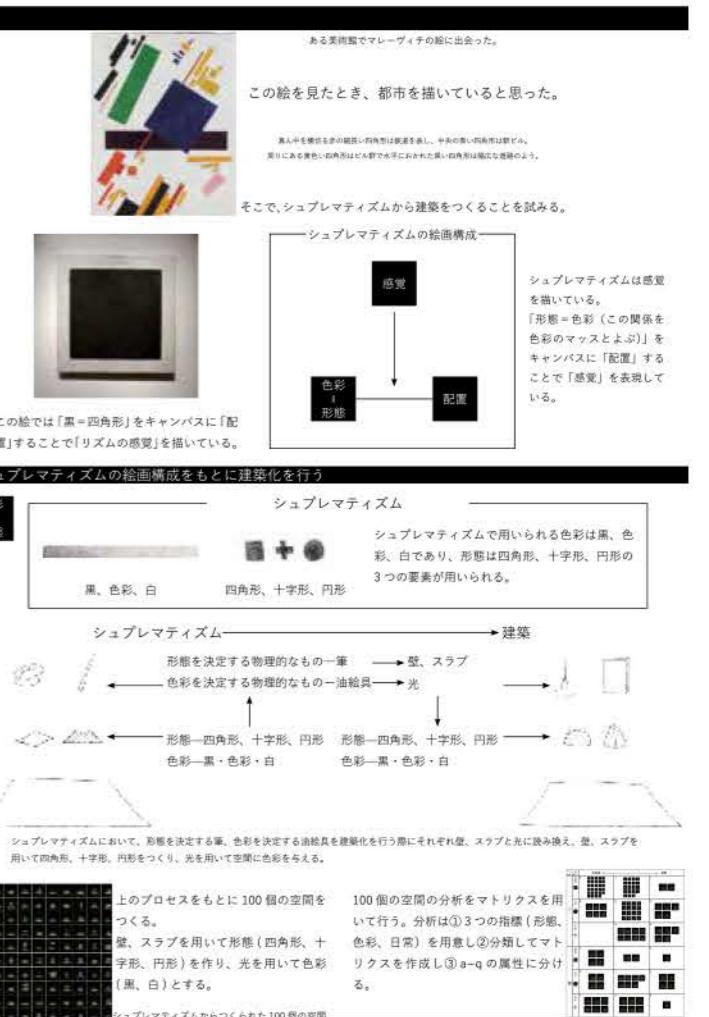
ある美術館でマレーヴィチのシュプレマティズムの絵を見たとき、平面図や断面図、パースを描いているように見えた。シュプレマティズムは建築と関係があるのでないかと思いシュプレマティズムから建築をつくることを試みた。



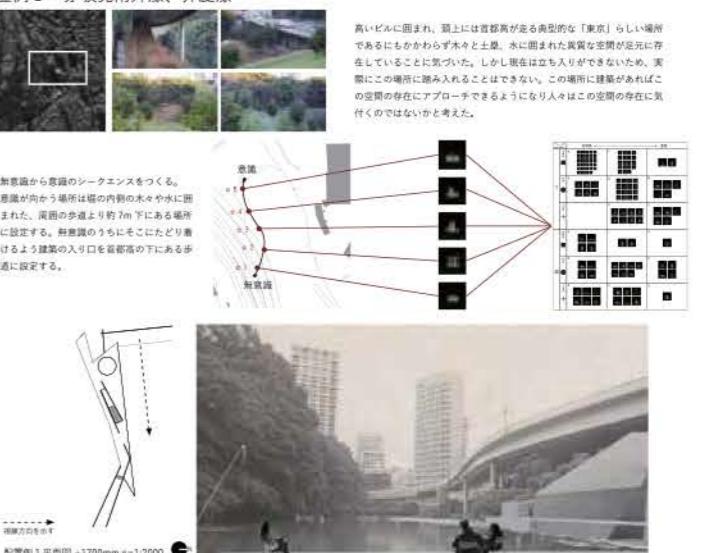
配置 シュプレマティズム → 建築

配置 シュプレマティズム → 建築
感覚

以上の手順から、シュプレマティズムの建築化を行う。シュプレマティズムからつくられた建築を感覚装置と名付ける。感覚装置を都市においてみる。都市に感覚装置を置くことで今まで意識しなかった場所に意識がいくようになり、今まで通り過ぎていた場所に気づくようになる。都市が自身の中で彩られていく。



配置例 1：赤坂見附外濠、井慶園



配置例 2：都営地下鉄三田線、芝公園駅





蒲生 良輔

がもう りょうすけ

日本大学理工学部海洋建築工学科

結い留める水田

1. 水田の成り立ちと現代

水田は土砂崩れ地を耕し、土を固め、水を溜め、浄化し、ゆっくり流しながら食料を生産する習みである。そのシステムは簡略的で1000年以上続いてきたサイクルである。しかし現在では農業の衰退、水田の放棄が進み、地すべり危険性が発生している。水田は食や産業、水資源という観点から非常に貴重で守るべきものである。

2. 地図

東京から最も近い棚田として有名な「大山千枚田」には、都会からの交流があり、水田を守る上で重要な拠点と言える。しかしその裏山は荒れており、地すべりの危険性をはらんでいる。ここに土木的操作によって山を守り、建築的操作によって人と水田、農業を繋げる提案をする。

3. 建築構成

1. 崩れの危険のある裏山。全面は駐車場である。裏山は荒れており、水田に危険がある。
2. 安全を確保するために擁壁が必要であるが、それだけでは景観が失われ、人が歩くことも守られる水田を未来へ残していくには。
3. まずは山に頼らぬボリュームに擁壁を調整する。
4. 人手で守られる風景である水田には、土木ではなく建築の空間を設える。擁壁をより軽く建築するための擁壁という建築要素で考えてみる。

5. マスター・プラン

放棄された水田や林野の増加は産業だけでなく、災害の危険性など二次的被害の危険性を高めている。これらの場所を人と自然共生の美しさ、農を経験する場として捉えた新たな自然経験施設、学習を利用して大山千枚田を中心にして町の農林業を活性化させる。

6. 各シーン

7. 一階平面図

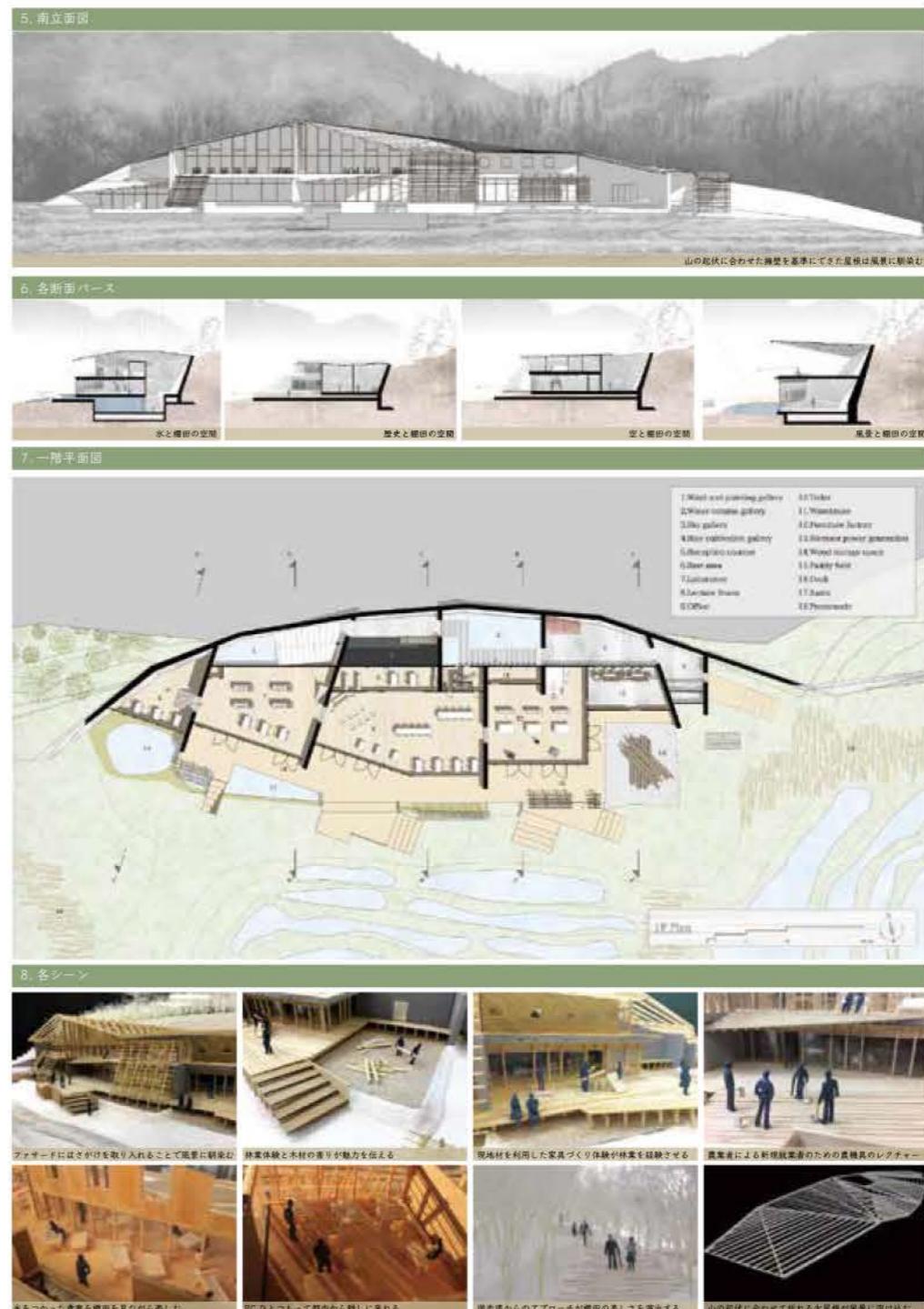
8. 各断面バース

9. 南立面図

結い留める水田

1000年以上にも及ぶ長い時間の中で築き上げられてきた水田の文化や生態系、水の循環はもはや人間の暮らしや自然環境にとって無くてはならないものとなってきている。しかし昨今、農業者の高齢化や後継者不足、輸入米などの影響により急速に山の水田は放棄地へと姿を変え始めており、土砂災害の危険性までも発生させている。

ここで日本の文化の塊ともいえる水田を未来へ守るために建築を提案する。場所は東京から最も近い水田である千葉の「大山千枚田」。ここは都市住民や学生の利用があり、外部発信のポテンシャルがある一方で、水田の裏山ではハザードマップに急傾斜地崩壊危険地とされている。土木的要素によって物理的に水田を守り、建築的要素によって人と水田を結び守る提案。



長い時間の中で築き上げられてきた水田の文化や生態系、水の循環は人間の暮らしや自然環境にとってなくてはならないものとなっている。しかし昨今、農業従事者の高齢化や後継者不足、輸入米などの影響で、急速に山の水田は放棄地へとなり、土砂災害の危険性までも発生させている。本作品は、千葉の「大山千枚田」を取り上げ、より人と水田を結び付けようとする施設建設の提案である。当該地が急傾斜地崩壊危険地に指定されていることから、山側に擁壁をもうけ、建物と一体化し、土木的要素で崩壊を防ぎ、建築的要素で人と水田を結び付けることにより、防災拠点、かつ風景になじんだ施設として提案されている。自然災害を防ぎ、そこに多くの人が呼び込むことにより、農業従事者の減少を少しでも食い止められるように、かつ自然災害の発生を防ぐことができるように、当該施設の活用を提案している。着眼点と現状分析及び対策案は高く評価できる。当該作品は市民賞を受賞している。



審査員：園部 隆夫

奨励賞



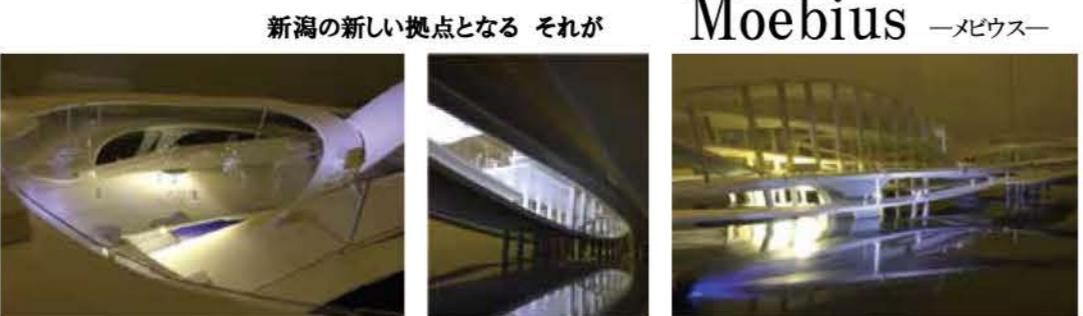
笹川 雄基

ささがわ ゆうき

日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科



信濃川の最も下流 目の前に広がる日本海



Moebius メビウス

- 新潟市の現状 -

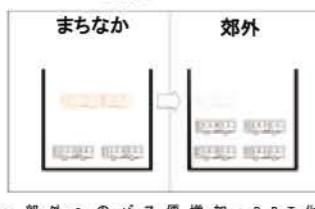
新潟市はH27年度から新しいバスの交通システムを導入した。目指していく取り組みとして、『運転手の減少からの効率化』『まちなかと郊外との移動しやすさ』『高齢化に伴うバス利用の向上』が挙げられる。

そこで、バスの経路が変わり、乗り換え拠点が次々に設置されていく。このように今の新潟市はバスをより公共的なものにするため『BRT』のバスがまちなかを走っている。

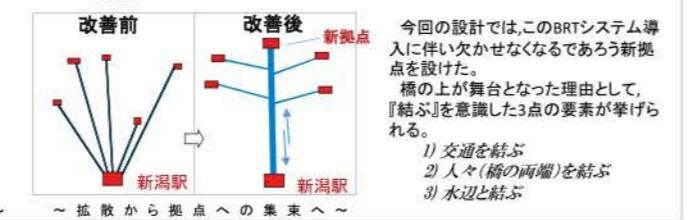
今回の計画では、この『BRT』のバスを通す経路を柳都大橋という橋に架け、そこに増設させた建築的空間を設け、[川の駅]をつくる。



-バス運行便-



-バス路線-



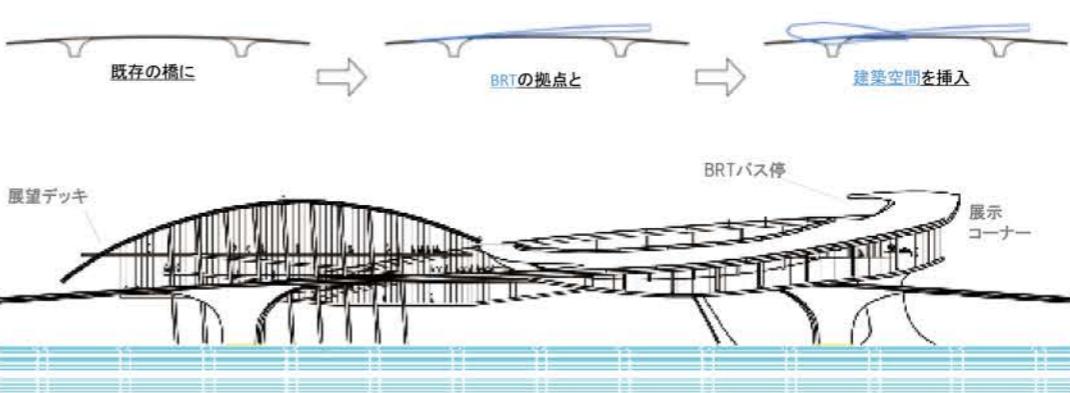
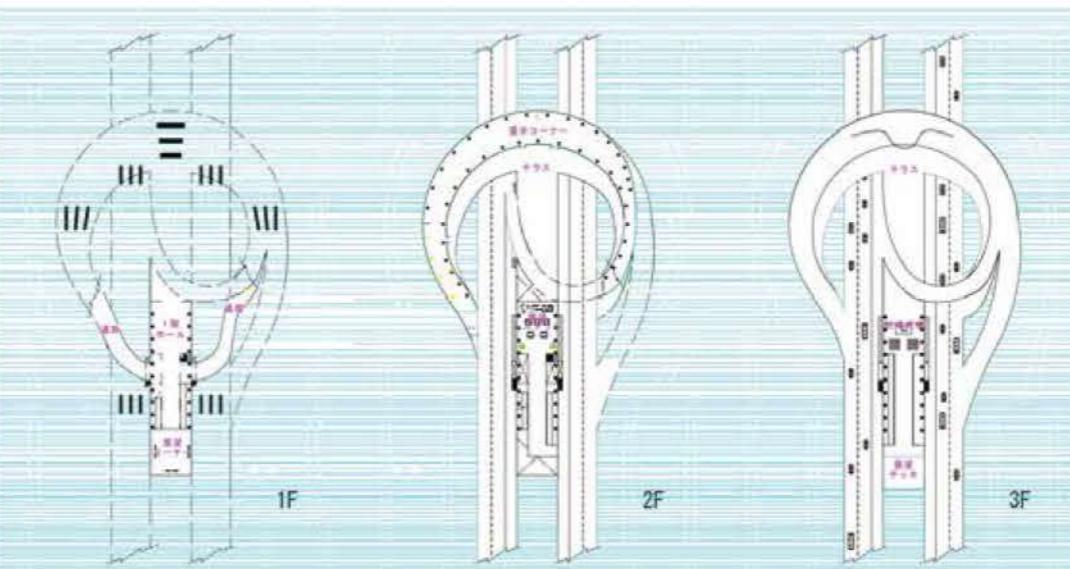
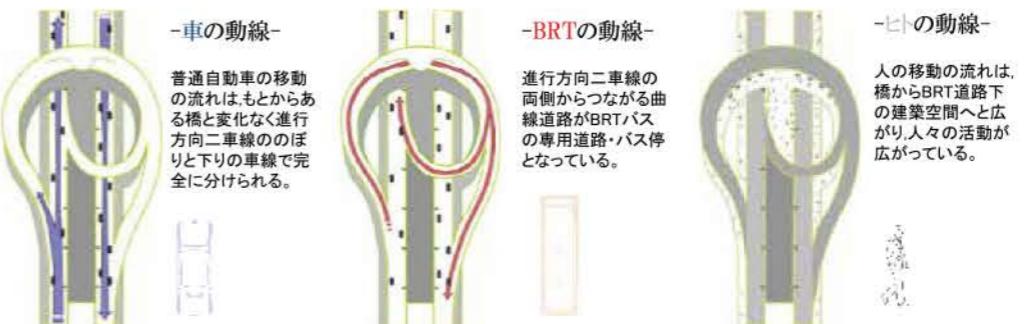
Moebius

結ぶ 新潟の 未来を ・むすぶ にいがたの みらいを

高齢化社会による環境の変化から新潟市では、自動車での移動が一般的であるが、このBRTの取り組みで、公共交通の利用度を促進させていく方向にある。そこでわたしがターゲットとして定めたのは、人口の増えている高齢者である。

特に昔からある新潟の文化、佐渡の文化に関連するような施設を設置することで、高齢者だけでなく、若者たちにも継承させていけるのではないかだろうか。

この文化の発信地を公共化するとBRTで行き来し、次の世代にも交通と文化を受け継ぐサイクルをめざした



新潟県信濃川下流、川で隔たれた二つの街をつなぐ場所に、地域の人々を繋ぐバスターミナルを計画している。

新しく導入されたBRTバスの交通動線を建築の形態要素として上手く取り込み、それを造形力豊かに表現している。

二つの街の接点となる場所はウェディング場や展示スペース、レストランが計画され、地域の人々の交流を意図して空間が構成されている。

交通動線がリボンの様に織り成す形状は美しく、柱や橋脚などの構造的要素にまで丁寧にデザインが考えられており、作者の建築的センスを感じる。

ターミナルからは信濃川の美しい風景、そして日本海を臨むことができ、そこから冬の雪景色や夏の花火を見るのは感動的なシーンであろう。提案で描かれる情景は豊かであり、新しい街のシンボルとなっている。

内部の機能や親水空間としてのあり方は課題として審査の中で浮かびあがったが、細かな計画を詰めることができればより良い案へと発展できる、大きな可能性を持つ秀作である。



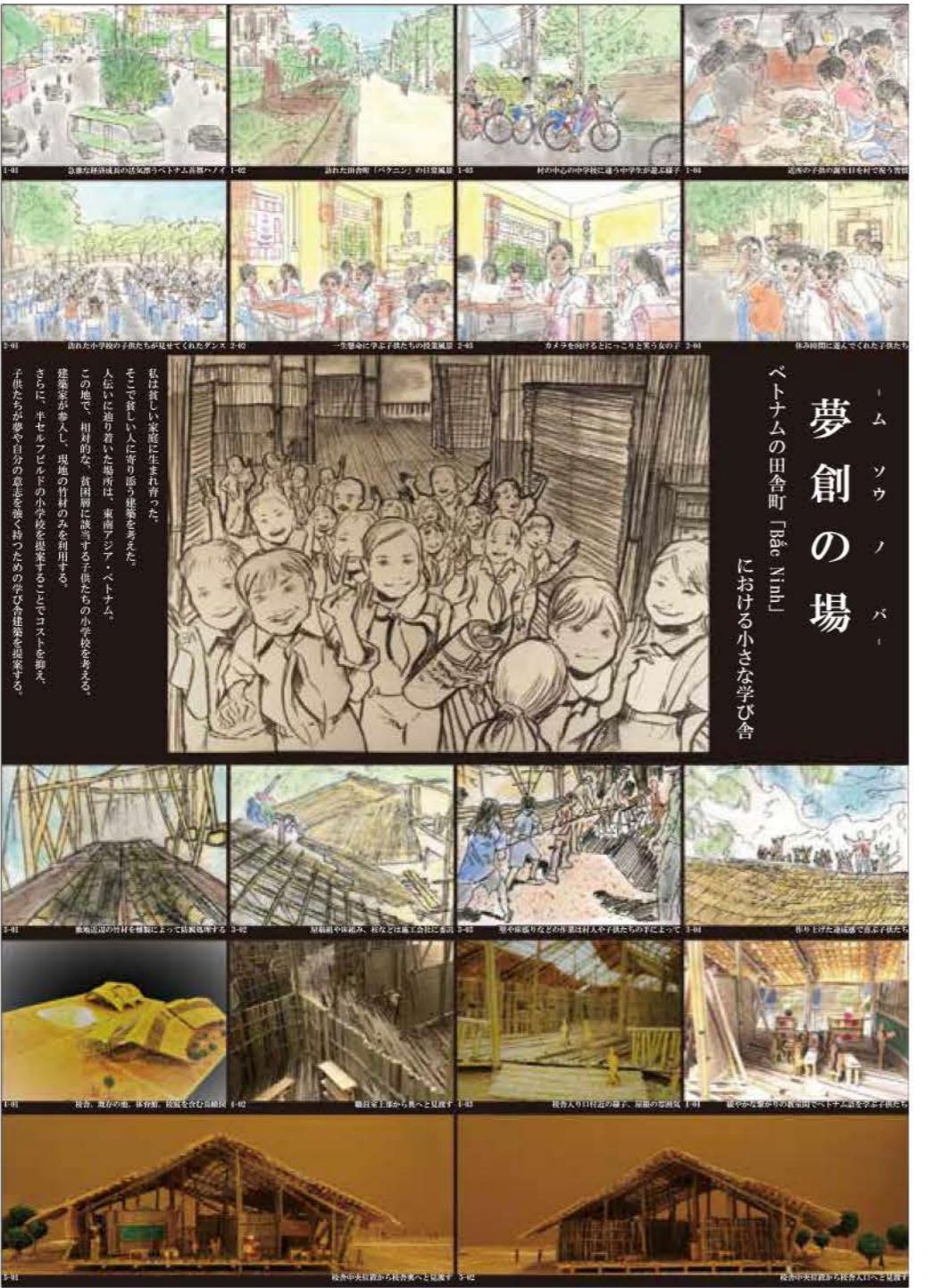
審査員：皆川 拓



藤本 貴成

ふじもと たかあき

東京電機大学未来科学部建築学科



夢創の場

-ベトナムの田舎町「Bắc Ninh」における小さな学び舎-

私の生まれ育った家庭は貧しく、家には束があり、家じゅうの隙間風が体を芯まで冷やした。外壁は錆びたトタン、極めつけはボットン便所。

そんな経験から貧しい人に寄り添う建築を考えたい。

人伝いに、ベトナム北部の田舎町「バッケン」に辿り着いた。

Thai Biem という川の近くの小学校に訪れ、貧しさを感じさせない子供達の無邪気な笑顔に触れた。

経済成長により、友人家族との比較を覚えた子供達が、自分の夢や意志から目を背け、心を閉ざしてしまう状況ではいけないと考える。

本提案は、そのような相対的な貧困層に該当する子供達 50 人の小さな学び舎である。

現地の竹材のみを使用し、先進的な竹建築を提案する。

村人や子供達の手による半セルフビルドにより、新たな繋がりを築く。

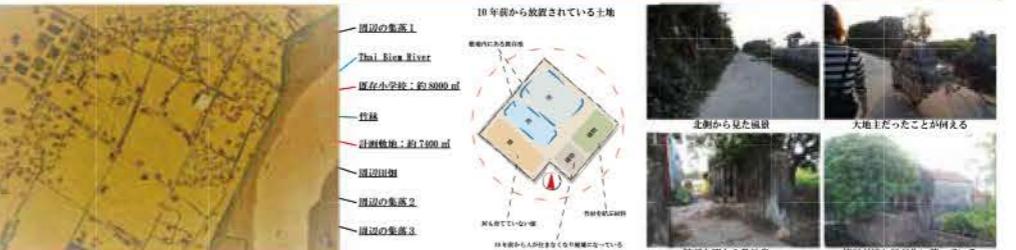
1. 設計背景



私は街木店の田舎町に生まれ育ちました。家にはまだ東があり、外壁は錆びたトタンで覆われ、それもさきはまだありました。家じゅうの隙間風が伝わる家で、埃だけの土間や、建物の裏に引いていた壁を切るような家で、錆びつけははつとうと便所でした。友人などには他のようないなく、常に人と比べて自分を押し殺していました。しかし私は友人などにも教わる自分の夢や意志を胸に持っていました。もしかしてお金のから「学生」をできていないと思います。だからこそこうしてやります。みんなにその環境がやくとも貢献しても、自分の志や夢を強く持つことの大切さを。

「人伝いに辿り着いた場所は東南アジア・ベトナム」
先祖国になりつつある国ベトナム。
ベトナムでは都心と農村の経済格差が甚しく、私が暮らしたのはその中間地帯。
訪れた町はまさにそこだった。
そのような地域はどちらも農村から移住地が多い。また、都市圏への移住が多い。ここ数年でかなりその数が増えている。
つまり、このような環境下の子供たちは現実的に、友人などの家庭環境と、比較される見えない状況にあると自身の経験から考える。
その街の名前は「バッケン」。
バッケンはハイから北東部に約 70 km ほど離れた町である。
留学生などに人伝いに聞いて見て出会った町だった。
この町で、幼い子供たちがしっかりと自分の意志を主張し、夢を語れるような学び舎を考えていました。

2. 選定敷地





濱嶋 杜人

はしまし もりと

日本大学理工学部海洋建築工学科

東京都心のヒートアイランド現象の対策について考察した作品である。

これからの地球環境を考える上でも社会的な問題提起の観点からも評価でき、卒業設計らしいダイナミックな提案は好感が持てる。

計画場所は大胆にも新宿駅の上部。この高層建築をイメージしながら西新宿の高層ビル群を眺めたと想像したらきっと楽しいだろう。

コンセプトが分かりやすく、複合ビルとしての構成、展開もいい。高さ 300 m の高低差を利用して、動植物の生態系を取り込む提案もおもしろい。

しょうりつ 万緑の聳立

激化するヒートアイランド現象による温度上昇により、都心は人を含む全ての生物が生きづらい場所となっていく。対策として、都心部で更なる自然空間の増加が求められている。しかし、都心で有効な緑地面積を確保することは困難だ。今までにない緑地の創造システムが必要である。それは都市を浄化し、失われた生態系を再生させる大規模な「建築」になると私は思った。私の提案する「積層された緑による建築」は都心で膨大な緑地面積を確保し、上空より冷気を移流することで、高温化する都市に働きかける。さらに、空へと聳え立つ緑地は、失われた生態系を取り戻し、多様な命の集まる壮大な空間となる。

万緑の聳立



新宿駅上空に聳え立つ大緑地空間は、命が集まり、都市を浄化する大樹となる。

背景 | 激化するヒートアイランド現象

都市の抱える最も重大な問題である「ヒートアイランド現象」に着目する。これは、都市の中心部の気温が郊外に比べて島状に高くなる現象である。

100 年間での平均気温の変化



気温の上昇は様々な問題の引き金となる。

【人の健康】 【人の生活】 【生態系】

対策として、都心部で更なる自然空間の増加が求められている。しかし、都心で有効な緑地面積を確保することは困難である。

今までにない緑地の創造システムが必要である。それは都市を浄化し、失われた生態系を再生させる大規模な「建築」になると私は思った。

提案 | 積層された緑地により生まれる建築

高層化していく都市形態と同様に、緑地空間の高層化を提案する。



計画 | 大樹となる建築



大規模な敷地を確保するため、新宿駅上空を本提案の計画敷地とする。

【ヒートアイランド現象の顕著な場所】

大都市的な街の構成がみられる新宿駅

【風の通り道】

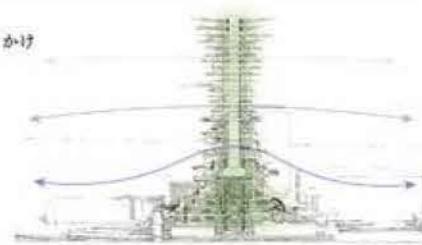
多方角からの風を受ける道路と緑路の交差点

【緑の連鎖】

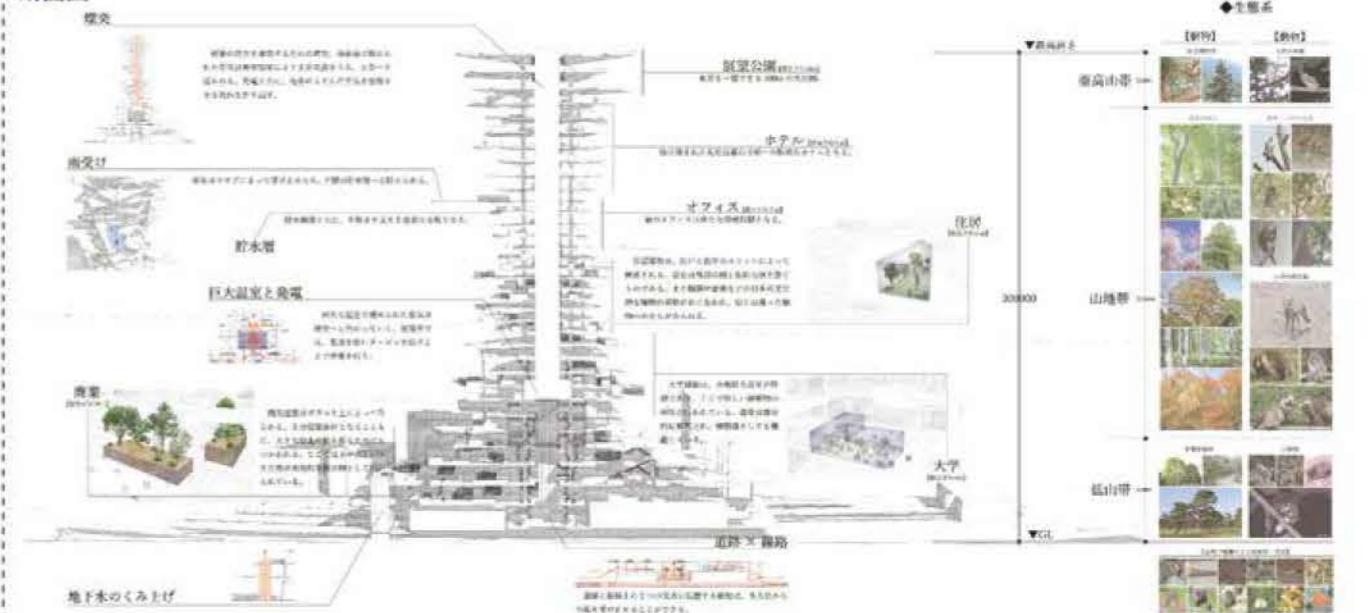
周辺の大規模な緑地をつなぐ

基本計画

- ◆ヒートアイランド現象へのたらしきかけ
- ◆建築空間 × 植物
- ◆水
- ◆生態系
- ◆発電



断面図



審査員：飯沼 竹一



手塚 千陽

てづか ちはる

千葉工業大学工学部デザイン科学科

蔵前という歴史・文化の匂いが色濃い街を舞台に、空き家・空き部屋を職住という行為の基に街として展開することで、昔ながらの町並みの継承と新しい街づくりによる地域活性化を目的にした作品である。住・職・公の3つのカテゴリーに分類し、3つの拠点から情報発信を行い連携から連続を試みた提案である。

フィールドワークから読み取れる情報を活かし、拠点の抽出を行い、用途的な配置と室内構成を整理し、新旧の共存を可能にしている。

情報を発信するスペース、居住エリア、職場、ゲストを向い入れる空間を点在させながらクリエーターの町として再

生させて計画は、評価された。

さらに、発展性を持たせるためには、各々の拠点が点ではなく線として密接に連携可能なプログラムと建築空間的なアイディア要素が盛り込まれていれば、最高評価が得られたであろう。

綿密な調査から導きだされた作品であり、作者の素晴らしい感性は将来的に活かされると信じている。深い洞察力が建築の力になることは間違いない。



審査員：小島 広行

職住共存から生まれるまちの豊かさ

「ものづくりのまち」蔵前を対象として

近年、問題視されている空き家

これは日本の住宅産業と少子高齢化が招いた問題である。

新築を当たり前のように購入していた時代はもうやつてこない。

今ある住宅ストックを活用し

リノベーションという手法を用いることで

住宅購入のあり方が変わってきている。

古く、良きもの。

その土地で次世代へと受け継ぐべきものは必ずある。

ここ蔵前を対象に、ものづくりの継承と

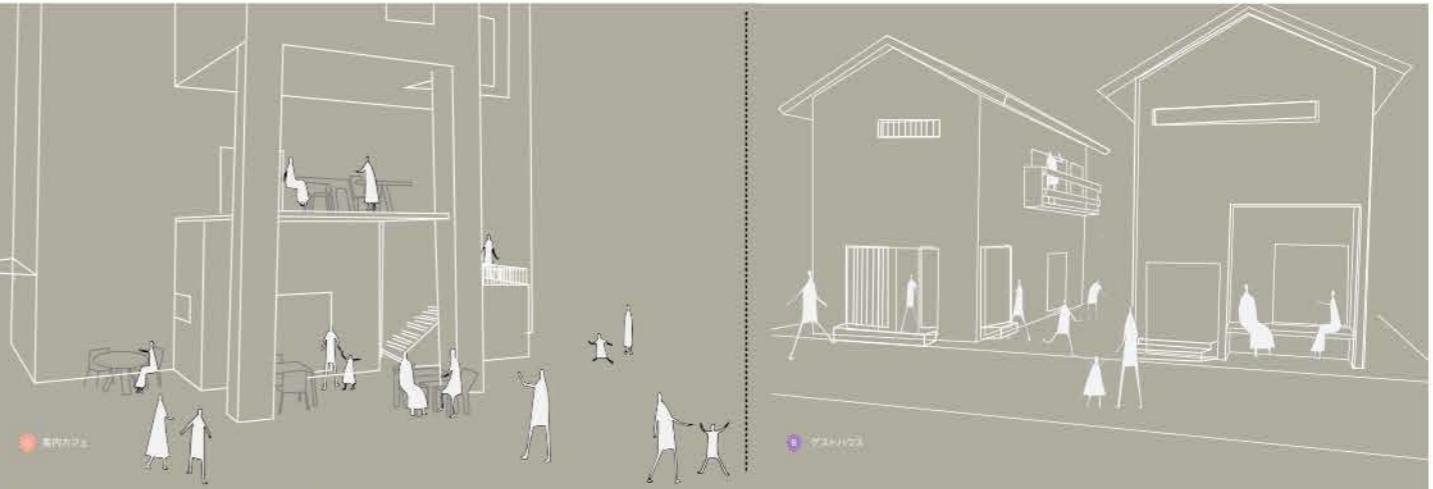
職住共存（居職）を再認識してみる。

見えてきたものは、蔵前の町並みを維持する古くからの問屋、金物屋、新しく若者が開いたアトリエ。

路地を一步入ると、

決して高層マンションに埋もれない魅力があるのであった。

この原石を光らせるために。



職住共存から生まれるまちの豊かさ

「ものづくりのまち」蔵前を対象として

空き家の持つ魅力

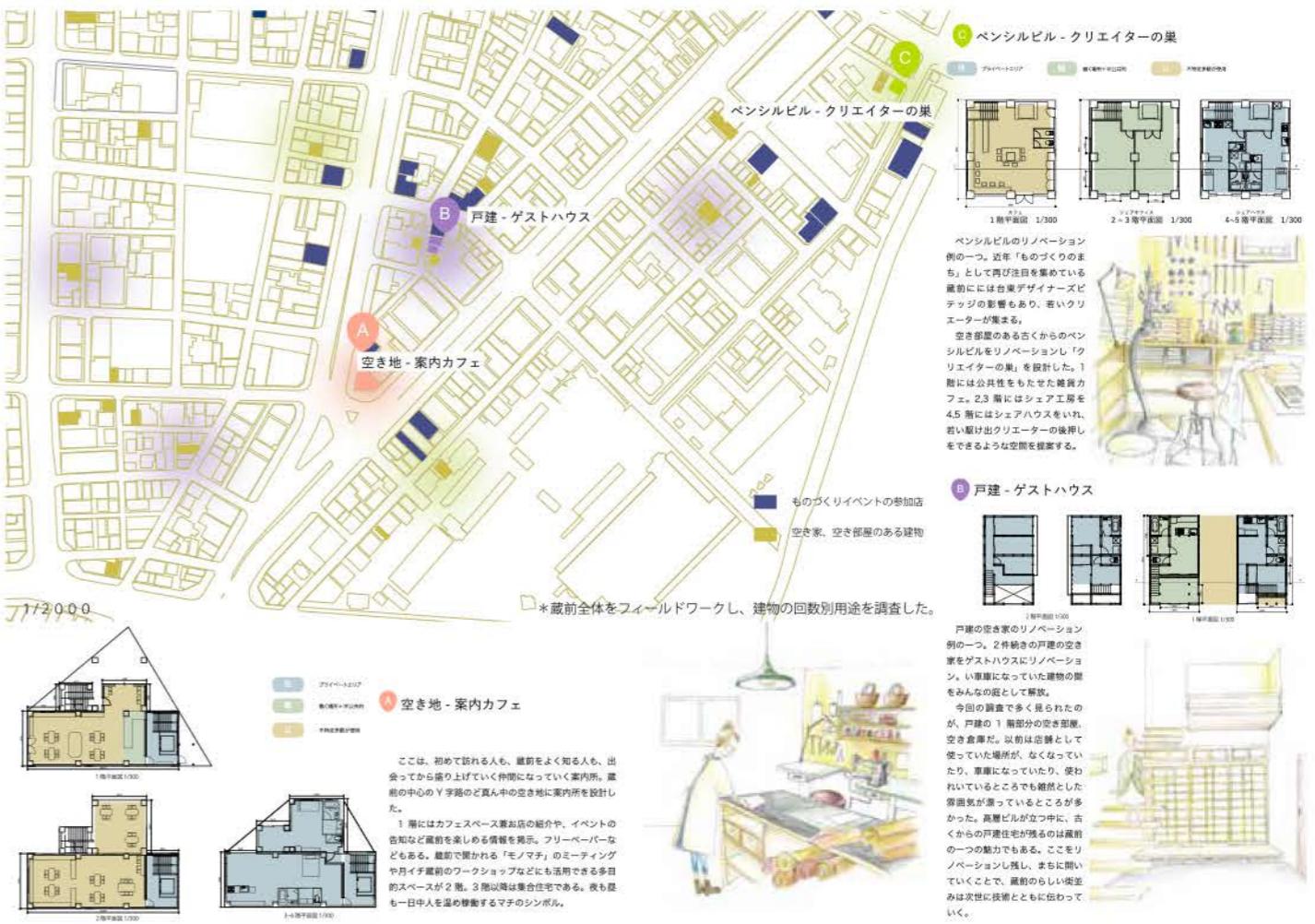
空き家・空き部屋のボテンシャルとみる。マイナスイメージの強い空き部屋や空きテント、公共に解放されることで、地図を伝わり人の足が入ることになる。人は人を呼び、また新しい空き屋、空きビルが「公共性を持たせる。剽窃あるものさらに愛着のあるものへ。

住 プライベートエリア

職 動く場所+半公共的

公 不特定多数が使用

地面からまちに聞く。地図に繋がる低層階に公共的な機能を入れることで外と内、建物と人を繋ぎやすくなる。高層階に向けてプライバシーの強い空間にしていき、職と住を混在させることで、まちが長く息つく。





香取 裕之

かとり ひろゆき

千葉工業大学工学部建築都市環境学科

私はこの作品は、ウェディング場の提案というよりは、都市における建築の在り方の提案だと捉えている。

均質な開発を繰り返し発展する日本の都市。場所性を切り離して開発される都市風景の中で、作者はチャペルという建築空間に注目した。現代のチャペルは商業的な性格を冠とした均質空間であり、誰もがその存在を疑うことなく受け入れてしまっている。

かつて、結婚式とはそもそも地域の中で執り行われる通過儀礼であり、土地が持つ性質とは不可分なものであった。計画地は神楽坂、作者は街路などの地形形状、素材と言つ

た街を構成する要素を丹念に読み込み、再編成することで空間を作り上げている。

出来上がった空間は複雑で、そこでの空間体験は豊穣である。山を登るように建築を取り巻く動線、外部へと大きく開かれた内部空間、ドラマチックに展開するシーケンスは、まさに人生の通過儀礼としての結婚式場としてふさわしい。

様々な空間要素を一つの形態としてまとめあげ、美しい建築としているのは作者の力量であり、都市と建築を考える上で、大きな気づきを与えてくれる秀作である。

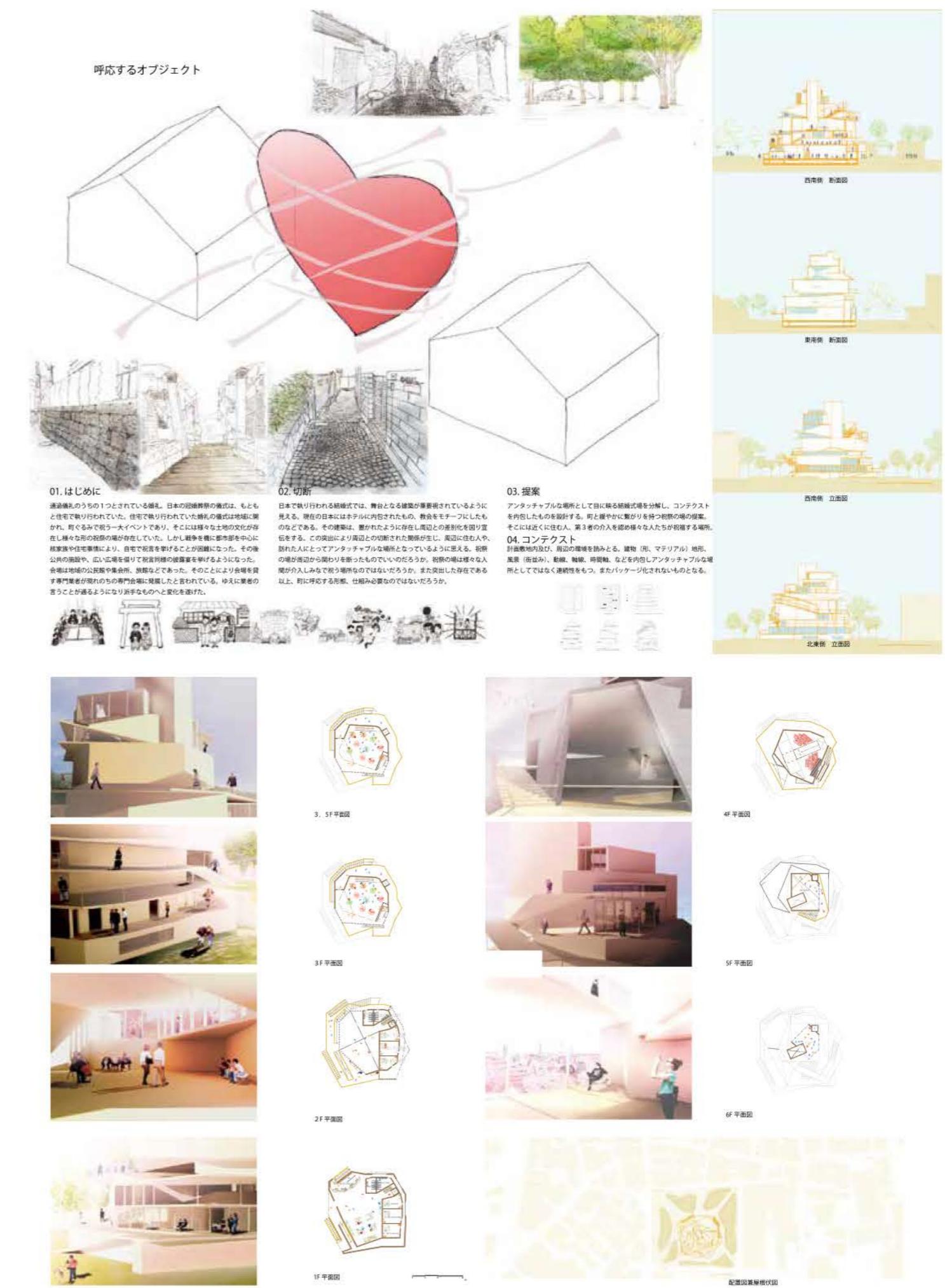


審査員：皆川 拓

呼応するオブジェクト

町に愛される祝祭の場

通過儀礼が産業的なものになってしまっている日本。戦争を機に土地の文化的な婚礼行事の習慣は消滅し、産業的な婚礼へと変化を遂げた。地域性のある婚礼行事だったからこそ決まった作法がないため、様々な宗教の婚礼行事を模倣した疑似体験的なものとなってしまっている。様々な形式を許容するあまり形式だけでなく建物までも変貌した。西欧の教会のような姿をしたもののが建ち並んだ。それは、空から落ちてきたかのように暴力的に存在しオーラを放っている。祝祭の場であるはずが、アンタッチャブルな場所となっている。私の提案は神格的な場所であるが町に接続し呼応する祝祭の場を提案する。そこには様々な人が集い、皆で祈り、祝福する場所。





廣部 澄

ひろべ みお

千葉工業大学工学部デザイン科学科

「少子高齢化」と「活気減少」という、現代の日本において多くの地方地域が直面している問題に対し、明るい未来を示してくれる提案である。作者は、たくさんの時間をかけて自分の足で歩き、丁寧にフィールドワークを行ったことが、プレゼンテーションからよく伝わった。そして、そのフィールドワークを通じて、このまちの問題ばかりでなく、このまちに関わる「人」がもつボテンシャルを見つけ、その価値を育していくために考えられたソフト面・ハード面両方からの提案は、説得力があるだけでなく、このまちにぜひ行ってみたいと思わせる魅力がある。作者が提案した「えんがわ」からは、たくさ

えんがわでひらくまち

ゆるやかにとけあう内と外

我が国では、少子高齢化や人口減少の問題に直面しており、都市の持続的発展において課題となっている。本研究の対象敷地である木更津駅西口はその問題に直面している地域のひとつである。自動車交通が増加した影響より、従来からの商店街を利用している人は少なく、活気が見られない状況である。そこで、「えんがわ」をコンセプトに、まちへの開き方を設計することで動きのなかったまちに動きを生み出し、人の往来のなかった場所に人が来ることで、人がそれぞれの場所をつなぐコンテンツとして働き、持続し定着する。日常時とイベント時をつなぐ地域活性化の新たな仕組みとして「まちオフィス」「ゲストハウス」「期間貸し出し店舗」を提案する。

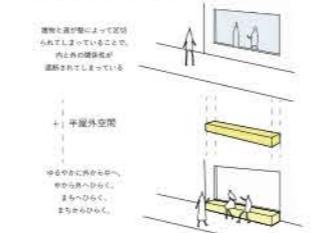


審査員：西山 芽衣

んの出会いが生まれ、地域の人々を巻き込み、大きな波となって、まち中に広がっていくことが想像できる。卒業設計としては、一見控えめで、とてもさやかな提案として映るが、じつはまち全体を変えていく可能性をもった、大きくダイナミックな提案であるように思う。今後は、今回提案されている3つの施設に限らず、このまちにより多くの笑顔を生み出し、持続可能なまちへと姿を変えていくため、場の可能性をもっともっと広げていって欲しい。そして、そこへ集う人々へ寄り添う空間が、より解像度を増して提案されることを望む。

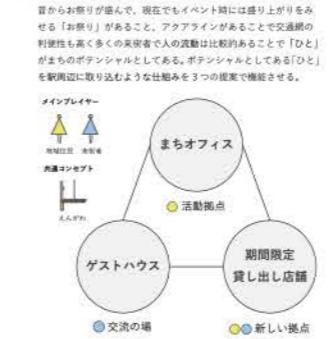


■えんがわがコミュニティーの場



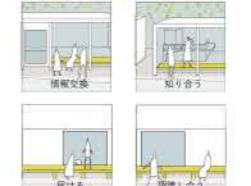
「えんがわ」をコンセプトに、まちへの開き方を設計することで動きのなかったまちに動きを生み出し、地域住民ひとりひとりが場所をつなぐコンテンツとして働くことで持続し、生きさせ、日常時とイベント時をつなぐ地域活性化の新たな仕組みを探求する。

■木更津が持つボテンシャル



木更津駅西口周辺をフィールドワークし、各種物の総数、空き家、店舗併用住宅、集合住宅、店舗、その他の分類や数を把握することができます。調査から、住宅系の動向が多いが、店舗併用住宅と店舗の総数を見ると、店舗機能をもった建物が占めていることがわかる。また、空き家周辺は空き家が多いこと、空き家になってしまっている建物はかつては店舗併用住宅を含め、店舗だったところが空き家になってしまっている。

■えんがわで生まれるコミュニティー



木更津駅西口周辺をフィールドワークし、各種物の総数、空き家、店舗併用住宅、集合住宅、店舗、その他の分類や数を把握することができます。調査から、住宅系の動向が多いが、店舗併用住宅と店舗の総数を見ると、店舗機能をもった建物が占めていることがわかる。また、空き家周辺は空き家が多いこと、空き家になってしまっている建物はかつては店舗併用住宅を含め、店舗だったところが空き家になってしまっている。

■店舗機能を持っている建物で占めている





小熊 透太

こぐま とうた

日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科

「H鋼が好きだ」という作者の叫びが、そのまま素直に建築化・風景化されており、たいへんわかりやすい。しかも、船橋三番瀬海浜公園という風光明媚な場所に対し、床版を斜めに持ち上げた巨大なスロープをつくり、工業地帯の煙突をイメージしたH鋼柱をシンボリックに乱立させて現している。決して調和しているとは言えないミスマッチな風景から、逆説的に、対比的に、自然と人工との関係を考え直す場となっているところは、作者の意図するところだろう。H鋼ベンチやH鋼トンネルなど、家具や遊具までこの素材で統一しているのは、潔い徹底

さを感じる一方で、子供やお年寄りの安全面や肌触りを配慮すると、やや強引な印象もあり、素直に評価を得るには至らないだろう。もしもH鋼に徹するならば、魅せる構造材とともに、地震に強い基礎杭としての活用提案、さらには、H鋼のフランジ、ウエブの寸法バリエーションなどの特性の違いを、考えに考え抜いて、さらなる「ものづくり」と「ものがたり」を一体化させて、最後は美意識をも揺るがす素敵な建築をつくってほしいと願う。



審査員：鳴海 雅人

H鋼から見える世界

今まで、同じ海岸沿いに居ても他人には興味がなく通り過ぎていた。そのためかここ三番瀬は訪れても寂しい気持ちになるような場所となっている。初めて来た人がこの冷たい空気を感じたらまた来ようとは思わないだろう。三番瀬には貴重な生態系や、朝日や夜景、工場地帯といった様々なものを感じることができる唯一の場所である。この特徴を体感できる施設を提案する。

計画地の周りは工場や倉庫、海に囲まれている。この埋立地という平坦な土地に展望台という段差を作る。結果、海側の景色、工場の景色の両方を感じることができる。そのことから今まで見えていなかったものに気付き、重いと感じていた雰囲気が工場地帯の「良さ」というものに変わる。新しいことを発見できる場所を提案していく。

H鋼から見える世界

00 計画敷地



対象敷地は、千葉県船橋市の三番瀬海浜公園である。ここは埋立地の工業地帯の中に位置している。またここは渡り鳥の羽を休める貴重な場所や海苔の養殖が盛んに行われている。この場所は工業地帯の重い雰囲気と、たくさんの貴重な生態系の合った場所である。この二つの要素を感じられるような提案をします。

01 三番瀬海浜公園現状



この三番瀬のエリアは、すぐ隣の鉄鋼の集積場となっている。これらは見た目や雰囲気も重く、市の広報新聞でも危険と言われている。貴重な三番瀬の生態系に影響を与えている可能性があると考えられる。

ここに来る人は大きく分ると四つのグループに分けられる。「ハドウォッティング」「写真撮影」「楽器の練習」「港干狩り」の四つのグループが主にくる。この四つのグループは交わることなくただ自分のことをするだけで、冷たい雰囲気が出ている。

02 あるべき姿



三番瀬海浜公園は貴重な野鳥や、干潟、浜辺がある。野鳥を撮影しに来る人、見る人は他の港干狩りをする人、浜辺に楽器を演奏しに来る人、様々な人が利用できるような場所となるべきである。また、これらの人々が交流することで工業地帯という場所が明るい場所へと変化する。

さらに、貴重な渡り鳥の羽を休める場所であり、様々な生き物との共存もある唯一の場所であるべきである。

ここに来る四つのグループが関わりを持ち合い、この工業地帯という重い雰囲気を暖かい雰囲気へと変え三番瀬の良さを発信していくべきである。

04 H鋼の利用



この工業地帯の雰囲気を重くしている原因の一つの放置されている鋼材を利用する。ベンチや遊具、モニュメントを作ることでこれまで触れ合うことのなかったものが身近なものとなり、重く汚い印象が変わっていく。

07 シーン

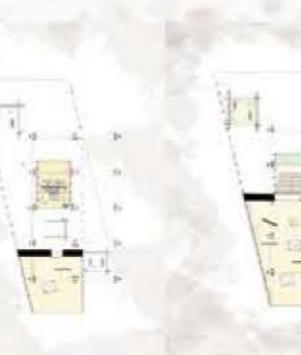


08 建築図面

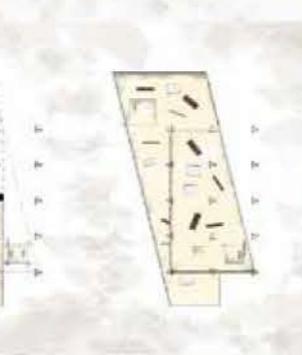
a. 平面図



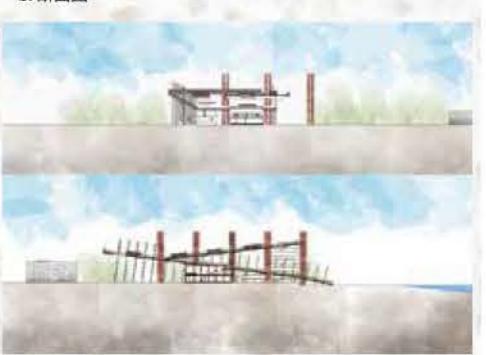
1階平面図



2階平面図



3階平面図



屋上階平面図

b. 断面図

奨励賞

大学



上杉 信介

うえすぎ しんすけ

千葉大学工学部都市環境システム学科

神戸港沖のゴミの島を、超大型コンテナ船が接岸できる物流の島に変換するという、社会性の強い作品である。そして、物流倉庫の柱を兼用する埋込ガスチューブによるメタンガス制御など、埋立ガスの発生による跡地利用が困難な状況を改善する様々な提案や、水深改良で発生する土砂を活用したカルデラ地形の創出など、実現性が高い、具体的で様々な提案が盛り込まれていることで注目を集めた作品である。

最近社会をにぎわせている、豊洲への築地移転問題をニュースで見るたびに感じる、新市場の建築デザインへの違和感のようなものを、この提案から感じることはない。

最終的に生まれるカルデラ地形と幾何学的な物流倉庫により生み出される風景は、新しい建築空間の提案ではないが、大地に根差した社会資産となることが予想される。また、学生建築賞に参加した多くの作品が、社会と新しく出来上がる建築空間の関わりをテーマにしていたが、この作品は、普段は目にすることのないゴミの島という負の環境と社会を支える物流に着目している。このような建築と土木の境界領域のデザインに、建築家の発想が加わることの重要性を気づかせてくれた作品であったと思う。さらに、機能を超えた環境・空間的価値の付与など、提案の深化に期待したいところである。

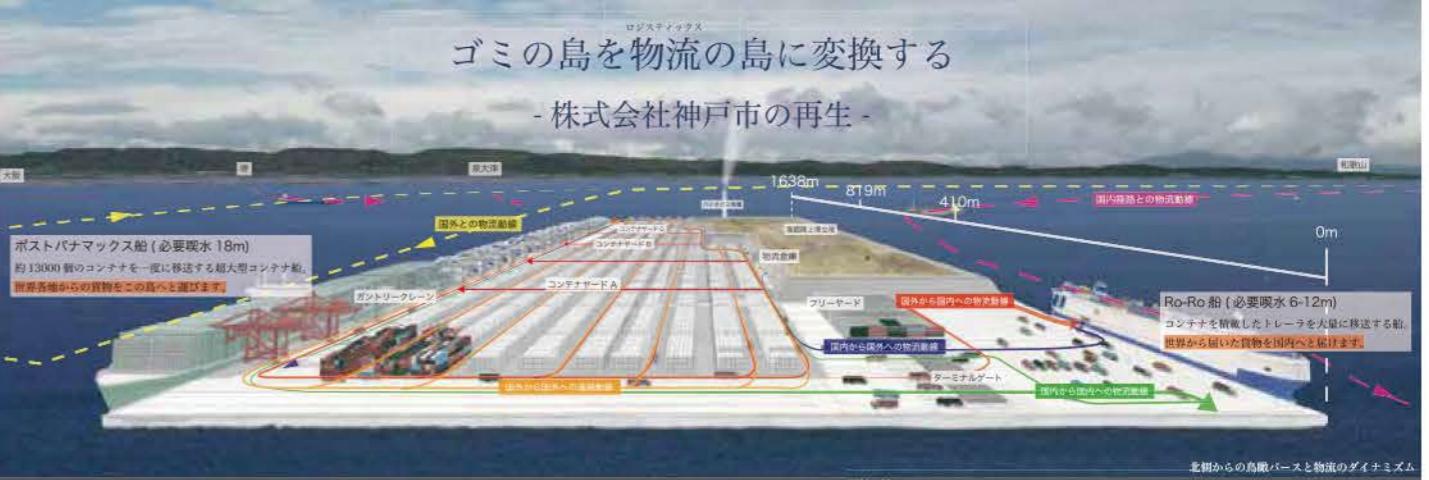


審査員：安田 俊也

ゴミの島を物流の島に変換する

株式会社神戸市の再生

海上輸送の主要航路であるパナマ運河の拡張に伴い、コンテナ船の規格が急激に大型化しています。日本は水深の深い港が少なく、コンテナ船の大型化に対応できていません。このままでは、国際競争力が低下し、最終的に私たちの生活に影響を及ぼしてしまいます。また、神戸沖には「神戸沖埋立最終処分場」があります。この島は、近畿2府4県177市町村から、一般・産業廃棄物を受け入れています。埋立完了後の跡地利用が困難な状況となっており、このままでは都市の遺物と化してしまいます。そこで、ハブ機能を持った物流拠点を計画します。かつて「株式会社神戸市」と謳われた時代が、海を舞台に再生を始めます。



ハブ機能を持った物流拠点 -prologue-

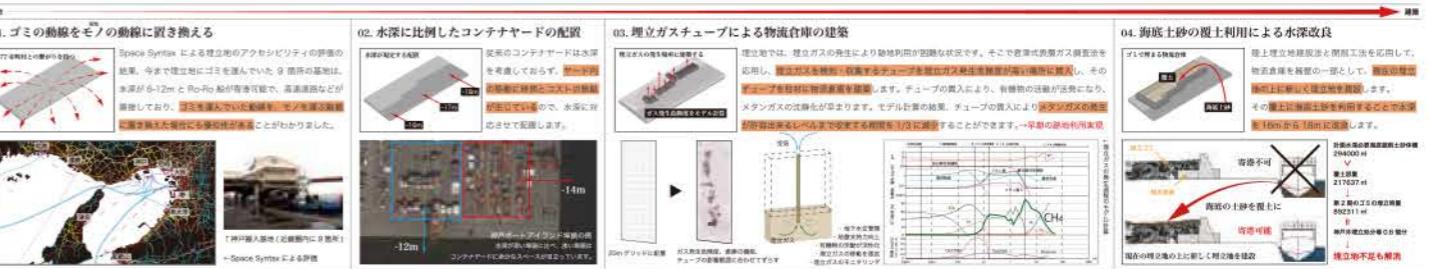
世界の洋流を抱う海上輸送の主要航路であるパナマ運河の規格に伴い、コンテナ船の規格が急速に大型化しています。現在、日本は水深の深い港が少なく、コンテナ船の大規模化に対応できない状況です。このままでは、国際競争力が低下し、最終的に私たちの生活に影響を及ぼしてしまいます。現在、大型コンテナ船が寄港可能な港の建設は日本の抱える課題です。

また、神戸沖には総面積88ha、最大水深16mのゴミの島、「神戸沖埋立最終処分場」があります。この島は、近畿2府4県177市町村から、近畿圏に点在する9箇所の施設を通じて一般・産業廃棄物を受け入れています。2022年に埋立が完了しますが、廃棄物利用が困難で、事業スキームも回収できない状況となっています。このままでは都市の遺物と化してしまいます。

そこで、「神戸沖埋立最終処分場」の立地特性、空間特性を活かして、ハブ機能を持つ物流拠点を計画します。埋立地がインフラとして機能していたように、これでも都市を支えるインフラとして機能します。かつて「株式会社神戸市」と謳われた時代が、海を舞台に再生を始めます。

都市スケールから88haを考える -logistics architecture-

88haというスケールオーバーした空間を、それなりとも大きな都市スケールで捉え、少しづつ建築のスケールへとブレイクダウンさせていきます。



物流、あるいは神戸の象徴として -symbol-

今まで「神戸は古都」といた神戸沖埋立最終処分場ですが、その立地特性、空間特性を活かして、物流の島へと変換することで、近畿全体を支える超大型の「モノの交換口」になります。

神戸市が「港湾利用が困難となったこの島の商業スキームを回復する」という私的的な意図の裏に計画する物流の島ですが、その意味は、船と共に、海を越え、都市全体に伝播します。港湾物流が作用するのです。

神戸は古い物語とともに発展してきた港町であり、かつては「株式会社神戸市」として謳われました。その象徴として、ポートアイランドがあり、六甲アーバンドライブがあり、有名会社の本拠地がありました。しかし、その象徴性は阪神大震災、モータリゼーションなどを原因に失われました。この街はまたの矢先で新たな命を育んでいます。

この島は、神戸開港150周年記念、「神戸は新神戸」としての象徴性を再び取り戻します。





獎勵賞



井手 優汰

いで ゆうた

日本大学生産工学部建築工学科

この作品は、空間の中にただ資料を陳列するような、ステレオタイプな文学館とは違う、展示と空間の新たな関係性を探求した提案であると感じた。

文学作家・国木田独歩が著書『武蔵野』に残した、原体験に基づく武蔵野の風景を、この文学館に訪れた人々に追体験させるために建築空間が存在する。今は亡き偉人と現代を生きる私たちを、空間体験で繋ぐというアイデアが、まずとても面白いと思った。

独歩が武蔵野の地をどのように空間認識していたのか、その特徴を丁寧に探求するというアプローチも興味深

V

この施設を訪れた者は、建築と自然が織り成す空間体験から、独歩が感じた「武蔵野」の風景を五感で感じ、独歩に想いを馳せるのだろう。そう想像すると、時代を越えて人と人が重なり合うことに、純粹にワクワクした。このような建築には、ヒューマンスケールの視点から丁寧に空間をつくっていくことが求められるだろう。今後は、建築の外形ばかりでなく、そういったスケール感での魅力を増した提案へ発展していくことを期待する。



審査員：西山 芽衣

し こ けいちょう ていし もくそう
林の奥に座して四顧し、傾聴し、睇視し、默想す。

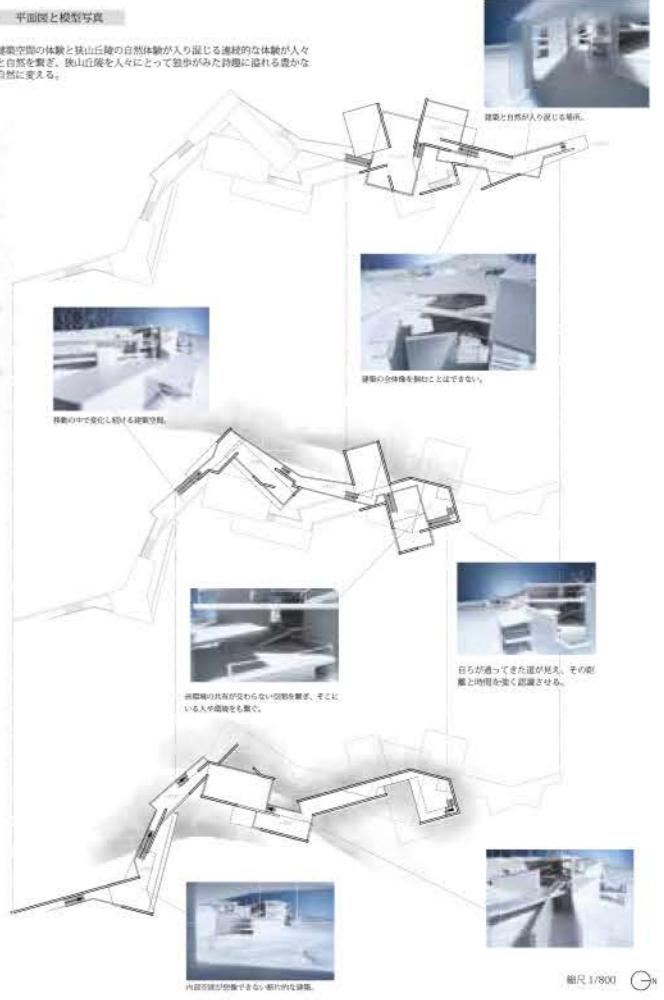
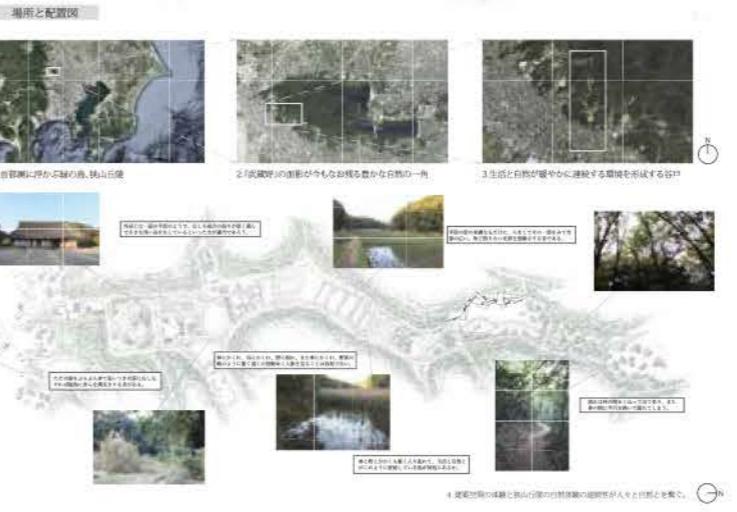
—国木田独歩文学館—

文学館と言っても国木田独歩の眼鏡が置いてあったり、文学作品の資料があるわけではない。この文学館に展示するのは『武蔵野』における独歩の「空間体験」である。本設計における文学館とは、文学作品を媒介として作者と人々を繋ぐ場所である。よって具体的なモノ以外にも感覚的なコトも展示物になりうるのである。

卒業研究「国木田独歩の著す『武蔵野』の空間の特徴の探究」の研究結果を基盤として、独歩の空間認識を訪れた人に促す建築空間を提案する。建築空間と自然環境の間の身体的な空間体験の連続が人々と自然を繋ぐ。そして独歩の豊かな空間の捉え方が伝わっていく空間を後にした時、『武蔵野』の面影が今なお残る場所、狭山丘陵が人々にとって独歩がみた詩趣に溢れる豊かな自然に変わることを期待する。

木の奥に座して四顧し、傾聴し、睇視し、默想す。——園木田独歩文学館——

学館と言つても国木田ひ歩の題写が置いてあつたり、文学作品の資料が置いてあるわけじゃない。展示されるのは「空削体歌」である。卒業研究により得られた国木田ひ歩「武蔵野」における作者の空間認識の特徴を空間創造の基盤としてひ歩の豊かな空間思考力へ向ける人に伝わっていく建築理論を提案する。



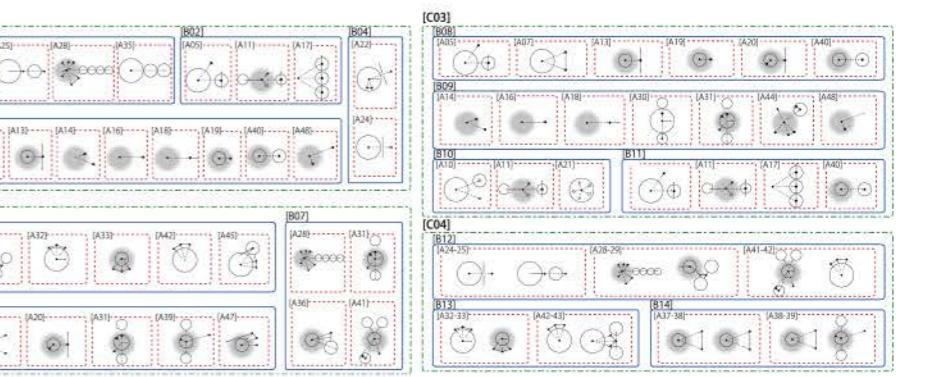
建築空間の体験と狭山丘陵の自然体験が入り混じる進歩的な体験が人々と自然を繋ぎ、狭山丘陵を人々にとって健歩がみた跡遍に溢れる農かな自然に変える。

【国木田独歩と「武蔵野」】

『武蔵野』は国木田独歩が当時の暮らしの中で実験した吉野の風景を描いた文学作品である。日本文学の伝統的な風景に捉われない、作者自身のありのままの身体を体現文として表現する試みの裏に、詩人であった作者の書かな空間認識が色濃く反映している。

木田歩歩の「武蔵野」における空間認識の特徴の探求
野」より歩歩の体験的な記述を抜粋し、感覚的イメージスキームという概念の48の空間模式を作成した。これらをKJ法によって分析し、作品の文学性面に潜む著者の空間認識の特徴(CD-004)を得た。これらを空間認識の基盤とし、その間認識と似ず連接法を設めた。

- | | | |
|-------|--|-------|
| | | [C01] |
| 1) | 問題のつづきしない対象が回答を差し、物理的に変化せない場合や、ものへの認識を尋ね、導く | |
| [B01] | 物理的な現象、材料、操作などを観察して感じること | |
| [B02] | 自分の意見や感想を述べ、他にはどういった意見や感想があるかを確認させる | |
| [B03] | 自分の知識と実際に必要な知識であり、よりよくして聞くへの意識がある | |
| [B04] | 問題を解決するための知識や経験、知識や経験をつなぐ | |
| 2) | 主な問題を理解し、反応に必要な情報をたどる能力の確認として多く取り、問題を完成している | |
| [B05] | 問題を繰り返し、仕事は必ず他の問題を連絡しながら、反応や操作を重ねて繰り返す | |
| [B06] | 自分が何をやったかや他の問題と繋げ、いつの問題で何をして何を解決するか追及 | |
| [B07] | 問題をつなぎながら問題用紙、中身をつなぎながら問題として認識される | |
| 3) | 相手以外で捉える能力、特に複数で対象が生じる空間に強く影響を与える | |
| [B08] | 相手である他の人の意見などからしてその通りと断定しない経験 | |
| [B09] | 相手である他の人の意見などからしてその通りと断定しない経験 | |
| [B10] | 相手の意見と自分の意見を比較して、それに応じて行動を取っている | |
| [B11] | 相手によっては自分の意見、心を下すことで尊重されると実感する | |
| 4) | 問題解決の中で主体が担当する行動を認める。またその行動が目標に実現する。その通りの結果を実現する | |
| [B12] | 問題解決の「なぜか」と問題解決の「なぜか」 | |
| [B13] | 問題解決の中で「なぜか」と問題解決の「なぜか」 | |
| [B14] | 問題解決の中で「なぜか」と問題解決の「なぜか」 | |





駿河 洋子

するが ようこ

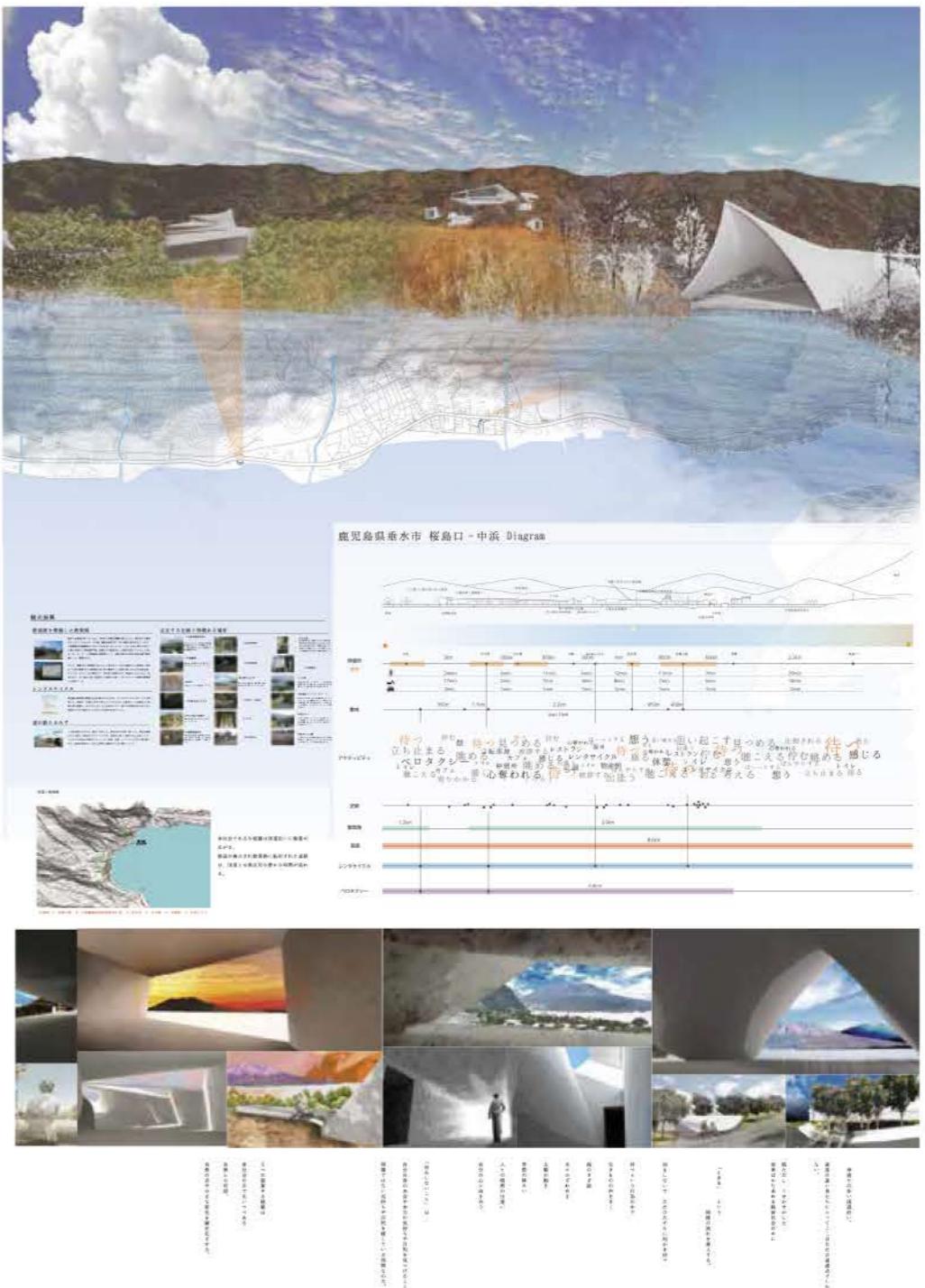
千葉工業大学工学部建築都市環境学科



- 何もしないこと -

鹿児島県垂水市牛根麓における思い巡らす空間の提案

現代に生きる人々は日々時間に追われている。その中で効率を求める無駄を省こうとするたびに生活は日々画一化されていく。経済社会からないがしろにされた土地に「とまる」という時間の流れを挿入する。バスや人、野生動物、季節の移ろいといった様々なものを眺め、物思いに耽り、ただ待つことによって起こる偶然の出逢いや発見に身を置くパブリックスペースを点在させる。多くの人の価値基準が経済価値になっている現在、経済価値のないものにはなかなか気付くことができない。自然との対話が出来る場所を意図的に創り出し、何もしない時間の価値を建築を媒介とし豊かな時間の在り方を問う。



日々時間に追われ、「なにかをすること」に迫られ続けている現代人に対して、「なにもしない」時間の大切さを、この提案を通じて作者は私たちに思い出させてくれた。作者が提案する建築は、時には人をやさしく包み込み、時には豊かな風景を切り取って見せ、時には環境と人の関係をあえて遮断し、時にはベンチとなって人の身体を受け止める。この建築の中で人々は、ふと腰掛けて佇んだり、ぼんやりと風景を眺めたりと、きっと思い思いの時間を過ごし、一見「なにもしていない」ようで、思考をしたり、自然を感じたり、なにかとじっくり向き合うのだろう。特定の機能のためにつくられた建築のように、空間が人々の行為を決めててしまうではなく、人々の何気ないふるまいを喚起し、そこに寄り添うような建築の在り方を提案してくれたように思う。

人々が佇み、思い巡らすための受け皿となる建築の姿には、まだまだ可能性があるように感じる。そして、点在するこの建築群の、それぞれの関係性についてもっと掘り下げられたら、このまちへ住む住民や、この地を訪れる人々に、さらなる豊かな時間を創造できるのではなかろうか。

人々を収容する箱としての建築の姿に囚われず、人々を自然と受け入れ、留ませ、巡らせるための建築の姿を、追求し続けてくれることを望む。



審査員：西山 芽衣



鈴木 寿明

すずき としあき

千葉大学工学部都市環境システム学科

都市と建築の連続性を持つ空間の提案

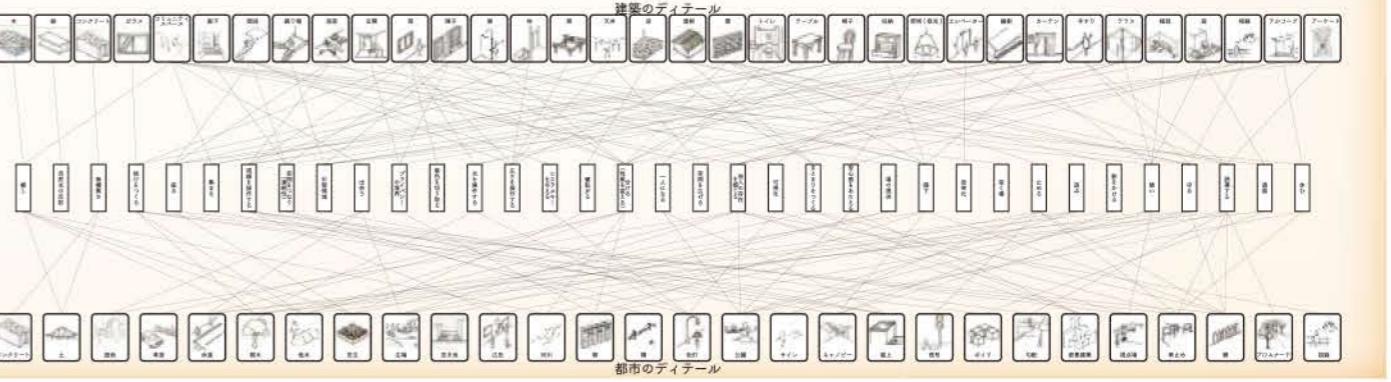
都市空間は建築の間のただの「隙間」なのか？

現在、空間の計画は分業化され一般的な建築物は外部空間を考慮した設計がなされず機能が建築に閉じ込められている。それにより個々の建築は孤立化し、関係性を失い、都市から建築が独立している。これにより殊更都市部において、都市空間は表情をなくし、人々にとって始点と終点をつなぐ物理的空间でしかなくなっている。都市と建築が連続性を持ってこそ、建築がその都市に建つ意義が生まれ都市はそれぞれの場所性を得るのでないだろうか。本提案では、都市と建築が連続性を持つための設計プロセスを考案し、私の住むまち千葉をケーススタディとしてオフィスと住戸の複合施設を計画する。



市と建築のディテールを作用を媒体としてリンクさせレシピ化する（設計手法②）

市の双方からそれが持つティールを列挙し、そのティールにおいて、そのティールが何役を果たすか。
役割と作用を媒体として建築のティールと都市市をリンクをさせながら行なった。
使うことで、求められる空間に対し、建築のティールのティールの双方を活用して緊密性をもつ、市の連続性のある立場を生み出すことができる。



千葉市における Case Study

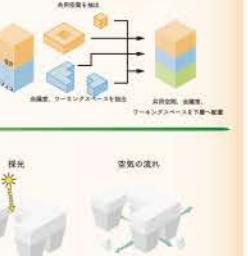
地を今春3月に閉店が決定している。千葉三越の跡地とし、上記の建築手法でどのような複数の設計できるかをCase Studyする。

都市と業務施設都市の2つの役割を持ちながら、近年業務施設都市としての側面が強くなっている千葉市において競争機能を強化するとともに新しい働き方を提案するために、オフィスと住居の複合開発を計画する



□ 連続性を持たせる空間構成

住民部から住民の共有空間、オフィスから一時執務・スペースでない会議室やワーキングスペースを抽出し、それらを上層に配置する。それはより複雑な構造で終わるアタツキティを各部屋間に表示させてやすくする。また、住民の共有空間と会議室などをめぐることなく夜間や休日にも利便されなくなる会議室などの業務空間を市民のための空間として活用することが可能となる。さらには会議室やオフィススタークー館構内を共用することで新たなアタツキ（行政手段によるとしない常設化等のイベントなど）を実現する意図も持つ。



設計手法①に基づく形態形成



Scene に合わせて選択する空間



審査経過



審査コーディネーター 関谷 和則

第29回千葉県建築学生賞は、17作品(6大学9学科)で競われた。大学名を伏せての公開審査を行い、8名の審査員間の議論は勿論のこと、審査員と出展学生の質疑応答を交えた、丁寧な作品審査が展開された。

〈公開プレゼンテーション〉

9:30より、大型プロジェクターを使用して、1作品あたり持ち時間5分のプレゼンテーションを登録番号順に行つた。すべての学生が、要点を簡潔に説明し要点を把握することができた。プレゼンテーション終了後11:20より12:30まで、審査委員2名が一組になり、各作品のプレゼンテーションブースを巡回し、作品をさらに読み込んでいく質疑応答の時間とした。昨年よりも1作品あたりのヒアリングの時間を4分と長くしたこともあり、作品を読み取る重要な手続きとなった。

〈1次審査：2次審査に進む8作品を選出〉

審査委員長の審査方針の説明後、13:30より公開1次審査を開始した。8名の審査員ひとりひとりが、気になっている作品番号とその理由を説明するという流れで、議論を重ね14:00に1回目の投票を実施し(審査委員持ち点／8作品に2点、準ずる1作品に1点)、16点得票1作品(作品番号3)と15点得票3作品(2.7.12)の4作品を選出した。その後、13作品をディスカッションし活発な意見が交わされた。2回目の投票を15:25に実施し(審査委員持ち点／4作品に1点)、結果得票6点1作品(13)、得票5点3作品(15.16.17)の4作品が選出され、合計8作品が選出された。

〈2次審査：8作品から4作品を選ぶ〉

2次審査は、8作品を審査会場中央に1次審査の得票順に並べ、模型を囲みながら15:40より開始された。1作品あたり約10分の審査員間討議と出展学生への質疑応答が展開され、作品を客観的に掘り下げていった。「評価する理由ではなく、推せない理由を議論

する」視点で、審査委員同志の考え方をぶつけ合う審査となつた。審査委員持ち点を10点とし、3作品に配点自由で投票できる方式(但しMax7点～Min1点)によって、得票24点(13)、17点(3)、13点(12)、12点(16)の上位4作品が、選出された。

〈3次審査：4作品から最優秀賞1作品・優秀賞2作品を選ぶ〉

各審査委員が、選定理由と一押しの作品を表明し、17:00から3次審査が行われた。作品番号13を4人が推す結果となり、審査委員間の意見対立が明確化し、議論が白熱した。「テーマの社会性」と「テーマを表出させるデザインのあり方」が、議論の対象となつた。上位3作品を3点・2点・1点の配点で投票した結果、大差の得票16点を集めた「思いを受け止め、届ける(13)」が最優秀賞に選出された。残り3作品に対して2回目の投票を行い、得票3点(3.16)、



2点(12)の結果となり、「無窮洞 -戸尾防空壕更新計画(3)」と、「協奏するショッピングウォール(16)」が優秀賞に選出された。

〈特別賞審査：14作品から2作品を選ぶ〉

特別賞は上位3作品を除く全ての作品を対象に、総合評価軸では上位3作品に及ばなかったものの、ある評価軸について抜きんでたユニークな作品を選定する賞である。討議を重ね1回目の投票(審査委員持ち点／2作品に1点)を実施し、得票4点1作品・得票3点2作品となった。得票4点の「身体からの学び(9)」を特別賞に選出、さらに議論を重ね2回目の投票(審査委員持ち点／1作品に1点)を実施し、3点を得票した「彩配置装置(12)」が特別賞に選出された。

〈JIA出展：3作品〉

最優秀賞・優秀賞の上位3作品が、JIA大会出展作品に選出された。

〈コーディネーターの役割を終えて〉

出展学生17名は時間をかけた公開審査を通じて、社会性を伴った質疑応答の重要性を痛感したのではと思う。各審査委員からの指摘は、出展学生の皆さんの卒業設計作品をさらに強化する肥やしとなるはずである。本審査を新たなスタートとして捉え、是非作品に手を加え自信作に昇華してもらいたい、と出展した先輩のひとりとして願う。



No.	タイトル/サブタイトル	一次審査								二次審査								三次審査 <最高得票x1 最優秀x2>								
		投票1-1				投票1-2				投票2				投票3-1				投票3-2				投票3-3				
		中野	園田	吉川	鳴海	小島	飯沼	西山	安田	中野	園田	吉川	鳴海	小島	飯沼	西山	安田	中野	園田	吉川	鳴海	小島	飯沼	西山	安田	
1	「築80年木造住宅の改修計画」	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	「夢の橋」	2	2	2	2	2	1	2	15	最高	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	「ペトロナムの宿泊町「Bla Bla」における社会的・環境的課題に対する取り組み」	2	2	2	2	2	2	2	2	16	最高	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	「方角の壁立」	1	2	1	1	2	1	2	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	「居住共同体から生まれるまちのまちかさ」「ものづくりまち」既存を対象として構成する街の骨格	2	1	1	1	1	1	1	1	9	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	「都市への敬意 Civic Pride を通じて」	1	2	2	1	1	2	1	1	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	「ぬい縫める水辺」	2	2	2	2	2	2	1	2	15	最高	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	「再定めるプロジェクト町に生きる既存のまち」	1	1	1	1	1	1	1	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	「身体からの学び」	1	2	1	2	2	2	1	2	13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10	「なんがわいひなくまち るやかにこじあう内と外」	2	1	1	1	1	1	2	1	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
11	「繋から見える世界」	1	1	1	1	1	1	1	1	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12	「彩配置装置」	2	1	2	2	2	2	2	2	15	最高	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13	「近いを受けとめ、届ける。」	2	1	1	2	1	2	2	2	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	16
14	「都市と建築の連続性を持つ空間の復元」	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	「この島を生きる島へ変換する株式会社戸田市の再生」	1	2	2	1	1	2	1	2	12	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
16	「活動するショッピングウォール」	1	2	2	1	2	1	2	2	13	-	1	1	1	1	1	5	最高	3	2	2	12	3	3	1	1
17	「林の木に隠して自然美しく、緑豊かに、開放感があり、安心安全な木造住宅」	1	1	1	2	2	1	2	1	11	-	1	1	1	1	1	5	最高	2	2	12	3	3	1	1	8
18	「安心しないこと」	2	1	1	2	1	1	2	1	11	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-



Moebius

笹川 雄基 (ささがわ ゆうき)
日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科
一次選考結果 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
23 10 17 5 2 1 7 11 4 12



夢創の場 -ベトナムの田舎町「Bac Ninh」における小さな学び舎-
藤本 貴成 (ふじもと たかあき)
東京電機大学未来科学部建築学科
一次選考結果 ○ 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
19 14 18 24 17 5 2 5 1 1 8



無窮洞 -戸尾防空壕更新計画-
山下 麟太郎 (やました りんたろう)
千葉大学工学部建築学科
一次選考結果 ○ 二次選考結果 ○

優秀賞

JIA 全国大会出品

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
13 6 25 31 8 1 5 3 5 4 6



万縁の聳立
濱嶋 杜人 (はしましま もりと)
日本大学理工学部海洋建築工学科
一次選考結果 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
20 34 27 23 9 3 1 1 2 4 12



職住共存から生まれるまちの豊かさ
「ものづくりのまち」蔵前を対象として
手塚 千陽 (てづか ちはる)
千葉工業大学工学部デザイン学科
一次選考結果 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
7 0 5 12 15 9 15 8 1 7 0



都市への参加
Civic Prideを通じて
野田 寛敏 (のだ ひろとし)
東京電機大学未来科学部建築学科
一次選考結果 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
17 18 3 12 6 3 8 6 1 4 6



結い留める水田
蒲生 良輔 (がもう りょうすけ)
日本大学理工学部海洋建築工学科
一次選考結果 ○ 二次選考結果

市民賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
33 8 19 27 18 1 4 1 0 2 ★ 21



呼応するオブジェクト

町に愛される祝祭の場
香取 裕之 (かとり ひろゆき)
千葉工業大学工学部建築都市環境学科
一次選考結果 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
22 5 17 18 0 3 11 10 3 10 1 1



身体からの学び
佐藤 康行 (さとう やすゆき)
東京理科大学理工学部建築学科
一次選考結果 二次選考結果

特別賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
11 33 23 18 3 7 2 1 3 12 9



えんがわでひらくまち
ゆるやかにとけあう内と外
廣部 淩 (ひろべ みお)
千葉工業大学工学部デザイン学科
一次選考結果 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
17 1 7 21 7 4 13 3 0 7 3



H鋼から見える世界
小熊 透太 (こぐま とうた)
日本大学短期大学部建築・生活デザイン学科
一次選考結果 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
8 9 24 21 2 10 3 1 4 3 2



彩配置装置
西田 安希 (にしだ あき)
千葉大学工学部建築学科
一次選考結果 ○ 二次選考結果 ○

特別賞 なの花賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
14 8 23 18 4 3 9 0 1 3 6



思いを受けとめ、届ける。
杉山 未沙 (すぎやま みさ)
日本大学生産工学部建築工学科
一次選考結果 ○ 二次選考結果 ○

最優秀賞 JIA 全国大会出品

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>
18 3 20 19 2 1 7 1 3 8 6



都市と建築の連続性を持つ空間の提案
鈴木 寿明 (すずき としあき)
千葉大学工学部都市環境システム学科
一次選考結果 病欠 二次選考結果 病欠

(市民の声)
昔の神社みたいな建物ですね。それらしきデザインがあつても良いが。/プレゼンボードの写真が素敵。形が面白い。/提案が一番下にあって見づらい。/パースや模型がすごいかわいい。中村拓志みたいでした。/見た目は非常に良いと思います。大きい方の模型に人がいる良かったです。/オシャレな場所に、こんなオシャレな場所があったらそりゃ楽しいよね、という話。/祝祭の場に見えない。模型に着色したほうが良い。/空想が分かり易くコンセプトも分かり易いと思った。

(市民の声)
実用性? /模型は大作。/場所によっては使い分けがはっきりしていてかっこいい。/アイデアとしては非常によいのですが、模型が暗い感じになってしまっている点が惜しいです。/中に入る人を選びそうな建物です。人が造るのに人に挑戦的な建物。絶対に「官」の人は建てないだろうなあ。/面白い構造だが、中に長く入れなそう。/発想は面白いと思うが、現実では傾いた中での生活は身体には悪影響がありそう。/身体空間の関係性。

(市民の声)
Mobilityは良い。/色分けがされていてかわいい。/空き家の活用は建築の世界ではありふれた話ですが、地域の魅力となっているものを扱っている点が良いと思います。/デザイン的に面白く、リピーターが多くなる場所になると思う。/これが生かせるロケーションがあるといいですね。でないと「とつけた縁側」になってしまうのかと。/よくある発想といえばそうなのですが、こういう空間は大好きです。/半屋外空間。

(市民の声)
殺風景な印象。/地域の特性を前面にだして面白い。/1枚目の写真がすごい。H鋼っていいですね。/H鋼は工事現場以外では見ないため忘げちである。普通の建築と違って露出させている点が面白いです。/鉄鋼のシンボルともいべきH鋼をモチーフにしたのは楽しい。ただ、三番瀬に置くというのは、皮肉が強すぎて魅力が減少するのではないか?屋外彫刻を展示できて良い美術館になりそう。/工業地帯を抜けて出てきた自然、その中に出てくる無機質な残骸のように建築物が面白いです。

(市民の声)
アートを感じます。/?/考え方が素敵。/多様な形の图形を建築に落とし込んでいる点が印象的です。(普段は四角いものしか見慣れていないので。)/抽象的な建物をどこに置けばいいかということを考え、「そこだ!」という場所においてあるのが良いです。近くのビルから眺めてみたい。/次元が高く解らない。/このような施設は農村や山、海に持つていがちだが、あえて都会のど真ん中に計画したのは面白い。/形態決定のアプローチに共感した。ただ提案が少しこそ。もう少し言語化してみるともっと広がるかも。/ドローイングが素敵です。/人によって感じ方捉え方が変わる。

(市民の声)
? /主旨が伝わりづらい。/アイデアとしては非常によいですが、模型の彩りがない点が残念です。山梨の美しさを表現することも重要だと思います。/直正、手紙を受取りたい人が住む家にしては孤独感が強すぎて、逆に何かを発信するイメージが何かあればと。「なるほど」と思った。地域の発展、訪れる理由が明確で分かり易い。/素晴らしいドローイングで思いが伝わってくる。空間へのアプローチ、シークエンス、マテリアルをもっと表現できるとっとよくなる。/あ、燃やすんだ、と思いました。/一番好きです。

(病欠の為、作品展示は取りやめました。)

15



ゴミの島を物流の島に変換する
株式会社神戸市の再生
上杉 信介（うえすぎ しんすけ）
千葉大学工学部都市環境システム学科
一次選考結果 ○ 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

3 20 23 28 18 5

(市民の声) ゴミできる限り、回収資源すれば作品の様にはならないはず。/手書き的な絵もいい。/できる限り、回収資源すれば作品の様にはならないはず。/ゴミから発展する独創性があつてすごい。/模型のインパクトがすごい。/説明がわかりやすく、物流システムの可能性を感じられました。/埋立地と聞くとマイナスイメージがはびこっていて再生することは考えたことがありませんでした。地区的問題点を解消しつつ活性化を図る点が良いと思いました。/模型表現が素晴らしい。ロジックから建築を設計して、結果的に空間として魅力的なものとしている点に感心した。/神戸空港があるから?高い建物でなく、物流機能を徹底するアイデアはアリカド。/リズムがたつていてインパクトもある。/目の付け所が面白い。現在色々と問題となっている築地が頭に浮かんだ。ごみの島の利点をうまく利用していると思う。/スケールが大きく説得力があるが、それが建築や空間まで落ちてきてないのか?落としこむ難しさもあると思う。/社会性のある提案が良い。

(市民の声) できる限り、回収資源すれば作品の様にはならないはず。/ゴミから発展する独創性があつてすごい。/模型のインパクトがすごい。/説明がわかりやすく、物流システムの可能性を感じられました。/埋立地と聞くとマイナスイメージがはびこっていて再生することは考えたことがありませんでした。地区的問題点を解消しつつ活性化を図る点が良いと思いました。/模型表現が素晴らしい。ロジックから建築を設計して、結果的に空間として魅力的なものとしている点に感心した。/神戸空港があるから?高い建物でなく、物流機能を徹底するアイデアはアリカド。/リズムがたつていてインパクトもある。/目の付け所が面白い。現在色々と問題となっている築地が頭に浮かんだ。ごみの島の利点をうまく利用していると思う。/スケールが大きく説得力があるが、それが建築や空間まで落ちてきてないのか?落としこむ難しさもあると思う。/社会性のある提案が良い。

16



協奏するショッピングウォール
河鶴 公晃（かわづ きんこう）
東京理科大学理工学部建築学科
一次選考結果 ○ 二次選考結果 ○

優秀賞

JIA 全国大会出品

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

19 28 10 13 7 3

(市民の声) 少子化なので、大規模施設は必要か否か。/模型の細かさに驚いた。/模型は大作である。/芸が細かい。中までしっかり見せてるのがかっこいい。/商業施設の現状とその改善案が面白いです。模型が暗すぎる点が惜しいです。/ショッピングモールのファサードはいろいろ遊べそうなのに、外にただ白い箱みたいな建物が多い。こういう施設がもしかしたら、入ってみたいですね。/発想としては面白く新しいと思う。/ファサードを境界として形成される内と外の関係をもっと提案されるよいかと。

(市民の声) 少子化なので、大規模施設は必要か否か。/模型の細かさに驚いた。/模型は大作である。/芸が細かい。中までしっかり見せてのがかっこいい。/商業施設の現状とその改善案が面白いです。模型が暗すぎる点が惜しいです。/ショッピングモールのファサードはいろいろ遊べそうなのに、外にただ白い箱みたいな建物が多い。こういう施設がもしかしたら、入ってみたいですね。/発想としては面白く新しいと思う。/ファサードを境界として形成される内と外の関係をもっと提案されるよいかと。

17



林の奥に座して四顧し、傾聴し、睇視し、黙想す。（市民の声）
一国木田独歩文学館
井手 洋汰（いで ゆうた）
日本大学生産工学部建築工学科
一次選考結果 ○ 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

21 4 12 9 6 2

(市民の声) 屋根の形、昔風が良い。/シーンが考えられていてよかった。/地域の特徴と歴史人物、それらを意識した建築を絡めている点が良いです。模型が白一色という点が残念です。/テーマとロケーション、デザインがはまっていて良いと思います。全部合わせて気持ちの良いエリアになりそうです。/入っていった中での空間は面白そう。自然の中にうまく溶け込める美しさと思う。

(市民の声) 屋根の形、昔風が良い。/シーンが考えられていてよかった。/地域の特徴と歴史人物、それらを意識した建築を絡めている点が良いです。模型が白一色という点が残念です。/テーマとロケーション、デザインがはまっていて良いと思います。全部合わせて気持ちの良いエリアになりそうです。/入っていった中での空間は面白そう。自然の中にうまく溶け込める美しさと思う。

18



-何もしないこと-
鹿児島県垂水市牛根薦における思い巡らす空間の提案
駿河 洋子（するが ようこ）
千葉工業大学工学部建築都市環境学科
一次選考結果 二次選考結果

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

18 5 13 22 4 1

(市民の声) テーマが良い。/主旨が伝わりづらい。/現代社会の鬱憹を忘れ、自然の美しさに思いをせるというストーリーがとても好きです。/上記のように何かテーマがあるといいなど。「お金のある人がボーッとする別荘」でも良いかも知れないですが、共感するのは難しいです。

(市民の声) テーマが良い。/主旨が伝わりづらい。/現代社会の鬱憹を忘れ、自然の美しさに思いをせるというストーリーがとても好きです。/上記のように何かテーマがあるといいなど。「お金のある人がボーッとする別荘」でも良いかも知れないですが、共感するのは難しいです。

/発想が面白いと思った。/形態の美しさがあるが、その空間のアリティ（構造、素材感、スケール感）をもっと追究してほしい。

/発想が面白いと思った。/形態の美しさがあるが、その空間のアリティ（構造、素材感、スケール感）をもっと追究してほしい。



最優秀賞

思いを受けとめ、届ける。杉山 未沙



JIA 全国大会出品



なの花賞

彩配置装置 西田 安希

今大会は、6大学10学科から18作品という多くの作品が出展されました。今年も力作が揃いましたが、その中でも短期大学部の学生の作品が年々レベルを上げているように感じました。

毎年多くの作品が展出される中、自然や資源（エネルギー）、交流や災害などをテーマとしたものが必ずある一方で、最近は地域の再生などの社会的問題を扱うものも増えてきています。そこには綿密なリサーチに基づき、実際にその場に身をおくことで見えてくるテーマを作り出しているものもあります。

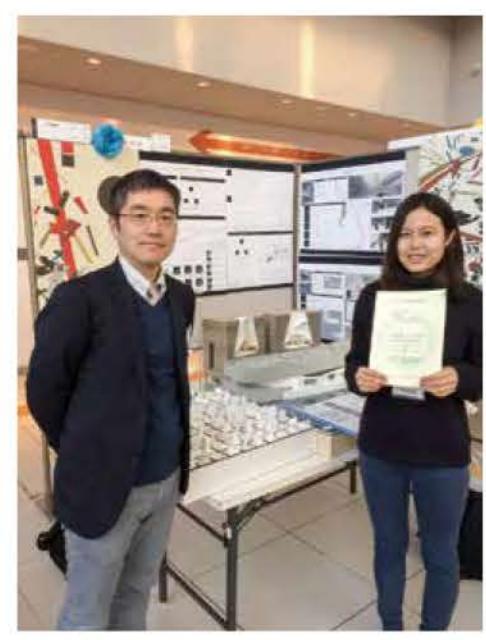
今回、なの花賞を選ばれた作品はそう言ったものとは少しアプローチが異なり、マレーヴィッチの「シュープラメテスト・ペインティング」を見た作者がその時受けた感情を振り返り所とし、それをどうすれば建築へと昇華できるか作者自身の葛藤が読み取れる作品です。

評議の中では「絵画の構成から着想を得て、そこからオブジェクト、モノが先行する構成を表現しているのが面白い・・・人間中心主義ではないアプローチを絵画から発展させ、フォーリーのような建築をつくっているのが興味深い・・・」などの意見があり、建築の完成度に加え、建築へのアプローチも評価されました。

OB・OGによる評議では、審議の始めから支持を得ていた作品ではありませんでしたが、評議に参加したなの花会員の喧々諤々の議論の末、最後は半数以上の支持を得る結果となりました。

卒業設計として選んだこのテーマは、今後設計に関わっていく上でとても大きな意義を持つことになると思います。西田安希さんの次へのステップアップを期待したいと思います。

（なの花会長／第1回出展 岡松利彦）



高校の部 審査総評

高校



千葉県建築学生賞協議会審査副委員長

小島広行

感性と創造力の可能性

本年度の作品は大別して、地域性を分析し、そこからヒントを得て建築的表現へと連携する作品とストーリー性により生まれる建築空間、建物の単体の魅力を創出する提案でした。

大学生の部に於いて優秀作品は、いずれも創造手法の優れたものを選出できたと思います。

また、高校生の部に於いても同様でありながら大学生よりも小さい単位での心配り豊かな提案に目を奪われました。それは、ピュアな感性が秀でたものとして受けとれ、子供の目線であったり、家族の繋がりに対する提案、人が楽しく過ごせる空間の提供等、細やかな建築を創りあげていました。

「ふなばしケイバみんなのケイバ」は緑豊かで広大な外部空間をケイバ開催時にとどまらず地域に開放し土地の有効活用について考えさせられた作品。作者は女性の目線でギャンブル性のある少し近寄れがたい空間に着目した点が評価されました。

「現代地球美術館」は海と山の狭間の領域環境を捉えながら地球を

感じられる空間であり、様々な形態を連結し、各ボリュウムの隙間から見える自然が気持ちの良い空間を想像できます。

「ホワイトシップ」は公園と一体化するショッピングモールの提案です。人の動きを考慮し建築空間を提案しており、開口部の設置方法が絶妙な計画です。また、模型も構造を考慮し、精巧に制作されています。

「自然の輪 芽から大樹へ」というタイトルから想像できる、環状の平面計画には子供たちが楽しそうに走り廻れる施設が浮かび上がります。その建物は幼稚園であり、中庭空間には大樹があり、人間に換置すると幼児が木の芽を表現しており、大樹の様に大きく健康に育って欲しいという祈りが込められている提案です。

「空の見える美術館」はファサードのデザインが特徴的で地域のランドマークになることを目的とし、来館者にストレスを感じることなくアートに没頭すべく安らぎの空間が展開されています。

「エーデルワイスリゾート」は核家族化した社会問題を解決すべく、多世帯が少しでも長く滞在し、良好な家族関係の持続を促す空間構成となっています。

今年の6作品は、提案・プレゼンテーションとも素晴らしい、例年

の作品選定とは相違し、悩まされた審査でした。これは、前年度の作品よりも完成度を上げること、すなわち会を重ねる毎にクオリティの向上していくことが千葉県学生賞にとって最大の目的を果たしていると感じました。

発想力・着眼点・構築力・模型の精度・プレゼンテーションの質の向上、いずれも秀でており、特にプレゼンテーションは、パースやイラストを駆使しわかりやすく表現しています。

進学の学生さん、就職の学生さんとも進路は様々でしょうが出演された方々は、今後の建築人生に自信を持って歩んでほしいと考えます。

また、指導をして頂いた先生方に深い感謝をしていただきたいと思います。

若い力が今後の建築界を牽引し素敵な社会を創出することを期待します。





大沢 幸助（オオサワ コウスケ）

千葉県立京葉工業高等学校 建設科

伸びやかで開放的な空間を持つ幼稚園の提案である。大きな模型を覗くと、子供達が育つ場としての豊かな空間が随所にちりばめられており、見る方も思わずワクワクしてしまう様な空間提案がされている。

ラグビー場の形状を半分に割ってずらした平面形状はエントランスの配置の仕方や、細長い室内空間と子供達の溜まりの場など、巧みに空間が構成されており、思わず唸らせるプランニングである。内部空間と中庭とのつながりや、ピロティとして計画した建物外周部の空間も魅力的である。柱の大きさ等、構造的な配慮までされているのは先生の指導もあったであろうが、諸室のレイ

自然の輪 ~芽から大樹へ~

本来は、幼少期の遊びの中で生きていく上で大事なことを学んでいく。しかし、最近の子ども達は安全管理の面や電子機器の普及によって外で遊ぶ機会が減ってきている。

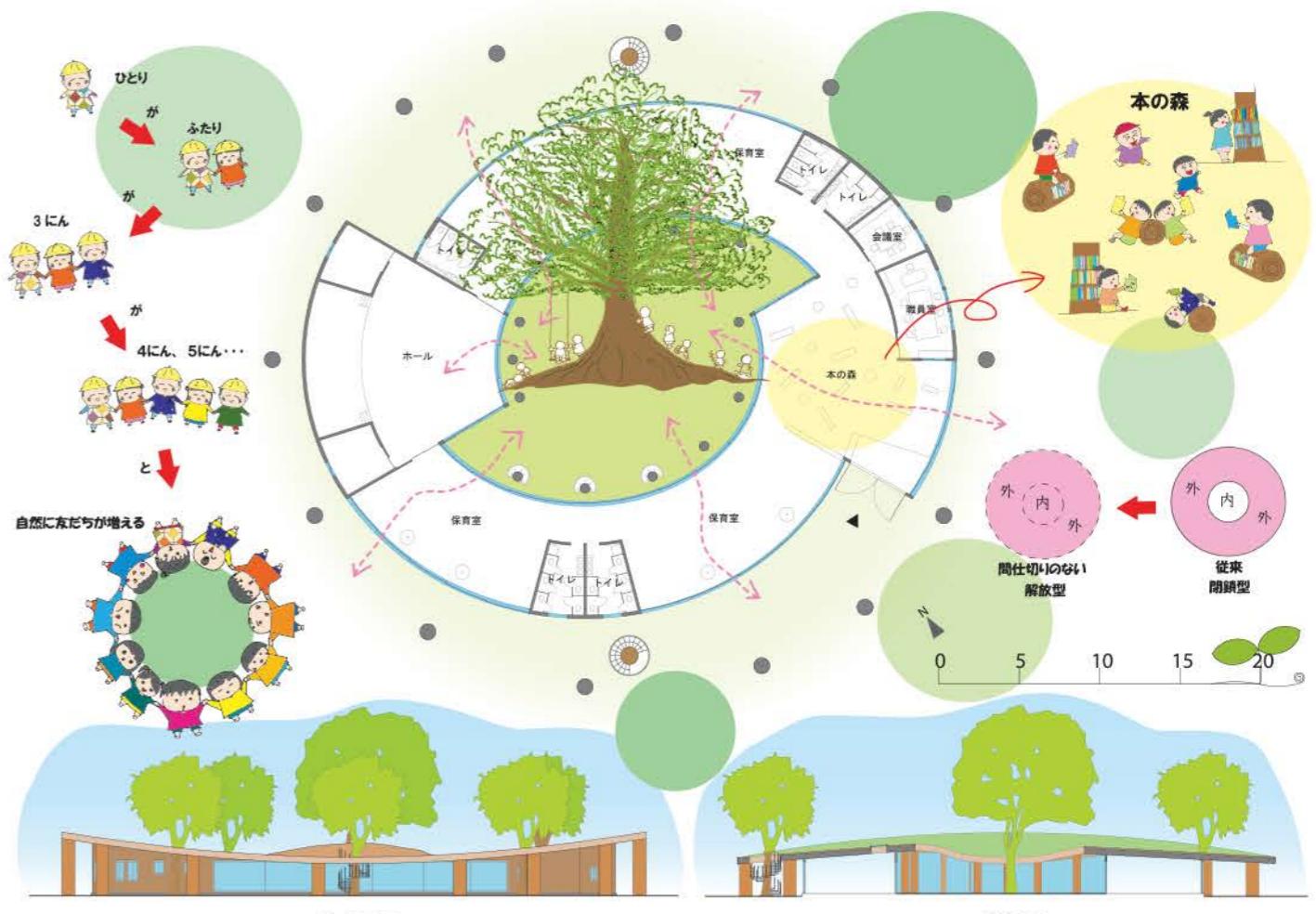
そのため、室内で遊ぶ時間が増え、コミュニケーションが不足し、自ら行動することができなくなっている。

そこで、森の中にいるような幼稚園を考案した。

ここでは、子ども達の自主性を大事にし、子ども達自身で遊びを見つけ、日々新しい発見や探求をしたりすることができる。

様々な体験をすることによって人との助け合いや社会のルールなどを学んでいく。

自然のなかでのびのびと成長し、小さな芽である子供たちが巣立っていく頃には、たくましく大樹になっていくような学び舎を提案する。



北立面図

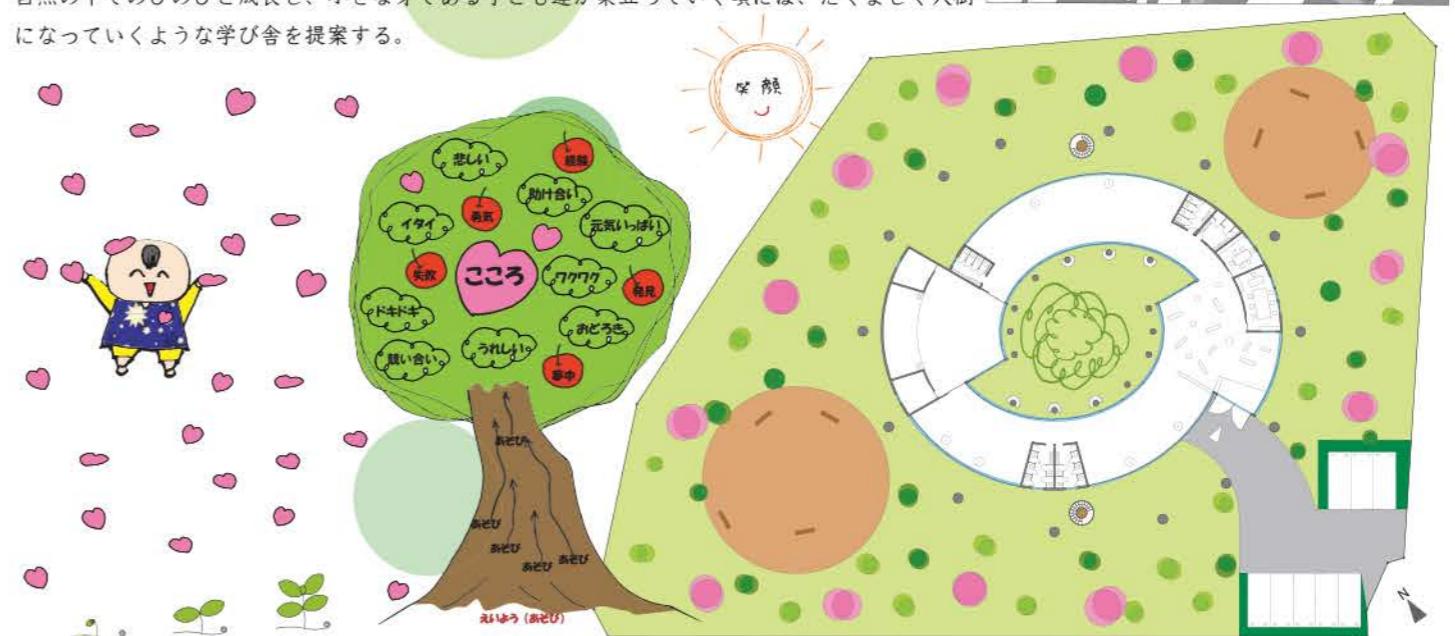
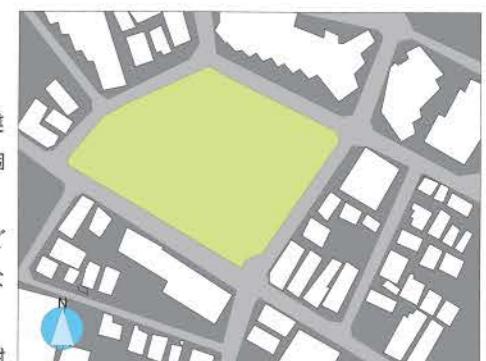
断面図

自然の輪 芽から大樹へ

本来は、幼少期の遊びの中で生きていく上で大事なことを学んでいく。しかし、最近の子ども達は安全管理の面や電子機器の普及によって外で遊ぶ機会が減ってきてている。そのため、自然と個室で遊ぶ時間が増えコミュニケーションが不足し自ら行動することができなくなっている。

そこで、森の中にいるような幼稚園を考案した。ここでは、子ども達の自主性を大事にし、子ども達自身で遊びを見つけ、日々新しい発見や探究をしたりすることができる。また、さまざまな体験をすることによって人との助け合いや社会のルールなどを学んでいく。

自然の中でのびのびと成長し、小さな芽である子ども達が巣立っていく頃には、たくましく大樹になっていくような学び舎を提案する。



審査員：皆川 拓



田中 琴音 (タナカ コトネ)
千葉県立市川工業高等学校 建築科

ふなばしケイバみんなのケイバ

船橋市にある「船橋競馬場」は、ららぽーとやIKEAなどの大型商業施設に隣接し、多くの人が集まる場所に立地している。レースが開催されるのは月一週間程度である。しかし、良好な環境があるにもかかわらず、うまく活用されていない場所でもある。

本設計では、競馬場の中に引き込むための建築を設計する。エントランス棟と観覧棟の二つを設計することで、敷地全体を市民に開かれた広場となる。

「船橋競馬場」が「みんなの船橋競馬場」に変化する。

他の出展者が、まっ更な土地に思い思いの夢を目一杯詰め込んだ提案をしている中、既存の施設や周辺環境を考察し、そこから問題点を発見し、その問題へ果敢に挑んでいった姿勢をまず評価したい。また、その挑戦は、他の作品にも劣らず、夢がたくさん詰まっていたものであったように感じた。そして、建築そのものの設計にも丁寧に向き合うだけでなく、敷地全体のランドスケープが、周辺環境もきちんと考慮した上で提案されていた点も素晴らしい。都市スケールで俯瞰して見た大きなスケールから、利用者目線の小さなスケールまで、色んな視点での気付きが設計に反映されているところも魅力的だっ

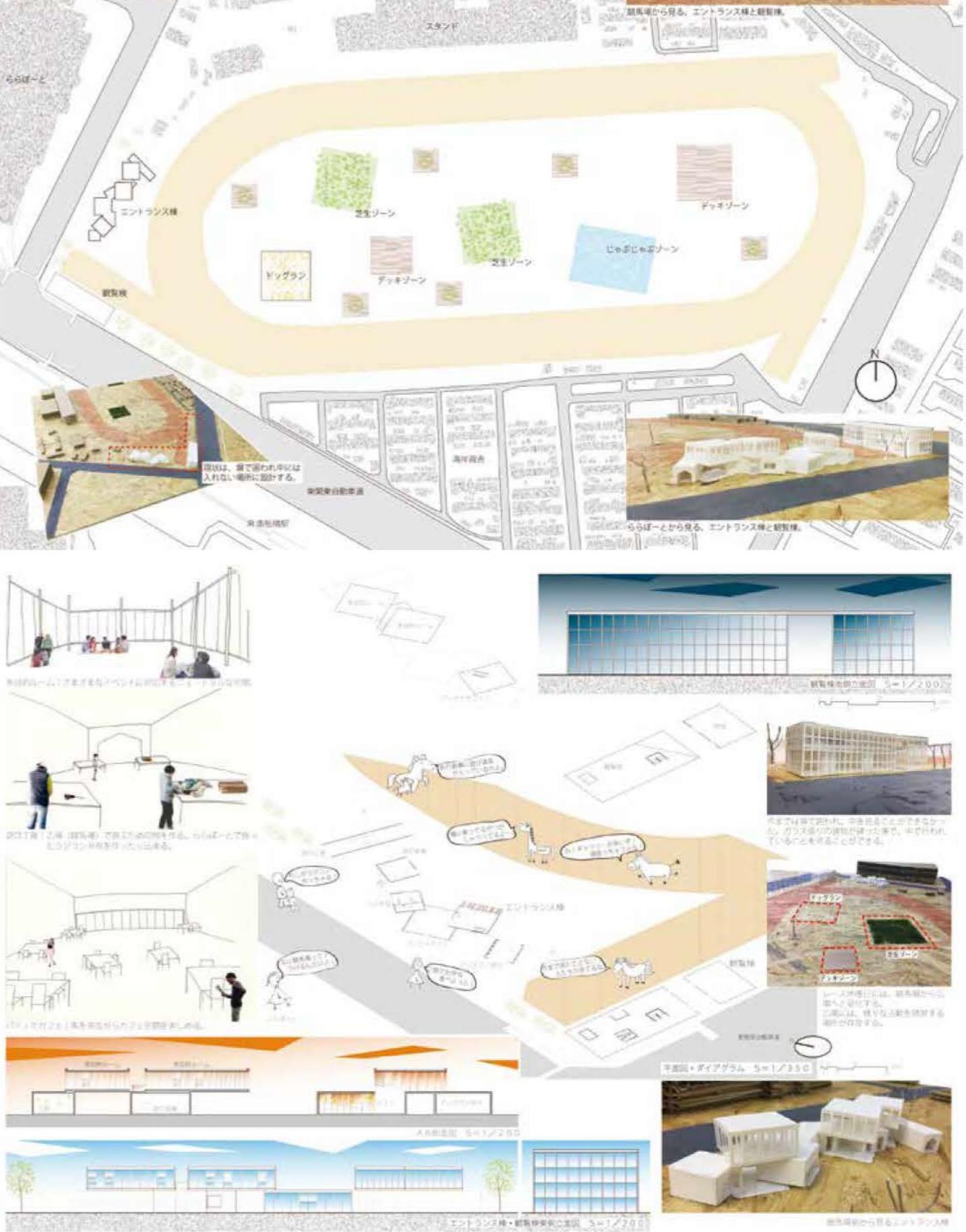
た。高校生の作品とは思えない、ロジカルさと遊び心を併せ持った、非常にクオリティの高い提案だったようだ。そして何より、自分の提案に自信をもって、楽しそうにプレゼンテーションする作者の姿に感銘を受け、引き込まれてしまった。提案の魅力をより多くの人に伝えるために、模型やイメージパースなどのプレゼンテーションの表現に、さらに磨きがかかっていくことに期待したい。



審査員：西山 芽衣

ふなばしケイバみんなのケイバ

船橋市にある「船橋競馬場」は、ららぽーとやIKEAなどの大型商業施設に隣接し、多くの人が集まる場所に立地している。レースが開催されるのは月一週間程度である。良好な環境があるにもかかわらず、うまく活用されていない場所でもある。本設計では、競馬場の中に引き込むための建築を設計する。エントランス棟と観覧棟の二つを設計することで、敷地全体を市民に開かれた広場となる。「船橋競馬場」が「みんなの船橋競馬場」に変化する。



奨励賞

高校



現代地球美術館

千葉県鴨川市の海岸沿いに建つ美術館である。

この美術館は「現在の地球」を表現したものである。集落のように展示室が点在し、それらを通路で繋いだ形になっている。通路は、人間を繋ぐことを表現している。一人ではできないことも、協力し合えば大きな力になれば良いとの希望を持って設計した。

そして、この敷地は森、海、空をこの場所で見ることができます。美術館の内部では、多くの美術品によって感動を得ることができます。

伊藤 涼太 (イトウ リョウタ)

千葉県立市川工業高等学校 建築科

千葉県鴨川市の海岸に沿った松林の中に計画された美術館。正方形や長方形、正円の箱を有機的につないだ流れのような造形が目を引く。各展示室は集落に見立て、それらをつなぐ通路は、さしづめ人やモノ、文化の流れがある交易路としての役割を持たせているらしい。また本人の説明では、グーグルアースを見て格好よく見える造形を意識して計画したということで、その感性も新しいものを感じさせる。

計画ではエントランス、受付を通り、まずそこから地下にアクセスさせる。その地下の暗さ、不安定さを意識させておいて、そこから明るい地上階の展示スペースに導く。

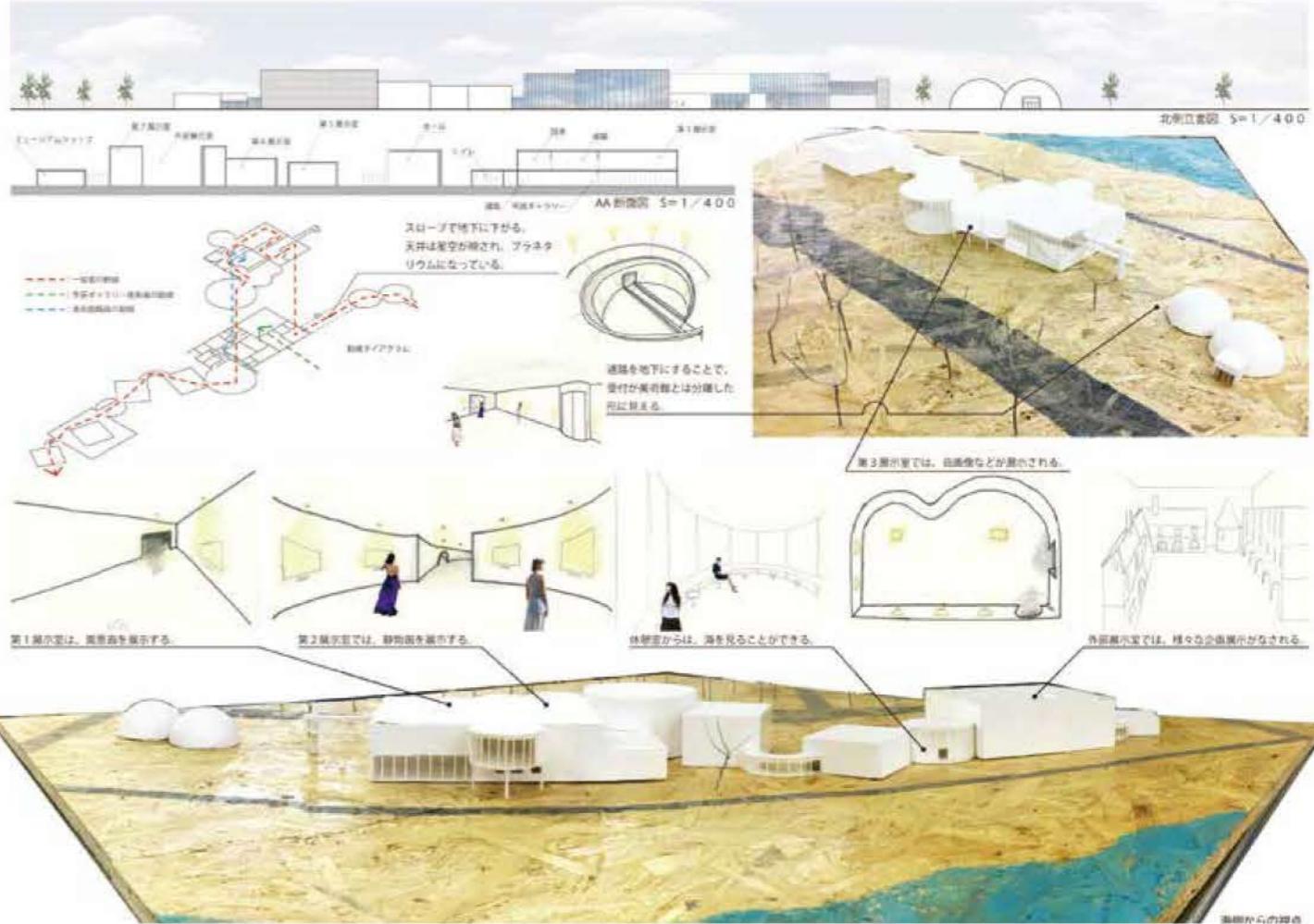
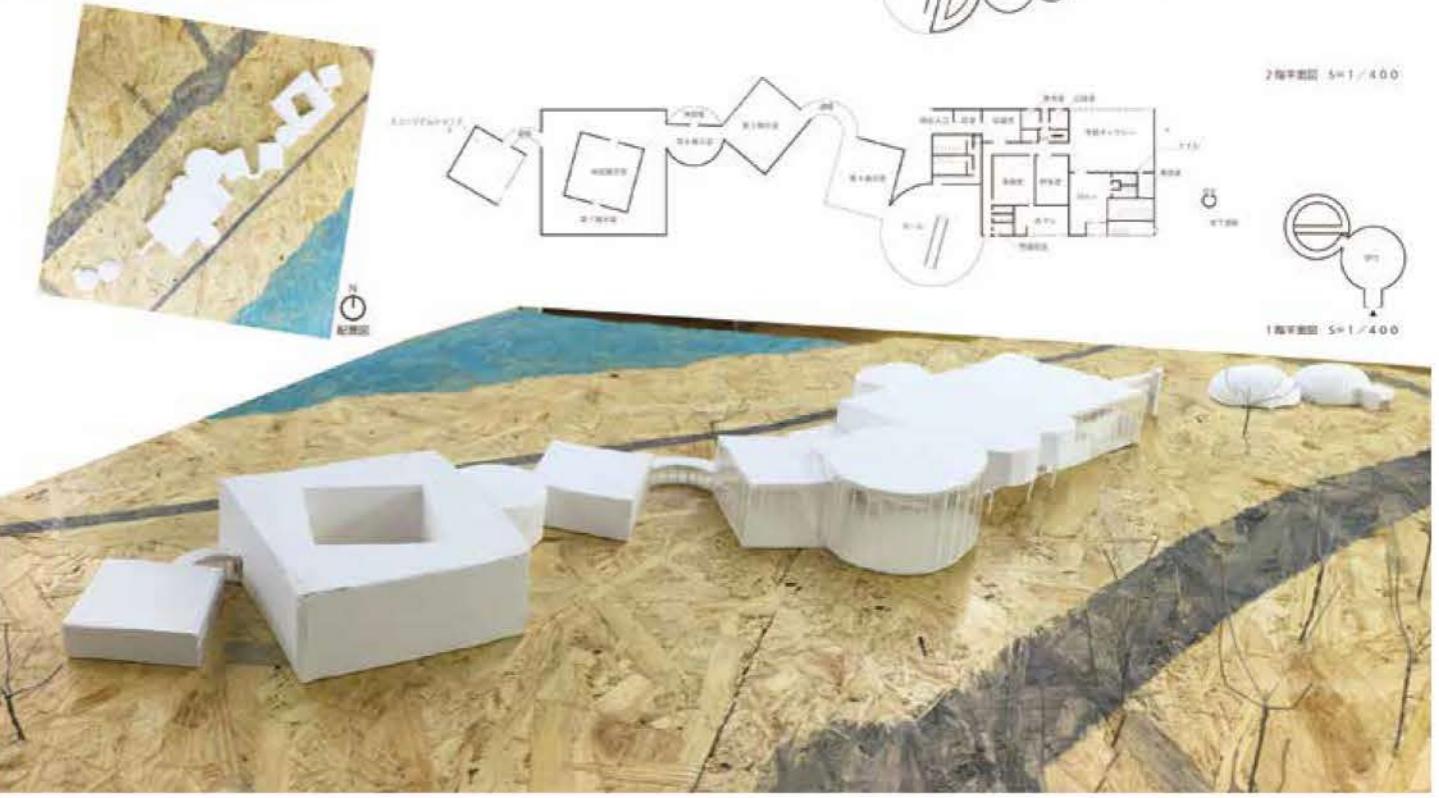


審査員：飯沼 竹一

現代地球美術館

千葉県鴨川市の海岸沿いに建つ美術館である。この美術館は「現在の地球」を表現したものである。集落のように展示室が点在し、それらを通路で繋いだ形になっている。通路は、人間を繋ぐことを表現している。一人ではできないことも、協力し合えば大きな力になれば良いとの希望を持って設計した。

そして、この敷地は森、海、空をこの場所で見ることができます。美術館の内部では、多くの美術品によって感動を得ることができます。美術館の内部では、多くの美術品によって感動を得ることができます。





磯 韶貴 (イソ ヒビキ)

千葉県立市川工業高等学校 建築科

気軽に理由もなく人が集まる場所、特に理由もなく、出かけてみようと思う場所になるショッピングモールとして計画された。津田沼駅に面してエントランス、階段等が配され、U形形状の平面を持つ3階建ての計画となっている。模型等で広場部分と公園部分の一体感がもう少しありやすやすく表現されておれば、設計主旨が理解されやすかったのではないかでしょうか。また、南側には

ホワイトシップ

～公園と一体となるショッピングモール～

都市部では公園のように、気軽に理由もなく人が集まれる場所が少なくなってきたように思える。そのため家に居ることが多くなった人々に、特に理由もなく、出かけてみようと思う場所になるショッピングモールを計画する。

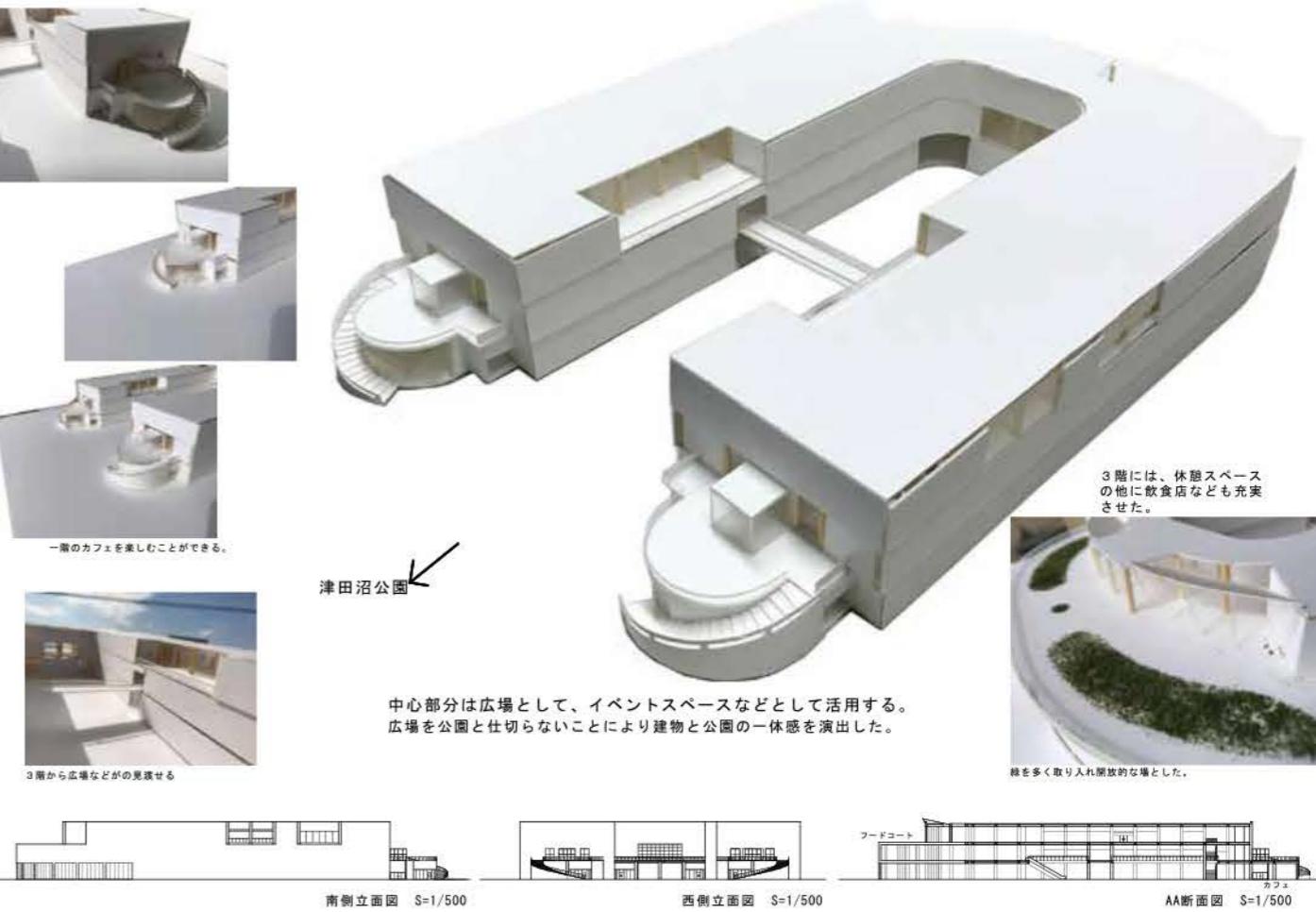
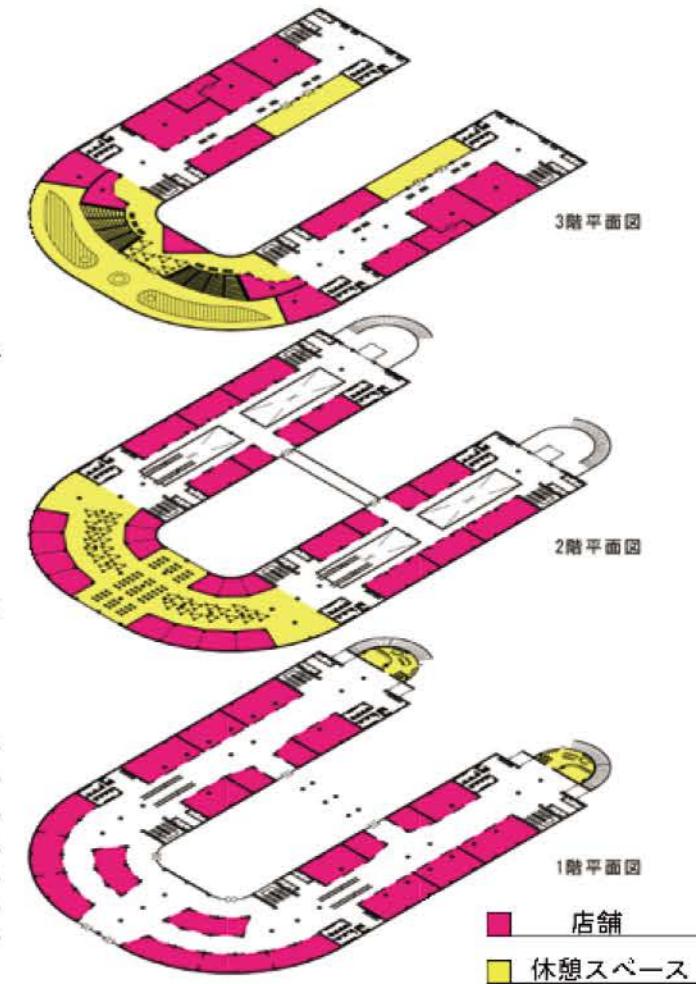
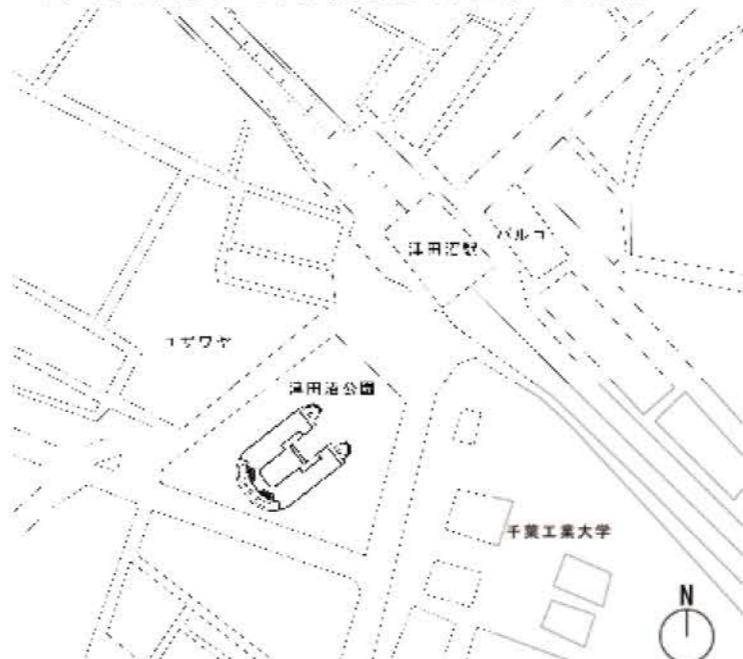
お客様がゆったりと、公園にいるように過ごせることを目的とした。休憩をとれるスペースを多く設けることにより、時間を忘れて買い物ができる空間に左右対称に店舗を配置することにより、お客様の導線が交わらず、密度が低くなりストレスを感じることなく、過ごせるショッピングモールとなる。

ホワイトシップ

～公園と一体となるショッピングモール～

都市部では公園のように、気軽に理由もなく人が集まれる場所が少なくなってきたように思える。そのため家に居ることが多くなった人々に、特に理由もなく、出かけてみようと思う場所になるショッピングモールを計画する。お客様がゆったりと、公園にいるように過ごせることを目的とした。休憩をとれるスペースを多く設けることにより、時間忘れて買い物ができる空間となる。

左右対称に店舗を配置することにより、お客様の導線が交わらず、密度が低くなりストレスを感じることなく、過ごせるショッピングモールとなる。



審査員：園部 隆夫



伊藤 駆 (イトウ カケル)

千葉県立市川工業高等学校 建築科

私たちの暮らしの回りは、実は芸術で溢れている。しかしその認識が薄いため、芸術を疎遠なものと感じている。そこで作者は、アンケート調査を踏まえ、特に若い人の芸術への関心を高めようと、気軽にに入る美術館を計画しようと考えた。この考察は、大学生レベルであり、動機づけが素晴らしい。

計画地は、千葉県市川市鬼高、大型商業・図書館・科学館・教育などの施設が結集している賑わいのエリアである。提案された造型は、幾何学を根拠に、半円筒形を1・2階でずらし、上部バットレスをランドマークとしている。

空の見える美術館

～芸術と人とのつながり～

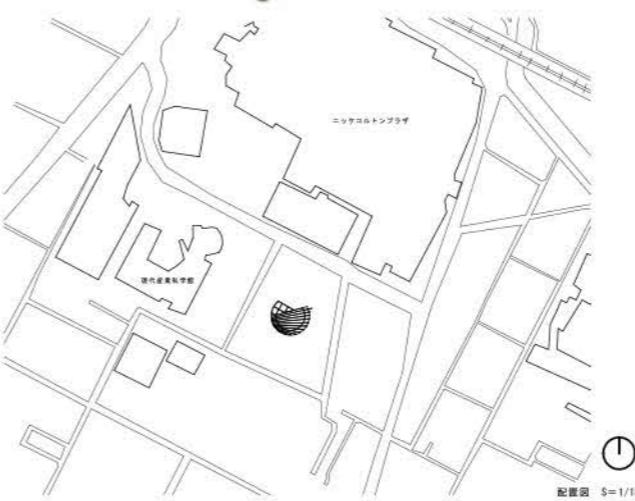
インターネットアンケートの調査で、若年層の美術館離れが懸念されているのを見た。そこで、私は誰もが興味を持つてもらえ、気軽にに入る美術館を計画する。

計画地は、千葉県市川市鬼高である。この地域は、大型商業施設のニッケコルトンプラザ、現代産業科学館、中央図書館や小学校が隣接し若い人が集まる地域になっている。

この美術館で、若い人たちに芸術への関心を高めてもらうことを期待する。

空の見える美術館

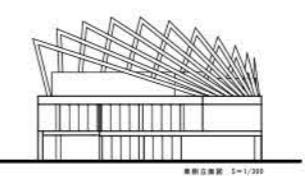
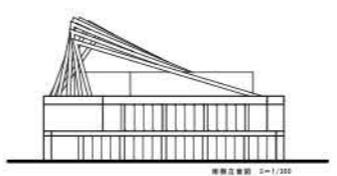
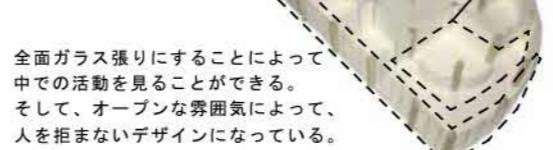
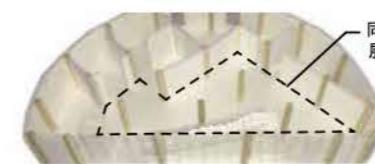
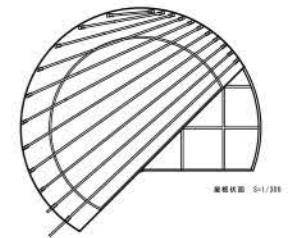
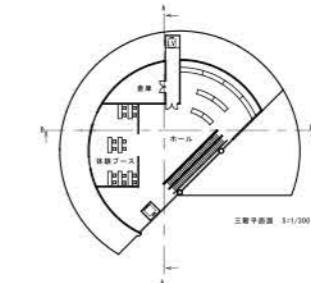
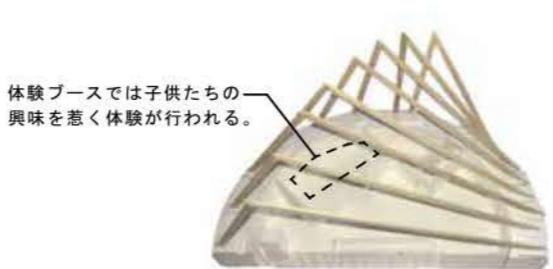
～芸術と人とのつながり～



インターネットアンケートの調査で、若年層の美術館離れが懸念されているのを見た。そこで、私は誰もが興味を持つてもらえ、気軽にに入る美術館を計画する。

計画地は、千葉県市川市鬼高である。この地域は、大型商業施設のニッケコルトンプラザ、現代産業科学館、中央図書館や小学校が隣接し若い人が集まる地域になっている。

この美術館で、若い人たちに芸術への関心を高めてもらうことを期待する



審査員：鳴海 雅人



奨励賞

高校



秋元 澪伽 (アキモト ミオカ)

千葉県立市川工業高等学校 建築科

エーデルワイスリゾート

～子供からお年寄りまで家族みんなが楽しめるホテル～

昨今、核家族化して夫婦と子供だけで生活して、3世代で暮らしている家族はどんどん減っている。

祖父母と年に数回しか会わない現状がある。家族みんなで過ごす時間を増やしたほうが良いと考えた。

家族みんなで過ごす時間をもっと増やせば、妻の両親と夫の両親の仲も良くなり、姑問題も減るかもしれない。

そこで子供からお年寄りまで家族みんなが楽しめるホテルを設計した。

今回参加した全作品（高校生+大学生）の中で、最もタイトルが長い作品である。このタイトルからは、自己の感覚に立脚して社会を眺め、そこから素直にテーマを導き出していることが伺える。それは、とても大事なことだ。

そのテーマの一つは家族である。ネット上の仮想空間と個人がつながる時代、またAIの機能が飛躍的に向上することで、機械と人間が繋がりつつある時代であるからこそ、家族という言葉に象徴される「個と個の繋がりをどう再構築していくのか？」は、社会の大きなテーマである。

また、そのつながりを結び直す場を、商業空間であるホテルに求めたということも新しい発想であると受け止めた。基本的に客室単位で分離されているホテルが、家族だけでなく、世界中から集まる様々な人々をつなぐ場になつたら、それはとても素晴らしいことだと思う。

そして、建築設計という職能は、自己と社会の関わりの中から問題点を見つけて、そのテーマを分かり易く空間に翻訳していくことである。もし、これからも設計に関わっていくとしたら、このことを忘れないで欲しい。

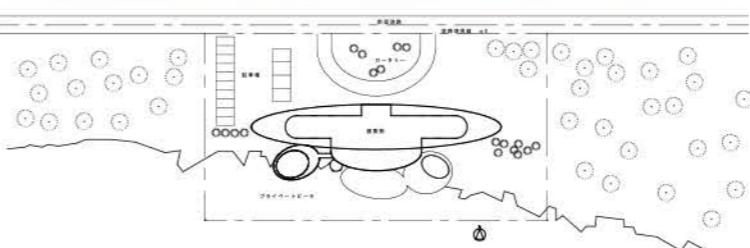


審査員：安田 俊也

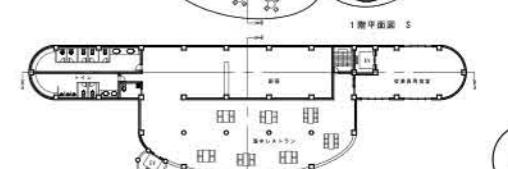
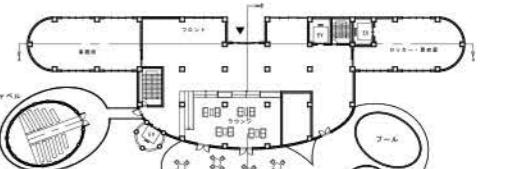
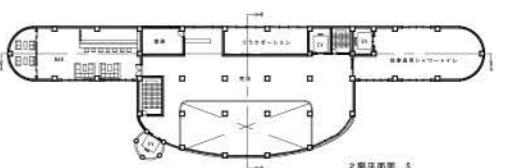
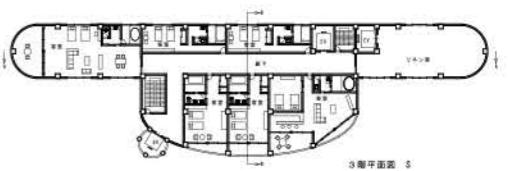
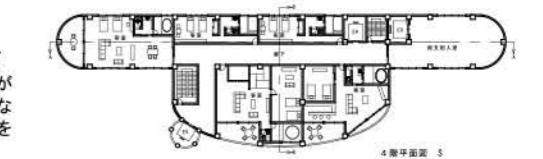
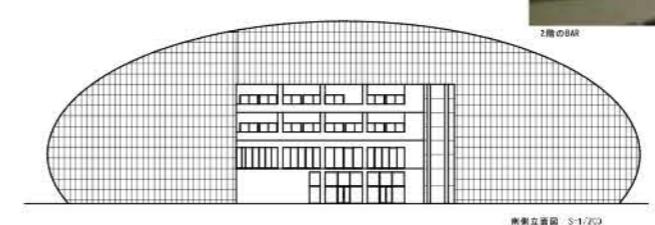
エーデルワイスリゾート

～子供からお年寄りまで家族みんなが楽しめるホテル～

昨今、核家族化して夫婦と子供だけで生活して、3世代で暮らしている家族はどんどん減っている。祖父母と年に数回しか会わない現状がある。家族みんなで過ごす時間を増やしたほうが良いと考えた。家族みんなで過ごす時間をもっと増やせば、妻の両親と夫の両親の仲も良くなり、姑問題も減るかもしれない。そこで子供からお年寄りまで家族みんなが楽しめるホテルを設計した。



以前、家族で宿泊したリゾートホテルは、バリアフリーになってないところが多かった。そして、子供や高齢者が行きにくい高級感があり、行っても楽しめないなどの不満を感じた。だから小さい子供からお年寄りまでいろいろな世代の人たちが楽しめるようなホテルを作りたいと思った。



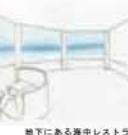
2階の吹き抜け部分
1階のラウンジと繋がる。



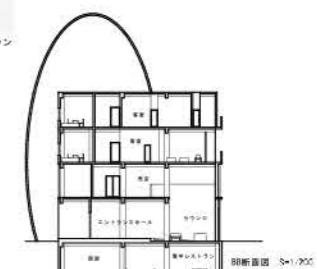
海中レストランで、魚を見ながら食事をする。



海側から見るホテル



地下にある海中レストラン





船橋ケイバみんなのケイバ

田中 琴音 (タナカ コトネ)
千葉県立市川工業高等学校 建築科

銀賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・<市民賞>

3	5	9	16	5	2	22
---	---	---	----	---	---	----

(市民の声)

競馬をしながら本を読む、図書館の併設は大きい敷地を持っているのに活用されていないのは勿体ないと思っているのは同感です。/スポーツに限らず、文化的な活動の場となるのは面白いです。/主張を整理してポスターにしたらよい。/エントランスのデザインは良いと思うが、中心の広場の活用の仕方がインパクトの弱さを感じる。/実際に競馬場はものすごく広い場所で、レースのない日にも遊べる空間づくりをするのは十分に「アリ」だと思います。/普段歩いていると歩道橋から馬が見えたりする子供たちは、歩道橋で止まり馬を見る。それを自然の流れの中で見れるという発想は良いと思う。



海が見える美術館

伊藤 涼太 (イトウ リョウタ)
千葉県立市川工業高等学校 建築科

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

11	1	10	5	3	2	32
----	---	----	---	---	---	----

(市民の声)

見るだけでなく、海を利用できるといいと思います。/自然の多くと人間の活動をみることができる点はとても面白いです。/海との接点があるともっと楽しくなりそう。/外観のデザインは良いと思うが、2階部分の内装が気になる。/とても分かり易いコンセプトで良いと思う。



ホワイトシップ

磯 韶貴 (イソ ヒビキ)
千葉県立市川工業高等学校 建築科

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

0	0	0	0	0	0	1
---	---	---	---	---	---	---

(市民の声)

作品がないのは残念。/狭小敷地でのメリットが大きいにあると思う。/ダイアグラムを考えられていて良い。デザインがかわいい。/ポスターはデザインが良く、色使いも主題に沿っていて良い。/住宅街の中に残る空地の真ん中に大きな樹があるというシチュエーションは実際に難しいかもしれません、実現すれば絶対楽しい園舎になると思います。/市民の憩いの場としての建築、良いと思います。



"自然の輪 ～芽から大樹へ～"

大沢 幸助 (オオサワ コウスケ)
千葉県立京葉工業高等学校 建設科

金賞

市民賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

7	3	4	10	4	1	★ 34
---	---	---	----	---	---	------

(市民の声)

やりたいことは伝わってくる。このままセンスを磨いてほしい。



空が見える美術館

伊藤 駆 (イトウ カケル)
千葉県立市川工業高等学校 建築科

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

0	0	0	0	0	0	1
---	---	---	---	---	---	---

(市民の声)

やりたいことは伝わってくる。このままセンスを磨いてほしい。



エーデルワイスリゾート

子供からお年寄りまで家族みんなが楽しめるホテル
秋元 澄伽 (アキモト ミオカ)
千葉県立市川工業高等学校 建築科

奨励賞

美しくきれい・迫力がある・独創性がある・テーマや発想が面白い・説得力がある・デザイン性に欠ける・インパクトが弱い・独創性に欠ける・テーマや発想に共感できない・説得力が弱い・<市民賞>

0	0	0	0	0	0	0
---	---	---	---	---	---	---



審査委員長



なかの まさや

中野 正也

出向元：(一社)日本建築学会関東支部 なの花会（出展者の会）。
1974 京都府京都市生まれ / 1997 千葉工業大学工学部建築学科卒業 / 1997～2000 (株)野生司環境設計 / 2001～2013 (株)デネフェス計画研究所 取締役副所長 / 2001～2014 千葉工業大学工学部建築都市環境学科非常勤講師 / 2014～ (株)neufworks(ヌフ・ワークス)設立。
船橋Sビル、船橋M邸、幕張本郷の家、港区立高輪子ども中高生プラザ※ HOUSE-SAKT※
(※はデネフェス計画研究所在籍時の担当作品)

副審査委員長



こじま ひろゆき

小島 広行

出向元：(公社)千葉県建築士事務所協会
1962年千葉県生まれ / 1986年日本大学生産工学部建築工学科卒業 / 1990年～(株)榎本建築設計事務所 / 2004年～(株)デ・スタイル建築研究所 設立 / 2004年～日本大学非常勤講師。
第2・4・8・9・14・20回千葉県建築文化賞 第29回「NICHIA SIDING AWARD2012」ゴールド賞、第10回賞金賞 通産大臣賞、2005千葉市優秀建築賞、2002文部科学大臣賞、1998文教施設协会会长賞。

審査委員



なるみ まさと

鳴海 雅人

出向元：(一社)日本建築学会関東支部
1958年青森県生まれ / 1980年芝浦工業大学建築学科卒業 / 1980年～佐藤総合計画(旧佐藤武夫設計事務所) / 現在執行役員設計室長
日本建築学会、JIA 日本建築家協会登録建築家 CASBEE評価委員公共建築のコンペ・アート・ギルドから設計監理まで実作は100件以上に関わる。グッドデザイン賞、BCS賞、建築学会選奨、JIA賞、図書館建築賞など多数。著書に「人生は満たされなかった建築で溢れている」(鳴海雅人著書・青弓社)「予感の形式(共著・日刊建設通信新聞社)」「触発する図書館(共著・青弓社)」「つなぐまちづくりデザイン(共著・日刊建設通信新聞社)」「ほんものづくり」(共著・建築ジャーナル)

審査委員



やすだ としや

安田 俊也

出向元：(一社)日本建築学会関東支部
1959年千葉県生まれ / 1981年早稲田大学理工学部建築学科卒業 / 1981年山下設計 / 現在 山下設計プリンシパルアーキテクト
市川市新庁舎、2020年竣工予定、高崎アリーナ 2017年竣工予定、ナセBA(市立米沢図書館+よねざわ市民ギャラリー、なみきスクエア(香椎副都心公共施設)、KUSTE(勝浦市芸術文化交流センター)、尾張一宮駅前ビル(図書館を中心とした複合文化施設)、東部地域振興ふれあい拠点(耐火木造の公共施設)、アイシンAW技術センター他

審査委員



いいぬま たけいち

飯沼 竹一

出向元：(一社)日本建築学会関東支部千葉支所
1962千葉県松戸市生まれ / 1986日本大学理工学部建築学科卒業～株式会社 東建築設計事務所 / 2002～アトリエ24一級建築士事務所 設立。
(公社)日本建築家協会 登録建築家。
有明客船ターミナル、千代田区神田公園出張所、自由が丘・鳥へいビル、谷津の家、おゆみ野の家、Boulangerie粉桜、真間の家、園生町のクリニック。

審査委員



そのべ たかお

園部 隆夫

出向元：(一社)日本建築構造技術者協会・関東甲信越支部サテライト千葉(JSCA千葉)
1948茨城県水戸市生まれ / 1973日本大学大学院理工学研究科建設工学修了 / 1973～1998(株)フジタ 構造設計部 / 1999～(株)SPC設計
文化服装学院、文化女子大学校舎、フジタ本社ビル、橋本駅北口地区再開発、周西及び君津中学校屋内運動場、住友不動産成増駅前計画、大宮にヶ原(共同設計)他

■自分自身が作品の審査をしながらも新たな時代を担う出展者みなさんやその作品から多くの刺激をいただきました。

■大学生の部・高校生の部とも多数の作品を検証しながら、緊張感を持つと共に楽しみながら審査することができました。学生諸君の将来に期待しています。

■考え抜いた唯一無二の提案をシンプルに表現しましょう。それは必ず伝わり、心に響きます。

■各人が卒業に注入したエネルギーやコンセプト、それはこれから的人生の種。そして大切に育て続けることが最も重要！

■長丁場ですが学生達と対話することで刺激をもらいながら楽しく、作品を見る事ができました。特に高校生の作品はどれもキラキラしていて感動しました。

■初めて審査を担当しました。構造専門領域を飛び出し、建築設計の世界に飛び出す若者に触れることができ幸せでした。



船橋Sビル (2016.8竣工)



高輪子ども中高生プラザ※ (2011.10竣工)



Hachiman-Complex
Duplex-House



深谷市新庁舎プロポーザル特定案 (2019年度完成予定)



柏崎市新庁舎プロポーザル特定案 (2019年度完成予定)



アイシンAW技術センター



真間の家

月島計画
フジタ本社ビル
周西中学校屋内運動場
文化服装学院・文化女子大学校舎

審査委員



みながわ たく

皆川 拓

出向元：なの花会
1984 埼玉県川口市生まれ / 2007 第 19 回千葉県建築学生賞出展（最優秀賞）/ 千葉大学工学部デザイン工学科 卒業 / 2010 千葉大学大学院工学研究科 修了 RCR Arquitectes (Spain) にて研修 / 2011～AE5 Partners (2016 よりパートナー) / 2014～個人でのデザイン活動
AE5 Partners での主な担当物件 - Terrazze Niseko / 土屋鞆製造所横浜店 / Brilliance+ 大阪、個人でのデザイン活動 - オートサロン 2015 RENAULT JP ブース、Negroni Office + Showroom

■卒業設計は一つのステップ、ここで向き合つたことは今後の建築人生における大きなテーマとなります。今後の皆さんの活躍を期待しています。

□ AE5 Partners での主な担当物件



審査委員



にしやま めい

西山 芽衣

出向元：なの花会
1989 群馬県沼田市生まれ / 2012 第 24 回千葉県建築学生賞出展（特別賞）/ 千葉大学工学部建築学科 卒業 / 2012～株北山創造研究所 / 2015～株マイキー
HELLOGARDEN (2016 年グッドデザイン賞受賞、第 2 回まちなか広場賞特別賞受賞)、西千葉工作室

■卒業設計という長く、苦しく、そして楽しい戦い、本当に疲れ様でした。
みなさんの熱意や学生ならではの視点に触れ、私自身もたくさん勉強させていただきました。

審査コーディネーター



せきや かずのり

関谷 和則

出向元：なの花会
1971 群馬県生まれ / 1994 日本大学理工学部海洋建築工学科 卒業 / 1996 日本大学理工学部大学院修了 / 1996 竹中工務店入社 / 現在 東京本店設計部。
東京建築賞 東京都知事賞（代沢レジデンス）、グッドデザイン賞（代沢レジデンス）、中部建築賞（養命酒健康の森 記念館）、BELCA 賞（養命酒健康の森 記念館）、日事連建築賞 優秀賞（養命酒健康の森 記念館）、グッドデザイン賞（養命酒健康の森 記念館）、日経ニューオフィス賞（日本橋フロンティ）、グッドデザイン賞（くらすわ）、北陸建築文化賞（くらすわ）、日本サインデザイン賞 優秀賞（新宿東宝ビル）、グッドデザイン賞（新宿東宝ビル）

■公開審査を通じて、沢山の学びがあったと思います。8名の審査委員からいただいたヒントを活かし、作品の完成度をあげてください。
出展学生の皆さんご活躍を期待しております。

アンケート（総合）

1. どちらからいらっしゃいましたか？	千葉市内	千葉県内	その他の地域	(無記入)					
	73	46	10	0					
2. 以前よりこの学生賞を知っていましたか？	見た事がある	初めて見た	知らなかった	(無記入)					
	56	21	47	5					
3. 学生賞をどこで知りましたか？	ポスター	チラシ	広報誌	新聞	学校からの薦め	会場にて偶然	その他	(無記入)	
	16	2	5	7	25	29	35	10	
4. ご職業をおしえてください	建築関係	その他の業種	主婦	大学生	高校生	中学生	小学生	その他	(無記入)
	30	24	12	36	11	0	0	12	4
5-1. 性別をおしえてください	男	女	(無記入)						
	73	35	21						
5-2. 年齢をおしえてください	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	(無記入)
	0	16	39	9	16	17	20	8	4

(その他の市民の声)

- 初日の早い時間だと、全部の作品を見ることができなくて残念でした。（大学 8、14 と高校 3,4,5,6）
- どれを見てもすべてに心がこもって細かなところに手が行き届いている。もっとおおらかさがあつてもいいと思うくらいだ。それにしても現在の世打ちのめすような若者の姿をあらわすようで美しい。未来の宇宙もこのようになれば、、、
- まだ作品準備中だったので全部拝見できませんでした。
- 問題点の解決策としての建築デザインが個性豊かで素敵だった。
- 建築物のことは分かりませんが、色々なことを考えながら街づくりをされていることが分かりました。
- とてもあかるいね 広い道 トイレの中にきれい 新しい家ですね 勉強一生懸命がんばってあります。新しい強いですね。
- どれも発想が豊かで見ていて楽しいです。
- 各作品の場に作者（又は同校生）がいて、作品の解説をしていただくとよく主旨がわかつたためになり、面白かったです。
- 展示に工夫がほしい。（せっかく良い作品があるのに。）
- 説明者があまりいなかったのが残念
- 説明文、ポスターの文字が小さい。（展示物が大き過ぎる。）説明する掲示板の数（枚数）を統一すると見やすい。
- 地震と津波に耐えられる戸建て住宅を考案してもらいたい。
- 展示物の順番がわかりにくい。
- せっかくの作品が風で飛んでしまっていた。
- 力作が多いが、卒業制作ということで、テーマが一貫してあるわけではないので、優劣ではなく、好きなものというで選びました。
- どの作品も創造性に溢れていて、とても面白かったです。
- いろんなタイプがあっておもしろかった。
- どれも大学生が考えたとは思えない作品で素晴らしい。このまま、自由な発想でいい建築家へせいちょうしてください。
- ボードも見やすいように模型とボードに入れる隙間を作つてほしい。
- 配置やアンケート記入席もあり、スペースの有効活用ができていて良いとも思います。
- 入口から風が入り、大切な模型への影響が危惧される。
- どの作品も完成度が高く感動しました。
- 各ブースのポスターは文字が小さいので近くで見やすいブース設置を工夫してはいかがでしょうか？プレゼンのスクリーンは複数あればありがたいです。
- マイク、スピーカーの調整が悪く聞き取りづらいので、次回から改善してほしいです。
- 発表が早口になってしまつていて聞き取りづらい。発表する人をバラバラに座らせるのではなく、前の方に集めて後ろをあけたり、椅子を密集させないことで、人が座ってくれると思う。
- 少し狭い。
- 未来を生きる若者に期待する。
- スクリーンが見にくかった。模型の展示は見やすく、勉強になった。
- 公共スペースの1階入り口アトリウムで開催されていることがとても良いと思います。一般の方も自由に見ておられるので建築のプロモーションとして効果的であろうと思います。
- 展示されたパネルの文字の大きさがまちまちで、中には位置の都合で全く読めないものもあった。フォントや文字サイズを主催者側で規定すべきではないだろうか？説明する紙・パネルを見学者が持ち帰られるよう印刷して置いておけば、それを見ながら模型を観察出来ると思う。
- マイクの音が拡散しそぎている。スライドが見にくく。
- 不利な配置があるのでですが、トークセッションはとても勉強になりました。その点は来て良かったです。
- マイクの音、スライドの明るさ、展示物のレイアウトが改善できると思いました。

第 29 回
千葉県建築学生賞協議会

スケジュール

全体会議 第 1 回全体会議 2016.09.23

第 2 回全体会議 2016.09.23

第 3 回全体会議 2016.09.23

第 4 回全体会議 2016.09.23

第 5 回全体会議 2016.09.23

作品受入 2017.02.24 10:00-13:00

会場設営 2017.03.09

展示 2017.03.10-03.12

公開審査 2017.03.11

表彰式 2017.03.12

会場撤収 2017.03.12

協賛

西松建設株式会社	540-8518	大阪市中央区鈴町 2-4-7
(一社) 日本建築構造技術者協会 J S C A 千葉	260-0013	千葉市中央区中央 3-17-1-1011
三協立山株式会社三協アルミ社	261-0023	千葉市美浜区中瀬 1-7-1 幕張テクノガーデン B 棟 20 階
㈱鈴木ユニット	262-0012	千葉市花見川区千種町 241-11
総合資格学院	273-0005	船橋市本町 5-4-2 森ビル 6 階
有限会社佐藤建基	262-0019	千葉市花見川区朝日ヶ丘 4-11-5
㈲巴工業	130-0002	東京都墨田区糸平 1-9-4
㈱桑田建築設計事務所	261-0001	千葉市美浜区幸町 1-2-2 桑田ビル内
千葉県建設防水工事業協同組合	260-0013	千葉市中央区中央 4-14-1 千葉不動産ビル 2 階
株式会社千葉県建築住宅センター	260-0013	千葉市中央区中央 4-8-5 建築会館 2 F
日本 E R I 株式会社	260-0028	千葉市中央区新町 3-13 千葉 TN ビル 3F
株式会社レスト	167-0043	杉並区上荻 1-5-8 直長ビル 4F
三和シヤッター工業株式会社	260-0843	千葉市中央区末広 4-1-9-1-6
㈱建築資料研究社 / 日建学院	260-0032	千葉市中央区登戸 1-2-20
日本ファイリング株式会社	101-0062	東京都千代田区神田駿河台 3-2 新お茶ノ水アーバンビル 8 F
児玉コンクリート工業株式会社	171-0022	東京都豊島区南池袋 1-16-20
有限公司松原組	344-0022	埼玉県春日部市大畑 9 日神バレッジ 112
武藤工業株式会社	154-8560	世田谷区池尻 3-1-3
藤井産業株式会社	277-0861	柏市高田 1113-1
㈱山本工業	277-0033	柏市藤心 963-3
塙本總業株式会社	260-0005	千葉市中央区富士見 2-3-1
株式会社岡村製作所	260-0027	千葉市中央区新田町 1-1
コクヨマーケティング株式会社	260-0045	千葉市中央区弁天 1-15-1 細川ビル 4F
株式会社日立ビルシステム	260-0031	千葉市中央区新千葉 1-4-3 WESTRIOT 千葉オフィス棟 6 階
協同組合 千葉県鐵骨工業会	260-0031	千葉市中央区新千葉 2-1-6 第一石橋ビル 3 階
千葉県室内装飾事業協同組合	260-0014	千葉市中央区本千葉町 10-25 DIK マンション 703
株式会社千葉測器	260-8567	千葉市中央区都町 2-19-3
一般社団法人千葉県建設業協会	260-0024	千葉市中央区中央港 1-13-1 建設業セタ 5 F
㈲荒井設計事務所	299-1152	君津市久保 4-4-20
株式会社丸昭建材	277-0861	柏市高田 1116-32
㈱磯積算	339-0074	さいたま市岩槻区大学本宿 2-3-2 番地
日章興機	263-0043	千葉市稲毛区小仲台 6-18-1-406
日本ベース株式会社	116-2351	東京都荒川区西尾久 4-22-6
フルテック株式会社	264-0028	千葉市若葉区桜木 6-13-2
日軽パネルシステム株式会社	260-0028	千葉市中央区新町 18-14 千葉新町ビル 5 F
㈱メント	132-0021	東京都江戸川区中央 3-5-5
株式会社ブルーテクノ	273-0046	千葉県船橋市上山町 3-5-1-4-8
株式会社角藤	260-0031	千葉市中央区新千葉 2-7-2
株式会社国際技術コンサルタント	272-0035	市川市新田 5-4-4
(株)イトーキ	260-0013	千葉市中央区中央 1-1-1-1
立川ブライド工業株式会社 千葉店	260-0044	千葉市中央区松波 2-8-1
T O T O	263-0016	千葉市稲毛区天台 1-5-5
東リ株式会社千葉営業所	260-0843	千葉市中央区末広 4-1-8-1
リリカラ株式会社	275-0023	千葉市花見川区幕張本郷 5-2-11 アトレ幕張 101
ユーディーアイ確認検査株式会社	260-0026	千葉市中央区千葉港 2-1 千葉中央コミュニティセンター 10 F
(有)ミノル商事	260-0001	千葉市中央区都町 1-9-2 草薙ビル
㈱須藤黒板製作所	132-0035	江戸川区平井 7-17-35
㈱青井黒板製作所	165-0026	東京都中野区新井 1-1-5
株式会社技研基礎	260-0843	千葉市中央区木広 5-8-6
孝和建商株式会社	260-0034	千葉市中央区汐見丘 1-6-1-2
株式会社恩田商工	260-0023	千葉市中央区出洲港 9-1-0
㈱千興商事	264-0003	千葉市若葉区千城台南 4-11-5
株式会社 LIXIL 千葉支社	260-0842	千葉市中央区南町 3-2-13
ディックブルーフィング株式会社	151-0053	東京都渋谷区代々木 3-24-3 新宿スリーケービル 5F
前田製管㈱千葉支店	260-0007	千葉市中央区祐光 4-7-10
日本高压コンクリート株式会社 千葉営業所	260-0021	千葉市中央区新宿 2-1-20
株式会社セキノ興産	267-0055	千葉市緑区越智町 747-21
文化シャッター株式会社	264-0025	千葉市若葉区都賀 3-33-23
㈱格設計	262-0024	千葉市花見川区浪花町 531-1
㈱がもう設計事務所	274-0815	船橋市習志野 3-26-8 ファインコート習志野 2B
㈱サンゲツ	261-8501	千葉市美浜区中瀬 1-3 幕張ケガーデン D 棟 7F
昭和フロント㈱	260-0843	千葉市中央区末広 4-19-16
田島メタルワーク株式会社	170-0013	東京都豊島区東池袋 4-41-24 東池袋ヒタチビル 3 F
昭和建産株式会社	370-0603	群馬県邑楽郡邑楽町中野 1453
三和タジマ㈱	171-0014	東京都豊島区池袋 2-77-5 フォーラムアイエスピル 1 F
ロンシール工業㈱	130-8570	東京都墨田区綾 4-15-3
田島ルーフィング株式会社	260-0032	千葉市中央区登戸 1-26-1 朝日生命千葉登戸ビル 9 F
コニシ株式会社	260-0044	千葉市中央区松波 2-13-20 オフィス松波
浜田商事㈱	160-0022	東京都新宿区新宿 5-15-1
明智 克夫		

主催者団体

"わたしたちは、千葉の建築学生を応援しています。"

(公社) 日本建築家協会 (JIA) 千葉地域会

Tel: 043-225-7881

建築の設計監理を行う千葉県内の建築家の団体。会員は、日本建築家協会の会員。専業建築設計事務所の主宰者、共同者、所属員、官公庁、学校等に所属する建築家。

(公社) 千葉県建築土事務所協会

Tel: 043-224-1640

建築土法により開設された建築土事務所の団体。会員は、建築設計事務所、建設会社の設計事務所、工務店設計事務所、不動産会社設計事務所、プレハブ業建築設計事務所等。

(一社) 千葉県建築土会

Tel: 043-202-2100

建築土法により設立された一級建築士、二級建築士、木造建築士の団体。会員は、建設業、設計事務所、工務店、官公庁、学校、建材業、不動産業、プレハブ業に勤務する建築士。

(一社) 日本建築学会 関東支部 千葉支所

Tel: 043-202-2100

建築に関する学術・技術・芸術の促進発展を目的とする法人。全国に 9 支部 36 支所。会員は、研究教育機関、設計事務所、建設業、官公庁、公社公団、メーカー、コンサルタント、学生等多岐にわたる。

企画・発行

千葉県建築学生賞協議会

会長	神成 健
審査委員長	中野 正也
副審査委員長	小島 広行
審査委員	鳴海 雅人・安田 俊也・飯沼 竹一・園部 隆夫
審査コーディネーター	皆川 拓・西山 芽衣
得点表示委員会	伊藤 哲也・佐々木 達郎
作品受入委員会	佐久間 達也・田端 友康・萩原 錦・大岩 義充
広報委員会	古里 正・蒲生 良隆・柳田 富士雄・森田 敬介・安達 文宏
会場委員会	磯野 智由・井桁 正昭・星野 治・加藤 文男・渡邊 哲夫
表彰式委員会	渡邊 哲夫・海老原 智子・桑田 浩司・遠藤 啓史・佐倉 桂
編集委員会	田端 友康・栗本 克巳・岡田 学
市民賞アンケート委員会	鈴木 雄介・星野 治・河原 泰
JIA 出展委員会	森田 敬介
高校委員会	林 祐介・高旨 清仁・徳野 淳哉・田中 和栄・石井 和
泉田 ひろみ	泉田 ひろみ
ボスター・チラシ委員会	曾根岡 拓路
協賛委員会	鈴木 周二・鈴木 克則・坂本 浩史・山田 紀夫・井手 剛
交流委員会	平宅 武司・鈴木 克則
オブザーバー	寺川 典秀・柳田 富士雄・森田 敬介・飯島 茂信
アドバイザー	星野 治・古里 正・安達 文宏
執行委員会	柳田 富士雄・森田 敬介・星野 治・古里 正・大岩 義充
歴代会長会	明智 克夫・清水 怡・麓佳 正・櫻井 修・宇野 武夫
事務局	公益社団法人日本建築家協会千葉地域会 矢内美恵
	〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央 4-8-5 建築会館 5F
	TEL 043-225-7881